

弘前市都市計画マスタープラン

地域別構想

(2013～2018 年度版)

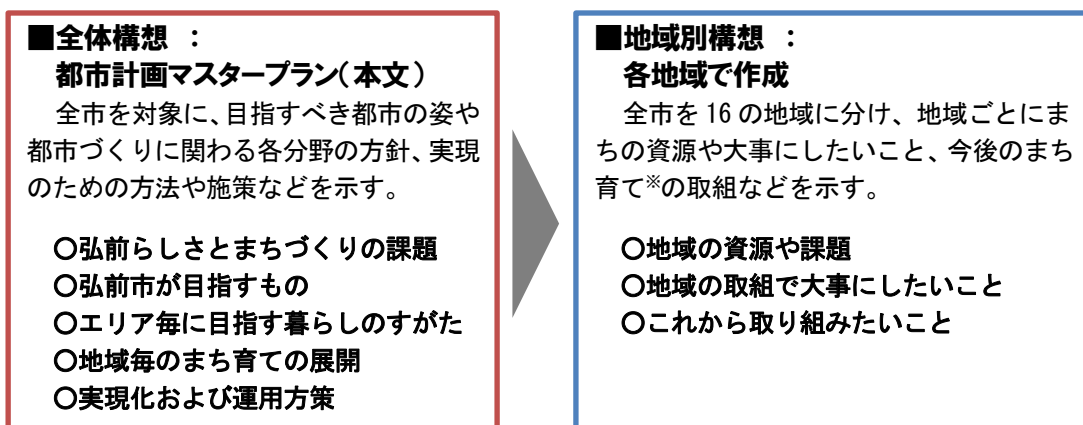


令和元年5月作成

1. 都市計画マスタープランとは

都市計画マスタープランは、目指すべき都市の姿とその実現に向けた取組の方向性を示すもので、今後の新しい都市づくりの指針となるものです。

弘前市は、「暮らしを楽しめるまち」を目指す都市の姿として、2014年度（平成26年度）に都市計画マスタープランを策定しています。全市を対象に、目指すべき都市の姿とその実現のための都市づくりの方針、それらを具体的に実現していくための方法や取組などを示した「全体構想」と、全市を16の地域に分け、各地域の資源や大事にしたいこと、今後のまちづくりの取組などを示した「地域別構想」の2段階で構成しています。



※まち育て

まちの様々なことを学び、考えながら、自分たちでできることから、よりよいまちづくりを目指そうとする継続的な取り組みです。市民と行政と一緒に地域の将来について考えていく協働によるまちづくりを行っていきます。

2. 地域別構想の考え方

今までの人口増加社会から人口減少社会となった現在、少子高齢化や後継者不足など、地域コミュニティ・地域活動の衰退が懸念される中で、成熟した持続可能な真都市となるためには、地域力をより向上させていくことが重要です。

地域別構想は、全体的な弘前市のまちづくり構想を元に、地域別の特色を活かした構想を策定し、実践に繋げ、さらには次世代へも継承していける仕組みを作ることを目指しています。

(1) 基本的な考え方

地域のまち育ては、計画づくりだけでなく、住民による実践こそが重要であり、そのため、計画を策定しながら実践し、まち育ての営みとして継続させていくことが重要です。

以上を踏まえて、地域別構想の策定について以下の考え方で実施しました。

1. 地域のまち育ては計画の作成から実践まで継続的に続けていくことが重要であり、そのようなプロセスを設定します
2. 計画の作成と市民の参加には一定の時間をかけ、住民が自ら作成し実践する地域のアクションプランとして責任をもてるような丁寧でわかりやすいプロセスとします。
3. 地域特性や地域の実情に合わせて、柔軟に対応し、全地区を一律に進めるのではなく、各地区のペースに合わせて順次策定するとともに、状況の変化により随時見直しを行います。



地域別構想は、住民が主体となった地域のまち育てを展開していくための「手法」であり、地域の「将来ビジョン」を示すとともに、地域別構想の策定プロセスを、住民主体のまち育ての担い手（人材）の発掘とまち育ての本格的な始動のためのきっかけとしていきます。

（2）地域別構想の単位

地域別構想は、市民の皆さんが生活する身近な範囲におけるまち育てのあり方を示すものであることから、なじみの深い「学区」、それも中学校区の単位（16 地域）で作成しました。

<地域別構想のテーマ>

- ①子供たちにとって暮らしやすい環境の創造
- ②子供たちが将来帰って来たくなる地域の創造
- ③お年寄りが安心して住み続けられる生活サポートの提供

<作成年度>

年度	実施地区
2013 年度（平成 25 年度）	第一中学校区、相馬中学校区
2014 年度（平成 26 年度）	第二中学校区、津軽中学校区、常盤野中学校区
2015 年度（平成 27 年度）	第三中学校区、東目屋中学校区、裾野中学校区
2016 年度（平成 28 年度）	第四中学校区、石川中学校区、新和中学校区
2017 年度（平成 29 年度）	第五中学校区、船沢中学校区、南中学校区
2018 年度（平成 30 年度）	東中学校区、北辰中学校区

3. 地域別構想作成の作成

地域別構想の作成には、身近な地域の特性・特色を活かしたまちづくりについて考える「まち育てミーティング」というワークショップを通して、地域の資源を活かしながら住まい環境をより良いものにしていくために、具体的にどんな取組が必要で、どうしたら実現できるのかを地域住民・関係者・行政と一緒に検討しました。

まち育てミーティングは全16地域でそれぞれ3回開催し、いただいた意見やアイデアをまとめ、地域別構想を作成しました。

(1) 内容

①地域の特徴（自慢、大切なもの、気になること）の検討

地域の身近な暮らしの環境や地域の特徴について認識を深め、自分たちの生活する地域のまちづくりについて考えます。

②地域マップ、まちづくりプロジェクトリストの作成

検討の内容を整理し、地域の自慢マップ（地域の特徴や資源を示した地図）、今後取り組みたいまちづくりの内容を並べたプロジェクトリストを作成します。

③特に取り組みたいもの、実現可能性が高いものの実践

特に取り組みたいもの等を実践に結び付けていくことを想定しています。

(2) 検討の流れ

第1回：地域の自慢を出し合い、地域の特徴を考える

○主な検討内容

地域の自慢できること、気になっていること（心配事）、取り組んでみたいこと、ご自身や地域で取り組んでいることを出し合い、地域の身近な暮らしの環境や特徴について認識を深めます。

⇒例：歴史、文化、風景・景観、自然、環境、コミュニティ、食、伝統芸能など

第2回：地域の自慢を磨き、地域の特徴を生かしたまちづくりについて考える

○主な検討内容

自分たちの生活する地域の自慢や特徴を活かし、磨きながら、地域の住まい環境をさらに良くしていくためにどんな取組ができるか考えます。

⇒様々な人の視点に立ち、具体的なアイデアを出し合う

第3回：まちづくりの最初の一步を考える

○主な検討内容

第1回、第2回の検討を踏まえ、まず実現可能性の高いものや特に取り組んでいきたい取組を挙げ、実際に進めていくにはどうしたらよいかを考えます。

⇒どのような組織で検討していくか（町会やNPO、ボランティア団体、その他）

⇒活躍してくれそうな地域の組織や人材は

⇒行政、大学、専門家などに支援してもらいたいことは

地域別構想 一覧

(2013～2018 年度版)

作成年度

年度	実施地区
2013 年度（平成 25 年度）	第一中学校区、相馬中学校区
2014 年度（平成 26 年度）	第二中学校区、津軽中学校区、常盤野中学校区
2015 年度（平成 27 年度）	第三中学校区、東目屋中学校区、裾野中学校区
2016 年度（平成 28 年度）	第四中学校区、石川中学校区、新和中学校区
2017 年度（平成 29 年度）	第五中学校区、船沢中学校区、南中学校区
2018 年度（平成 30 年度）	東中学校区、北辰中学校区

- ※ 地域別構想の内容は、各地域の作成年度時点のものとなります。
地域の取組の進捗、街並みの変化などにより、掲載内容と異なる点がございましたが、ご了承ください。

2013 年度（平成 25 年度）

第一中学校区

地域の取組みで大事にしたいこと

城東小学校地区では、“自分たちでやれることは自分たちで”の精神で、祭りやイベント・行事などの企画・運営、地域の見守り活動（城東小声かけ隊）や環境づくり（土淵川水辺サポーター、花だんづくり）に取り組んできました。これらの取組みを継続するためには、“地域活動の担い手・仕掛け人が不足している”ことや、“町会単位では難しいことも出てきている”ことが課題として確認されました。

隣近所のわからないような地区にせず、昔ながらのことや地域の歴史・文化は伝えて、残していきたいという思いを次世代にも伝えていくために大事にしたいこととして次のことが挙げられました。

- ①各町会の取組みを子どもたちを通して広めていきたい
- ②地域を担う多主体（町会・PTA・小学校・農家・婦人会・消防団など）の連携・協力が不可欠
- ③これまで地域で行われてきた活動をベースに強化・積み重ねていく

これから取組みたいこと（暮らしがより楽しめる地域にしていくために）

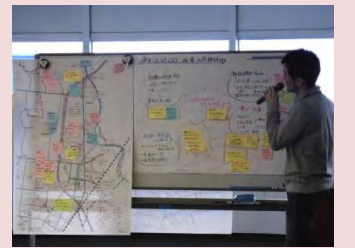
◎=優先度が高い取組 ○=地域ですすでに行われている活動をベースにした取組

テーマ	取組み	具体的に何をするか？	優先度	誰がやるか？
づくり	活動の受け皿となる組織づくり	既存の組織（小学校の後援会など）を活用して、町会や組織を超えて集まって語り合える場づくり	◎	住民、町会、後援会、小学校、PTAなど
地域の自慢をPR	町会・地域のホームページづくり	地域情報（名所、祭り、イベント、活動）などを地区内外に向けて発信する		
	名所案内サイン・看板づくり	地区内の名所や岩木山へのビュースポットを紹介する看板、案内板づくり		
	特産物のPR	美味しい地元の特産物をPRする場づくり（トラック市や他のイベントを同時開催からはじめる）		農家と町会、小学校などが連携して実施
花のまちづくり	桜並木(7号沿道)を楽しめる場づくり	自慢の桜を地区内外の人に楽しんでもらうため、桜並木沿い遊歩道やトイレの整備、イベントの開催などを行う		市と住民、町会が連携して実施
	7号百田交差点花壇づくりを継続	何十年も続けてきた地区入口を彩る花壇づくりを継続する	○	老人会
	地区全体で花壇づくり	百田、津賀野町会で行っている花壇づくりを城東地区に広める	○	町会で連携して実施
通学路・道づくり	城東小声かけ隊	小学校の通学・帰宅時の見守り活動を地域で連携して行う	○	PTA、町会、公民館など（1%活用も視野に）
	歩道や街灯がない箇所の改善	歩道や街灯がなく交通安全上、危険な箇所の改善	○	市と町会が連携して実施
	バスルートの利便性の向上	中学校への冬季の通学を考えると、もう少し便利になるとよい		市
	土淵川の水辺サポート	土淵川沿いの夏場の草刈り・ごみ拾いを実施	○	農家と町会が連携して実施
	スクラム除雪	小学校を通過する子どもたちのために冬休みが明けの前に協力して除雪を実施（自分の家の前は自分で！の精神）	○	
	祭り・イベント	ねぶた祭り・お山参詣を地域で盛り上げる	○	撫牛子町会中心で行っているが、広く地域の子どもちに参加してもらい、伝統の祭りを伝えていきたい
	大久保の夏祭りをみんなで楽しむ	○	ニュータウン大久保の夏祭りは子どもたちを中心に毎年盛り上がっているため、地域全体で楽しめる祭りしていきたい	
	町会持ち回りで餅つき	○	餅つきは誰でも楽しめるものなので、道具を持ち回りして各町会で行う	
その他	地域活動の担い手を育てる	関心が少ない人などをうまく巻き込んでいきたい	◎	

城東小学校地区

地域を自分たちの暮らすまちとして、皆で協力して、守り、育てていくため、弘前市では、「まち育て」という考え方のもと、市民の自主的な活動への支援や、各種計画の策定や事業実施における市民参加を進めています。

この地域別構想は、地域別の懇談会を通して地域にお住まいの皆さまの生のご意見をいただくとともに、地域の資源を活かしながら、住まい環境をより良いものにしていくために、具体的にどんな取組が必要か、どうしたら実現できるのかを皆様と考えながら作成されました。

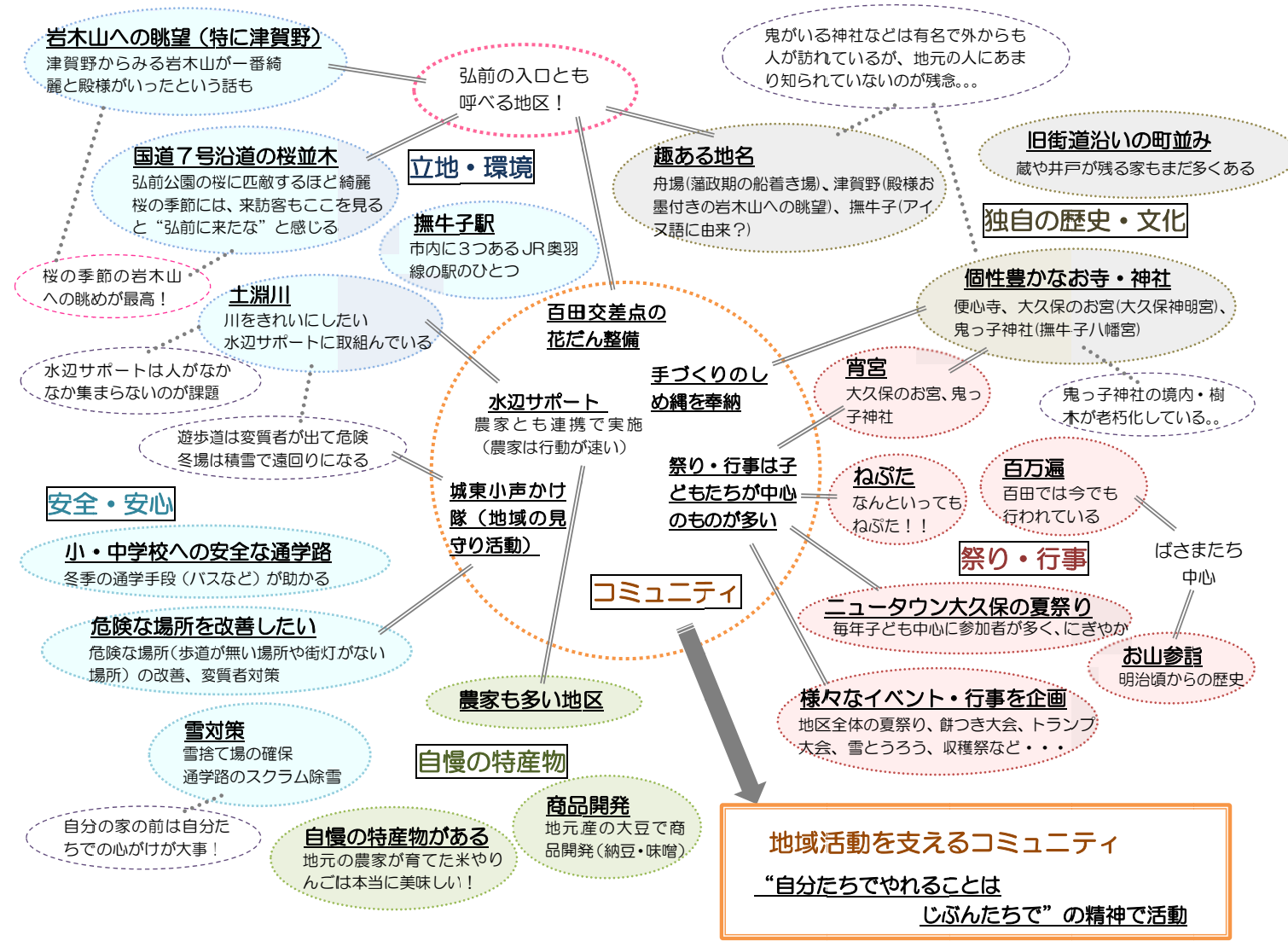


懇談会の様子

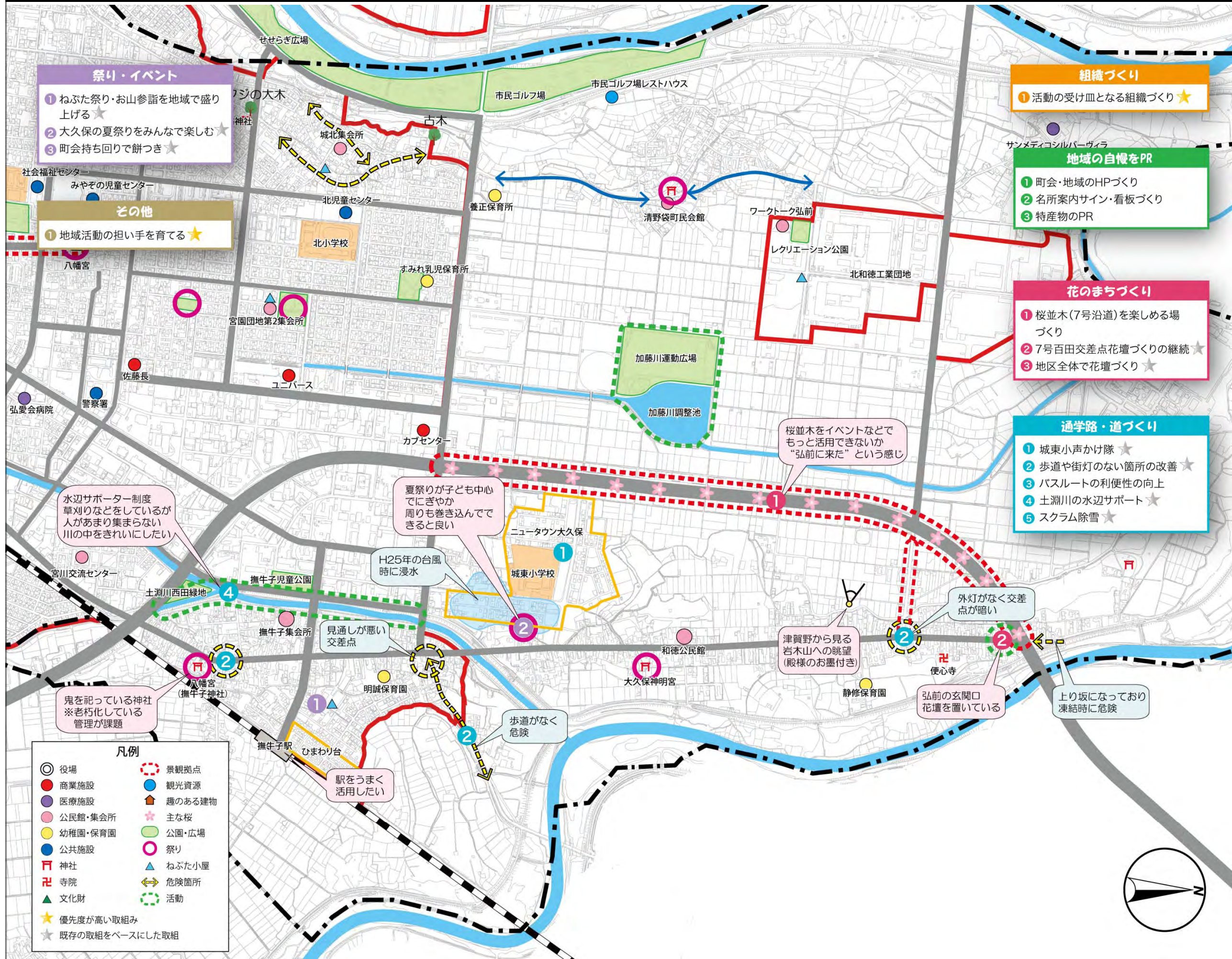
○懇談会における検討の流れ

- 第1回** 地域の自慢を出し合い、地域の特徴を考えよう
- 第2回** 地域の自慢を磨き、地域の特徴を生かしたまちづくりについて考えよう！
- 第3回** まちづくりの最初の一步を考えよう！

城東小学校地区の価値観（地域の特徴や大事にしたいことは何か？）



城東小学校地区の資源マップ（地域の自慢や課題はどこにあるか？）



岩木山への眺望（津賀野から）



国道7号百田交差点の桜並木



撫牛子八幡宮（鬼コ神社）



大久保神明宮（大久保のお宮）



JR 奥羽線撫牛子駅



撫牛子子ども会のねぶた

地域の取組みで大事にしたいこと

北小学校区では、スーパーや病院が充実し車での移動もしやすいなど生活の利便性が高いこと、地区の半分は農村地帯で近くに岩木川が流れているなど自然環境が豊かであること、各地域で祭りやイベントが開催されていることなど、基本的にたいへん生活しやすいまちであることが確認されました。また、コミュニティ会議の活動が活発で、コミュニティ会議を中心に地域に一体感があることも大きな特徴です。

一方で、全体として高齢化や少子化が進んでおり、子どもの行事や町会活動の維持が難しくなってきたことが問題となっています。その背景として、移り住みたい人のための住宅の少なさも指摘されました。

このようなことから、次の3つを大事にして今後の地域の取組みを進めていきます。

- ①子どもを減らさない、子どもが戻ってくるためのまちづくりを考えたい
- ②岩木川という大きな資源を活用して、地域の魅力を高めていきたい
- ③現在のコミュニティ会議を生かしながら、まちづくりを進めていきたい

これから取組みたいこと（暮らしがより楽しめる地域にしていくために）

テーマ	取組み	具体的に何をするか？	優先度	誰がやるか？
岩木川の活用	ジョギングルートの整備	岩木川沿いや加藤川沿いの歩道をジョギングや散歩のしやすい道として整備。市民ゴルフ場周辺で新規ルートの設定	◎	行政、コミュニティ会議、住民、子ども
	岩木川沿いや加藤川沿いでウォーキング	健康増進のため、目標距離を決めてウォーキング（コミュニティ会議で検討中）	◎	コミュニティ会議、住民
	市民ゴルフ場を生かした拠点づくり	市民ゴルフ場やレストハウスを開放してもらい、ジョギング・サイクリングの拠点や冬期の遊び場として活用	◎	行政、住民
	クワガタ取りの林づくり	H25年の台風で荒れてしまった雑木林の片付け、散歩道の整備など	◎	行政、住民、子ども
	釣りをしやすい環境づくり	漁業権の緩和で、特定の場所では自由に釣りができるようにする	○	漁業組合
	わかりやすいサインの整備	〇〇まで△△Kmなど、ジョギング時等に役立つサインづくり	△	町会、住民
子どもの育成	地域ぐるみの学校への関わり	北学校の授業に地域の親たちが参加して、得意分野を教えるなど	○	PTA、住民
	子どもと一緒に遊び場づくり	公園の再整備や遊び場づくりなどの機会をとらえ、話し合いの場に子どもも参加させる	○	行政、町会、住民、子ども
	通勤通学時の見守りや防犯のパトロール	地域住民が小学生の登下校の見守りや防犯パトロール活動を実施（すでに実施中）	△	コミュニティ会議
イベント	もちつき大会、宵宮、夏祭りなどの開催	各地区で祭りやイベントを開催（すでに実施中）	△	町会、子ども
	地区対抗運動会	各地区が一堂に会して運動会（すでに実施中）	○	町会
防犯	健康づくりを兼ねた防犯パトロール	防犯パトロールで長距離歩くことで健康増進	△	町会

北小学校区

地域を自分たちの暮らすまちとして、皆で協力して、守り、育てていくため、弘前市では、「まち育て」という考え方のもと、市民の自主的な活動への支援や、各種計画の策定や事業実施における市民参加を進めています。

この地域別構想は、地域別の懇談会を通して地域にお住まいの皆さまの生のご意見をいただくとともに、地域の資源を活かしながら、住まい環境をより良いものにしていくために、具体的にどんな取組が必要か、どうしたら実現できるのかを皆様と考えながら作成されました。



○懇談会における検討の流れ

第1回

地域の自慢を出し合い、地域の特徴を考えよう

第2回

地域の自慢を磨き、地域の特徴を生かしたまちづくりについて考えよう！

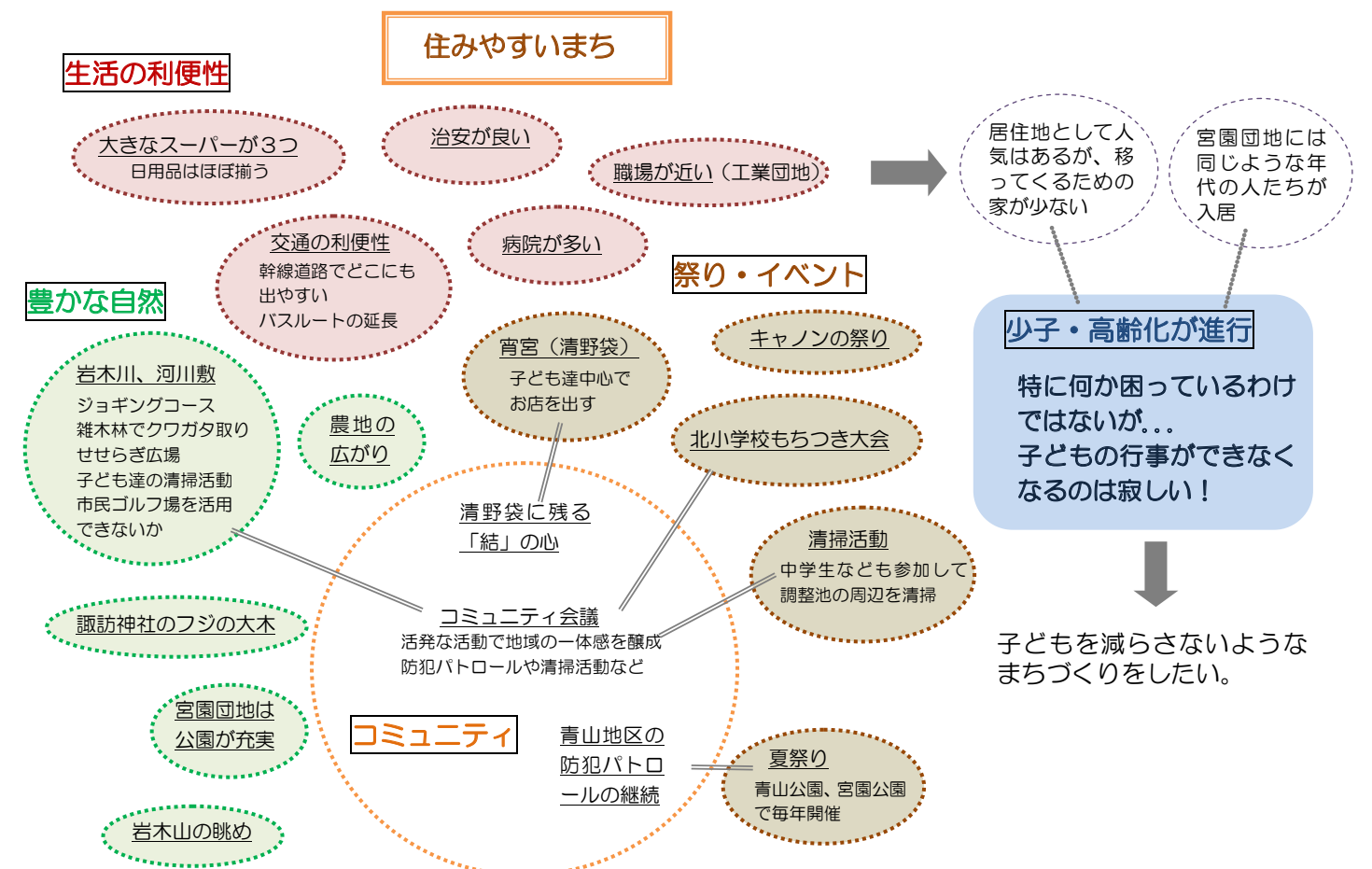
第3回

まちづくりの最初の一步を考えよう！



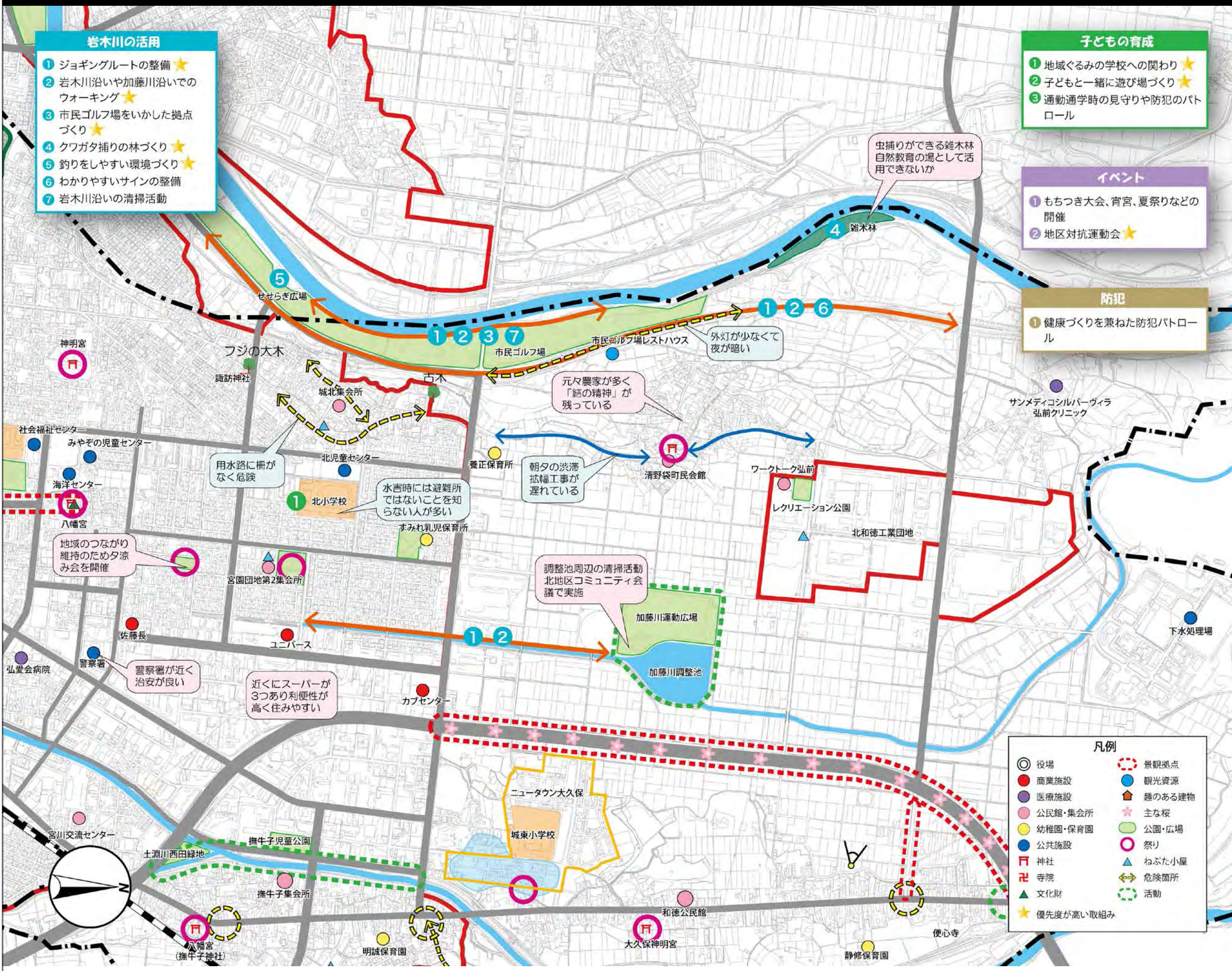
懇談会の様子

北小学校区の価値観（地域の特徴や大事にしたいことは何か？）



子どもを減らさないようなまちづくりをしたい。

北小学校区の資源マップ（地域の自慢や課題はどこにあるか？）



岩木川の雑木林



加藤川調整池



清野袋の神社



諏訪神社・フジの大木



青山公園



清掃活動の様子（せせらぎ広場）

地域の取組みで大事にしたいこと

時敏・和徳小学校地区では、弘前発祥の地で歴史や文化の重なるコミュニティの強いまちであること、まちなかに近く便利で快適なまちであること、子供たちにとっても住みやすい環境があることを活かして、これからも若い世代にとって住みやすいまちづくりを進めていきたいということが確認されました。

一方で、通学路の安全性の問題（雪の時期や夜道、車など）や市街地の火事の危険性の問題、地区の一部には買い物の不便な地区があることなどの課題も挙げられました。また地区の中央を流れる土淵川や弘前公園、児童館や交通公園など、地区内の様々な資源をもっと活かしていきたいという話がありました。このようなことから、次の3つを大事にして今後の地域の取組みを進めていきます。

- ①若い世代や子供たちが住みやすいまちにするための取組みを考えたい
- ②地域の資源をもっと活用するため、できる取組みから進めていきたい
- ③町会や学校、PTA、NPOなどの連携を深め、「交流」を生む取組みを進めたい

これから取組みたいこと（暮らしがより楽しめる地域にしていくために）

テーマ	取組み	具体的に何をするか？	優先度	誰がやるか？
公園活用	公園を周回する歩道づくり	弘前公園外周遊歩道の整備	○	市
	フィールドアスレチックラリー	遊歩道を使ってフィールドアスレチックラリーを開催	△	
	弘前公園で駅伝大会	公園を使った駅伝大会	△	
川づくり	地域で協力した川づくり	川治いを楽しく歩け、子供たちが川遊びをできるように、ベンチの設置や草刈りを実施	△	
	川を使った探検イベント	地区の子供たちと環境教育も兼ねた川遊びを実施	△	
	花壇の再植樹と管理の仕組みづくり	管理方法・主体も含めて検討	○	沿川地区住民
	小魚の放流と鑑賞会・散歩会	小魚を放流し、大きくなった頃に鑑賞と勉強を実施	○	住民、NPO、専門家など
	川の清掃・管理の年間計画	合理的に管理するための計画づくり	○	流域町会と外の町会が連携して実施
	土淵川ウォーキング	町会、PTAが中学生と上流までの遠距離をウォーキング	△	町会、PTA
	環境NPOによる河川環境調査	水質、生態等調査	△	NPO
施設活用	児童館の地域運営	児童館の運営を地域に委託し、多様な地域活動に柔軟に対応できる場にする	△	
	学校空き教室を「交流室」として活用	空き教室を交流室に改造し、地域で運営する	△	
	空き地・空き家対策	空き地・空き家の有効活用の検討	△	各町会
環境整備	砂利道の舗装	砂利道の舗装	△	関係町会
	神明宮の敷地の環境整備	親子で楽しめる空間にするための敷地の整備	◎	
	和徳町通いにおけるイルミネーション	沿道にイルミネーションを設置	△	町会（1%活用）
人材育成	ボランティアの登録	ボランティアの人材登録の仕組みづくり	△	
	消防体験入団	親子で防火服、消防車に乗る	◎	消防団
	親子リーダー研修会	体験学習会、ねぶたはやしなど	◎	町会、学校、PTA
その他	そうめん流し会	公民館、集会所、子供から大人まで	△	町会
	地域のPRの取組み	住みやすさをPRするための取組み	△	

時敏・和徳小学校地区

地域を自分たちの暮らすまちとして、皆で協力して、守り、育てていくため、弘前市では、「まち育て」という考え方のもと、市民の自主的な活動への支援や、各種計画の策定や事業実施における市民参加を進めています。

この地域別構想は、地域別の懇談会を通して地域にお住まいの皆さまの生のご意見をいただくとともに、地域の資源を活かしながら、住まい環境をより良いものにしていくために、具体的にどんな取組みが必要か、どうしたら実現できるのかを皆様と考えながら作成されました。

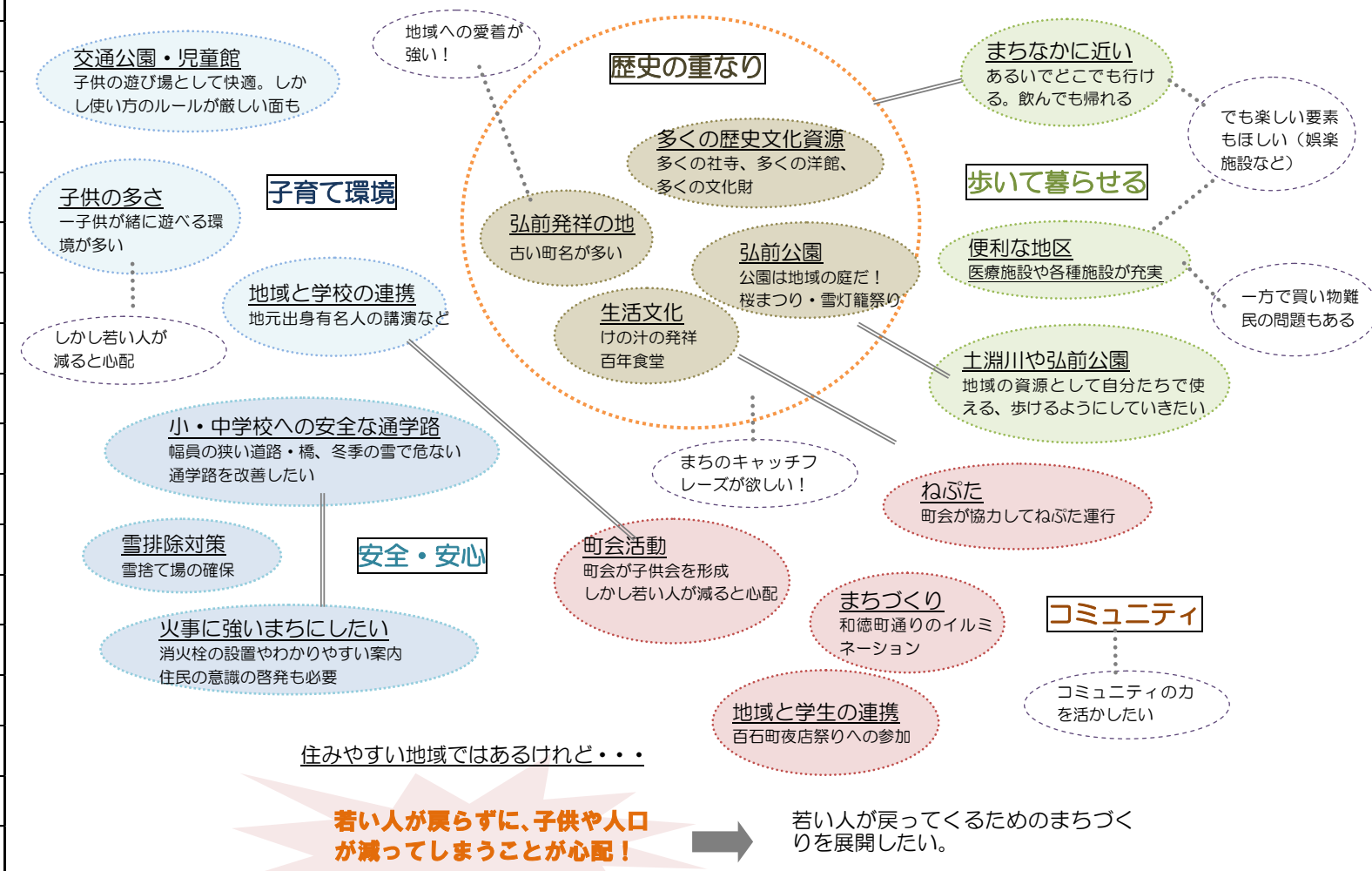
○懇談会における検討の流れ

- 第1回** 地域の自慢を出し合い、地域の特徴を考えよう
- 第2回** 地域の自慢を磨き、地域の特徴を生かしたまちづくりについて考えよう！
- 第3回** まちづくりの最初の一步を考えよう！

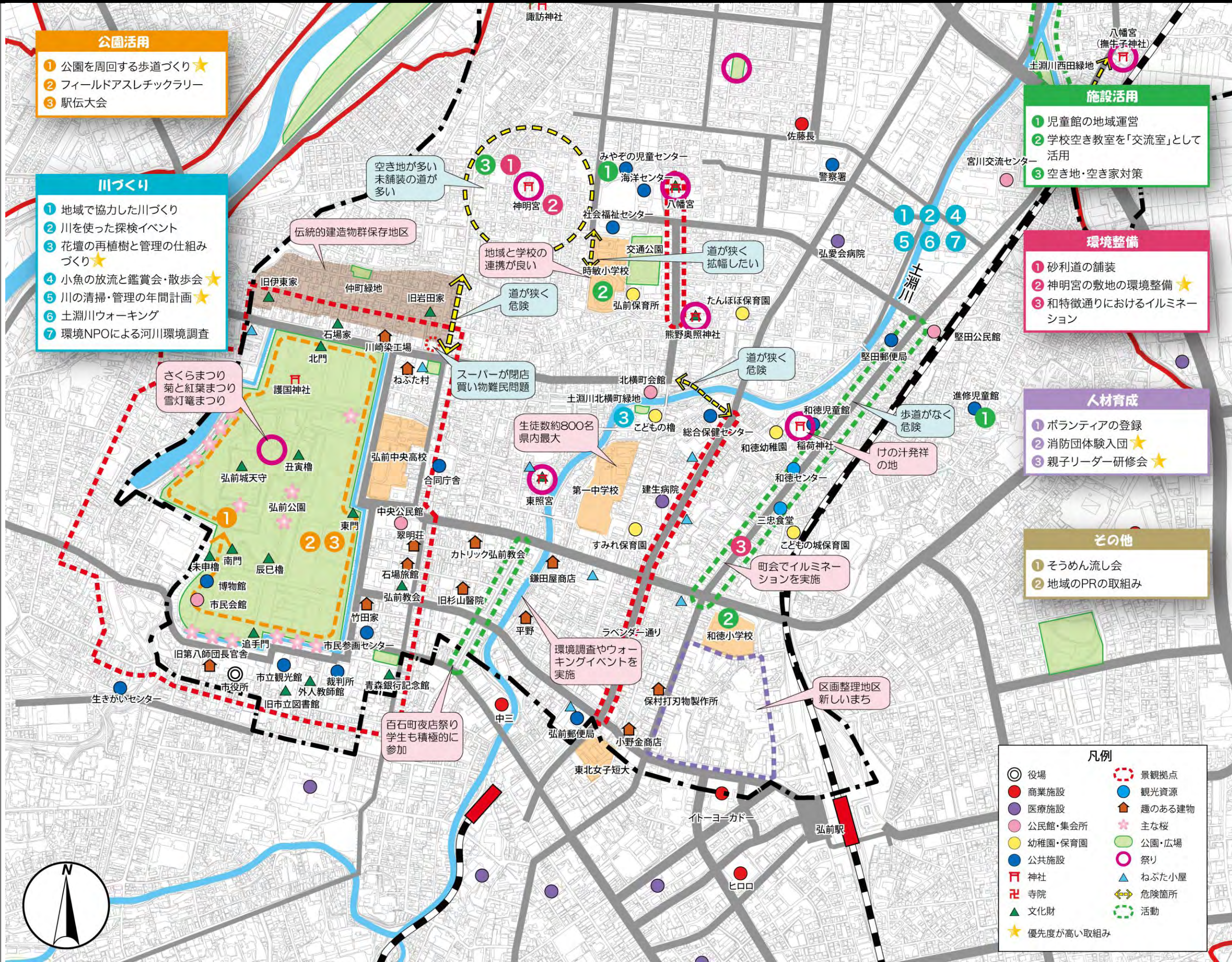


懇談会の様子

時敏・和徳小学校地区の価値観（地域の特徴や大事にしたいことは何か？）



時敏・和徳小学校地区の資源マップ（地域の自慢や課題はどこにあるか？）



弘前八幡宮



けの汁



稲荷神社



弘前公園



土淵川



伝統的建造物群保存地区

2013 年度（平成 25 年度）

相馬中学校区

地域の取組みで大事にしたいこと

相馬中学校地区では、強いコミュニティや自治力を背景に公民館活動や住民の交流が活発な地域でしたが、合併に伴う自治の仕組みの変化や、時代の流れにより地域のつながりが希薄化することへの懸念が挙げられ、「人と人とのつながり」が最も重要だということが確認されました。

また、地域の自慢としてはりんご畑や山、川などの豊かな自然環境とろうそく祭り、獅子舞などに代表される奥深い歴史・文化など多くの地域資源があることを認識し、これらを活かして次のようなことを大切にしまちづくりを進めていきます。

- ①イベントを通してタテとヨコのつながりを強化したい
- ②豊かな自然資源・環境を活かして外から人を呼び込みたい
- ③相馬ならではの土産や工芸品をつくりたい

これから取組みたいこと（暮らしがより楽しめる地域にしていくために）

テーマ	取組み	具体的に何をやるか？	優先度	誰がやるか？
食・土産	相馬限定おみやげの開発	地域資源を活かしたおみやげや工芸品づくり 例：紙漉の商品化（りんごの花を押し花にしてPR）	◎	地域のおばあちゃんはじめ、みんな
	グルメのまちづくり	地域の食を活かした観光ルートづくり	◎	
	飛馬りんごのさらなるブランド化	青森、弘前市内など近隣の人にもPR（嶽のきみくらに）	○	
風景づくり	相馬の美景写真コンテスト	地区の内外の人を対象に写真コンテストを開催	○	
	道路沿いの景観整備	主要道路沿いに花を植えるなどして景観を整備	△	
	春夏秋冬 相馬ぐるっとスタンプラリー	季節ごとに相馬らしいポイントを決めて副賞付きで実施	○	商工会？NPO？ 岩木観光協会とも連携？
	夏場のスキー場 草刈りアート	スキー場斜面に草刈りで「ようこそ 相馬へ」などのアートをつくる	△	ロマンビア
	花で相馬の入口を飾る	アップルロード、目屋バイパス付近	○	
	湯口交差点 花いっぱい運動	地区の入口でもある湯口交差点にプランターを設置（1%システムを活用して実施）	◎	子供会、婦人会、老人クラブなど
	サイ画計	集落の特徴を活かしたサインづくり	◎	
PR	名所やレジャースポットの案内看板づくり	釣りや星空、岩木山への眺望などのスポットへの案内看板を設置	◎	商工会？
	ホームページで相馬の情報発信	ホームページで相馬の美景や地域の名物・イベント・祭りなどの情報を地区内外へPR	△	
新たな名所・名物づくり	ご当地CMをつくってテレビ放送	空き教室を交差室に改造し、地域で運営する	△	商工会？NPO？
	相馬三大火祭り（紙漉沢大文字焼き（秋））	沢田のろうそく祭り（冬）、湯口の火渡り（夏）と合わせて、相馬の三大火祭りに	◎	各地区？
	相馬ダム魚釣り	相馬ダムを活用した魚釣り	◎	
	相馬ダム一周イベント（マラソンウォーキング）	相馬ダムを一周するイベントを開催	○	体育協会（相馬地区）
	相馬川で河童探し	真剣に河童探しをしながら、子どもたちに川遊びをさせる	△	子ども会、町会、老人会
	パワースポット、ミステリースポットでPR	沢田の神明宮、長慶天皇陵墓参考地跡などをパワースポットとしてPR	△	
その他	りんごの木オーナー制度	相馬のりんごの木のオーナーを全国から募集する	△	農家
	長慶天皇陵墓参考地跡までの林道整備	長慶天皇陵墓参考地跡までの林道整備を行っている	○	

相馬中学校地区

地域を自分たちの暮らすまちとして、皆で協力して、守り、育てていくため、弘前市では、「まち育て」という考え方のもと、市民の自主的な活動への支援や、各種計画の策定や事業実施における市民参加を進めています。

この地域別構想は、地域別の懇談会を通して地域にお住まいの皆さまの生のご意見をいただくとともに、地域の資源を活かしながら、住まい環境をより良いものにしていくために、具体的にどんな取組みが必要か、どうしたら実現できるのかを皆様と考えながら作成されました。

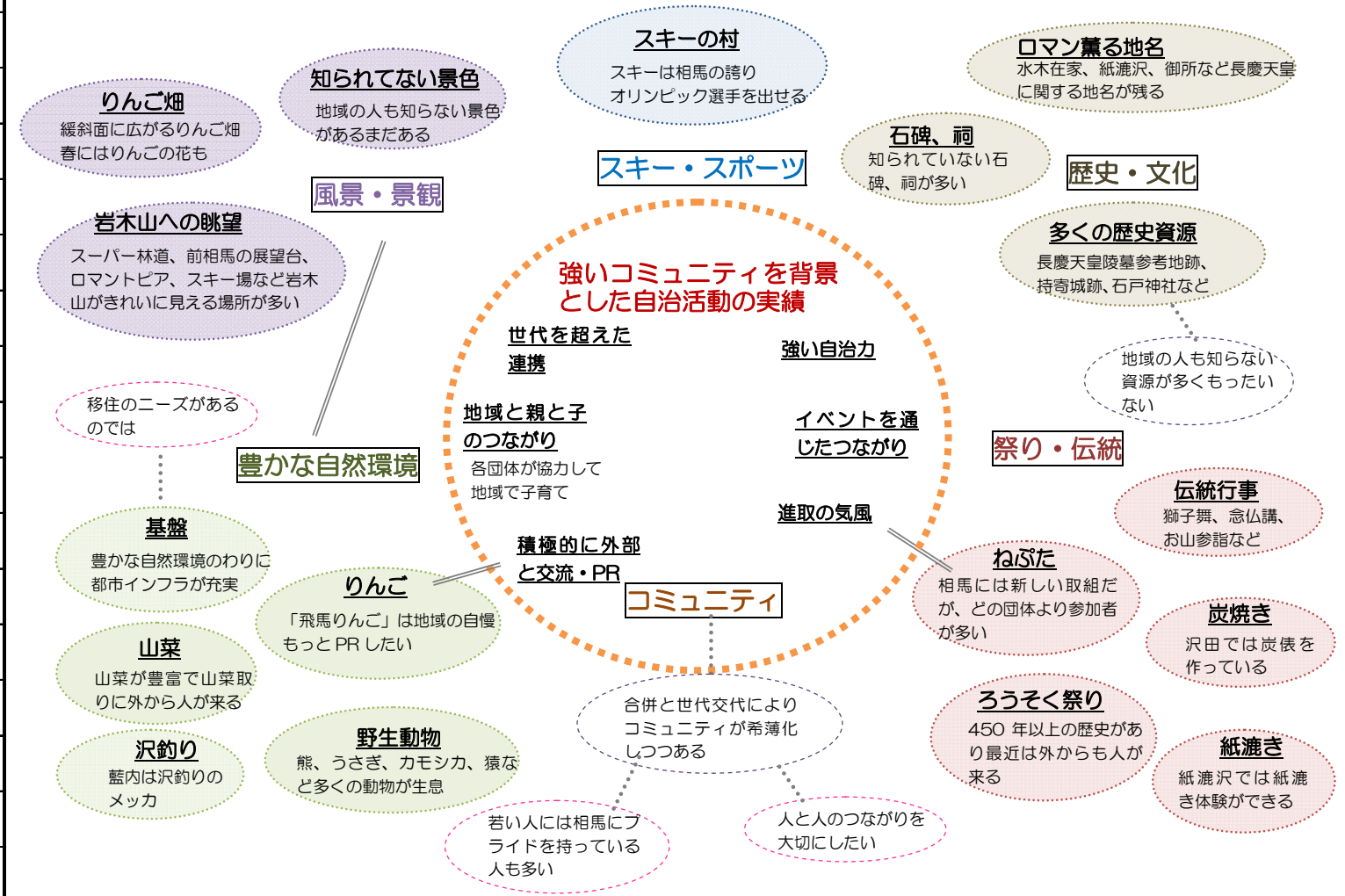
○懇談会における検討の流れ

- 第1回** 地域の自慢を出し合い、地域の特徴を考えよう
- 第2回** 地域の自慢を磨き、地域の特徴を生かしたまちづくりについて考えよう！
- 第3回** まちづくりの最初の一步を考えよう！

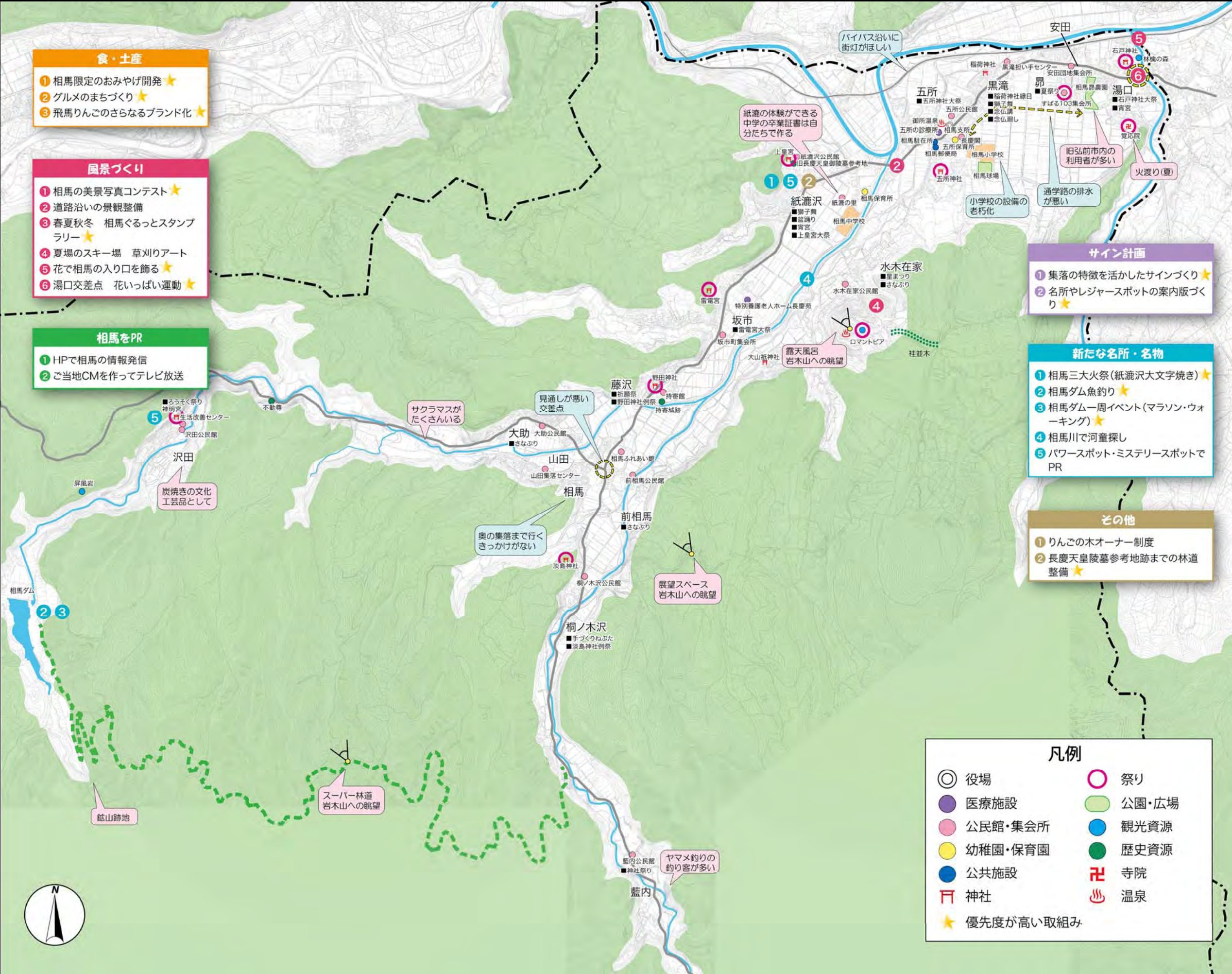


懇談会の様子

相馬中学校地区の価値観（地域の特徴や大事にしたいことは何か？）



相馬地区の資源マップ（地域の自慢や課題はどこにあるか？）



スキー場（ロマントピア）



ろうそく祭りの様子



りんご畑（りんごの花）



紙漉き体験の様子



岩木山への眺望



五所神社

2014 年度（平成 26 年度）

第二中学校区

地域の取組みで大事にしたいこと

下町地区は、町会活動が活発で、地域の小学校とも連携し、積極的に交流を行なっている。
 今後は、地域に遊休している施設の有効活用などを多角的に検討し、行政に提案するなど、構想実現のために取り組んでいきたい。地域の自慢・資源としては、毎年訪れる観光客、修学旅行生などをターゲットに、地域のホスピタリティを向上させ、誓願寺や岩木川と岩木山の自然のコラボで人を呼び込んで地域を活性化させたい。また、都市機能が集積していることが特徴でもあるので、この集積地を通るバス路線を復活させて、地域の中心部へのアクセス性を向上させ、歩いて暮らせる住みやすいまちを実現していきたい。

- ① 地域の中心部に、住民が気軽に集まれるサロンのような機能がほしい。
- ② 地域に定期的に入ってくる観光客や修学旅行生で地域を活性化させたい。
- ③ 小学校と連携し、津軽地域の伝統、文化を継承させたい。

これから取組みたいこと（暮らしがより楽しめる地域にしていくために）

テーマ	取組(プロジェクト名)	具体的に何をするか?	優先度	誰がやるか?
施設の活用	地域の施設の有効活用	勤労青少年ホームが築40年くらい経過しているため、取り壊して市民体育館の駐車場を拡張、さくらまつり時の観光客受入増、県工業試験場跡地を地域のコミュニティセンターとして利用し、サロンのような場として利用することにより、地域住民の介護予防に貢献。	◎	市、県、町会
観光	さくらまつり時岩木川河川敷駐車場から弘前公園までの新しいルートづくり	旧弘前市消防団西地区団第四分団消防屯所を見せる公園までのルートをPRする		市、町会
健康	岩木川遊歩道の延伸	現在栄町河川敷付近まで整備されている岩木川遊歩道を、岩木川河川敷ゴルフ場まで、安全に長く歩けるお散歩コースとして延伸整備する。		河川国道事務所
景観	岩木川遊歩道から見える岩木山ビューポイントを生かした観光ルートづくり	岩木川遊歩道から見える岩木山を多くの観光客に見てもらい、地域から見える絶景をPRする。		市、町会
小学校との連携	地域安全マップの作成	城西小PTAと連携して『地域安全マップ』を作成し、危険な場所・安全な場所について理解を深めることができた。今後も連携を継続していく。		PTA、町会
	城西小PTAと読書会	城西小PTAと連携して、読み聞かせをやるなど、読書会を開く。		PTA、町会
	あいさつ運動、ことばをかけて見守る運動	弘前市の未来を担う第二中の生徒、城西小の児童を地域みんなで見守り、いじめや虐待を防ぐため、継続して取り組んでいきます。		町会、PTA、市
食の継承	城西小児童と地域住民による汁の汁会	津軽地域の伝統食『汁の汁』の味、作り方を子供たちに伝え、食の記憶を通して故郷への愛着を持たせる		城西小、町会
その他	昔あったバスルートの復活	新町から、スーパーなどの生活拠点機能を集積する誓願寺前を通過して亀甲町へ行き来できるバスルートの復活により、生活拠点へのアクセスも良くなり、中心市街地にも行きやすくなる。		市、民間、町会
	川辺の遊び場の整備	現在、さくらまつり期間の駐車場となっている岩木川河川敷に川辺の遊び場を作りたい。		市、国、町会
	花いっぱい運動	工業高校うら埋門跡に花壇を作って、公園の入口を彩っていた活動を継続する。	○	町会、市
	防災意識の向上	城西小を避難所として使用できない状況でどのように避難するか、地域防災計画やマニュアルなどを読むだけでなく、実際に体験する防災訓練を小学校と連携して実施する、など。		町会、PTA、市
	街かど広場の整備	誓願寺前の空き地を街かど広場として整備する。		市、町会

下町地区

地域を自分たちの暮らすまちとして、皆で協力して、守り、育てていくため、弘前市では、「まち育て」という考え方のもと、市民の自主的な活動への支援や、各種計画の策定や事業実施における市民参加を進めています。

この地域別構想は、地域別のまち育てミーティングを通して地域にお住まいの皆さまの生のご意見をいただくとともに、地域の資源を活かしながら、住まい環境をより良いものにしていくために、具体的にどんな取組が必要か、どうしたら実現できるのかを皆様と考えながら作成されました。

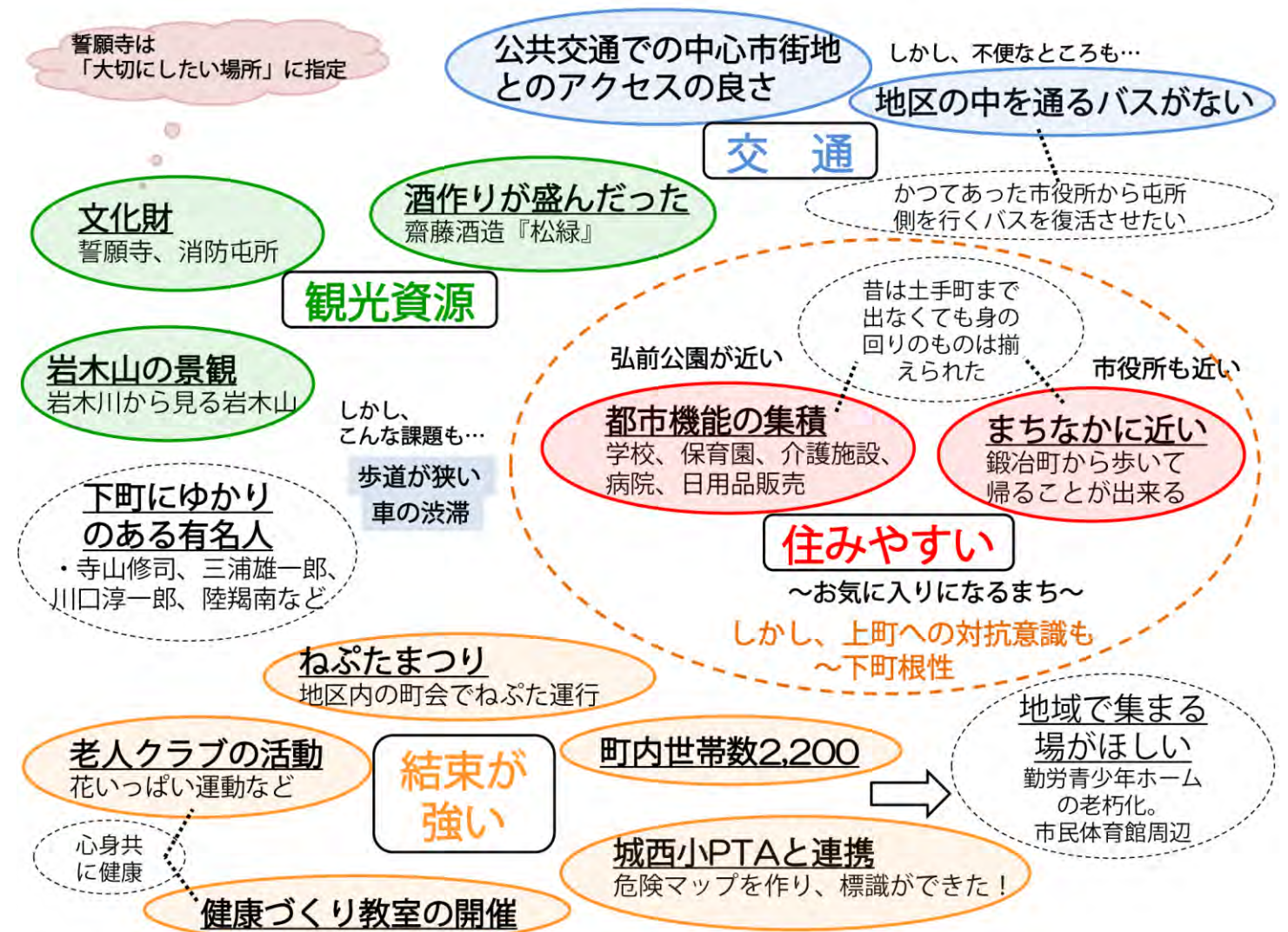


まち育てミーティングの様子

〇まち育てミーティングにおける検討の流れ

- 第1回** 地域の自慢を出し合い、地域の特徴を考えよう
- 第2回** 地域の自慢を磨き、地域の特徴を生かしたまちづくりについて考えよう!
- 第3回** まちづくりの最初の一步を考えよう!

下町地区の価値観（地域の特徴や大事にしたいことは何か?）



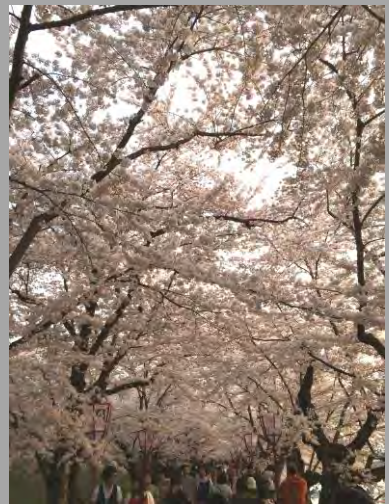
下町地区資源マップ（地域の自慢や課題はどこにあるか？）



新町坂から見た岩木山



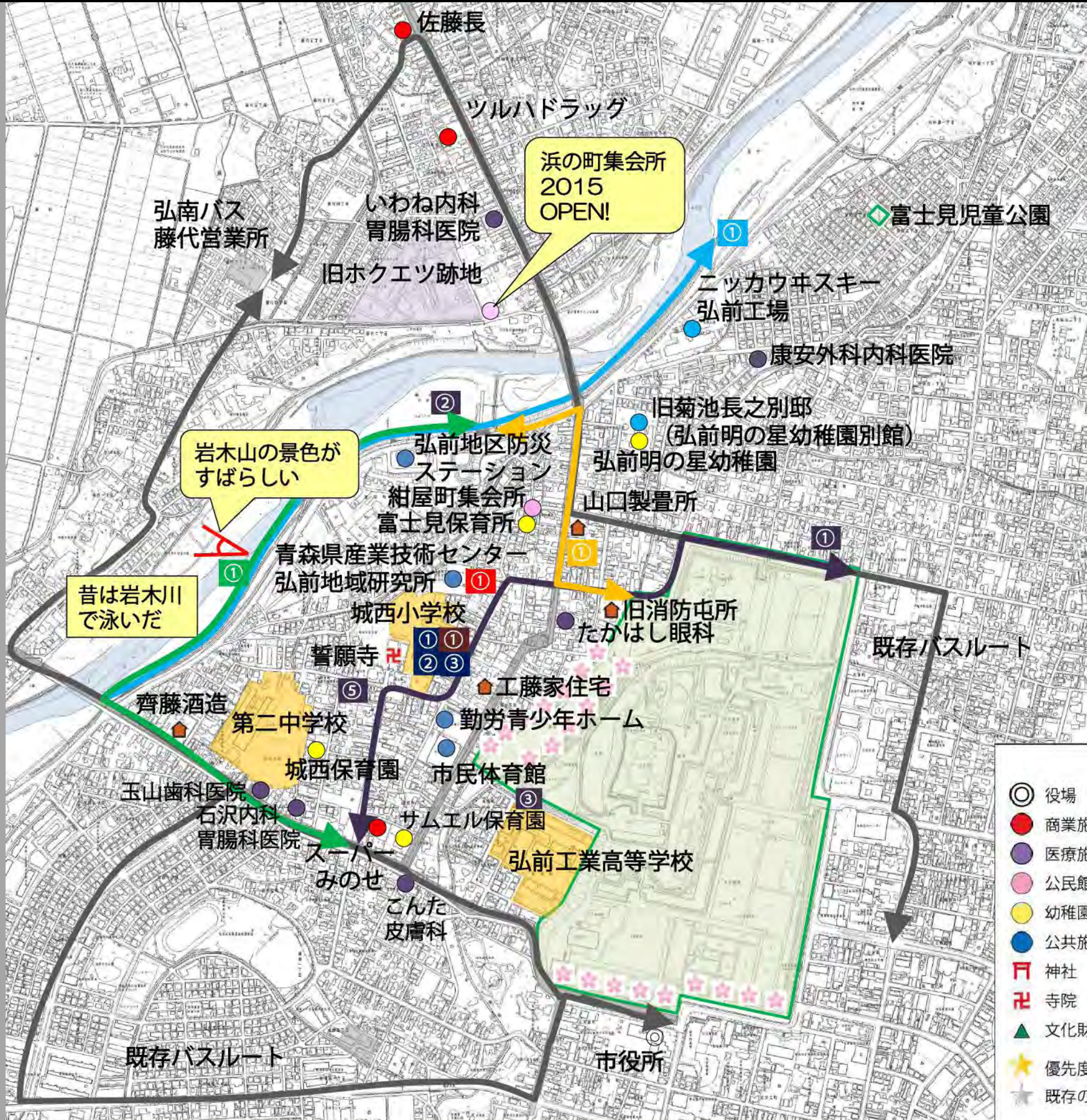
弘前公園西濠



弘前公園西濠
桜のトンネル



旧弘前市消防団西地区団
第四分団消防屯所



施設の活用	
①	地域の施設の有効活用★
観光	
①	さくらまつり時岩木川河川敷駐車場から弘前公園までの新しいルートづくり
健康	
①	岩木川遊歩道の延伸
景観	
①	岩木川遊歩道から見える岩木山ビューポイントを生かした観光ルートづくり
小学校との連携	
①	地域危険マップの作成★
②	城西小PTAと読書会★
③	あいさつ運動、ことばをかけて見守る運動★
食の伝統の継承	
①	城西小児童と地域住民によるけの汁会★
その他	
①	昔あったバスルートの復活
②	川辺の遊び場の整備
③	花いっぱい運動★
④	防災意識の向上
⑤	街かど広場の整備

凡例			
◎	役場	⬢	景観拠点
●	商業施設	●	観光資源
●	医療施設	🏠	趣のある建物
●	公民館・集会所	★	主な桜
●	幼稚園・保育園	🌳	公園・広場
●	公共施設	🎉	祭り
⛩	神社	🏠	ねぶた小屋
⛩	寺院	⚠	危険箇所
▲	文化財	🔄	活動
★	優先度が高い取組み		
☆	既存の取組をベースにした取組		

地域の取組みで大事にしたいこと

城西地区では、地域で西交流センターを運営するなど、自立した活動を行なっているが、地域では、空き地・空き家が増えてきており、少子高齢化の影響により、西小学校の児童数も減少してきている。

そのなかで、地域の運動会を西小学校のグラウンドで実施するなど、小学校とも積極的に連携しており、子どもを軸として、地域を活性化させたい。

また、特殊な舗装が施された西交流センター・城西中央公園側の道路を活用して、彫刻などのモニュメントを置き、アートなまちづくりにも力を入れたい。

この地区では、城西大橋完成時にはあった岩木山側の街灯を撤去して岩木山の眺望を保全するなど、景観にも力を入れている。

これらのことから、城西地区では次のようなことを大切にしまちづくりを進めていきます。

- ① 地域コミュニティを大事にしたい
- ② 景観を大事にしたい
- ③ 小学校との連携を大事にしたい

これから取組みたいこと（暮らしがより楽しめる地域にしていくために）

テーマ	取組(プロジェクト名)	具体的に何をするか？	優先度	誰がやるか？
コミュニティ	気軽に集まれる場づくり	空き地や西小学校の教室を活用し、みんなが気軽に集まれる場を作る。	△	市、町会
	盆踊りの復活	秋にお祭りをやってきたが、20年前になくなった盆踊りを復活させたい。	◎	町会
	芝居小屋・演芸場の整備	青少年の演奏・発表の場所などの活動する場として整備。		
芸術	アートの街づくり	子供にモニュメントを使ってもらったり、みんなでイルミネーションをして、冬でも安全に歩けるまち、子どもにも老人にも優しい雪のないまちにしたい。	○	町会
スレポッター	バーベキュー場の整備	河川敷を利用し、トイレを設置したバーベキュー場を作りたい。	△	市
環境	まちなかのゴミ拾い	小学校の授業の一環で行ない、地域の人がサポーターとして参加する。	◎	町会、PTA
景観	岩木山と調和のとれたまちづくり	屋根の色や高さを統一したり、電線を地中化したい。	△	市
交国際	異文化交流	空き家を活用して、海外からの留学生に住んでもらい、みんなで各国の料理を作ったり、英会話の勉強をする。	◎	町会

城西地区

地域を自分たちの暮らすまちとして、皆で協力して、守り、育てていくため、弘前市では、「まち育て」という考え方のもと、市民の自主的な活動への支援や、各種計画の策定や事業実施における市民参加を進めています。

この地域別構想は、地域別のまち育てミーティングを通して地域にお住まいの皆さまの生のご意見をいただくとともに、地域の資源を活かしながら、住まい環境をより良いものにしていくために、具体的にどんな取組が必要か、どうしたら実現できるのかを皆様と考えながら作成されました。

〇まち育てミーティングにおける検討の流れ

第1回

地域の自慢を出し合い、地域の特徴を考えよう

第2回

地域の自慢を磨き、地域の特徴を生かしたまちづくりについて考えよう！

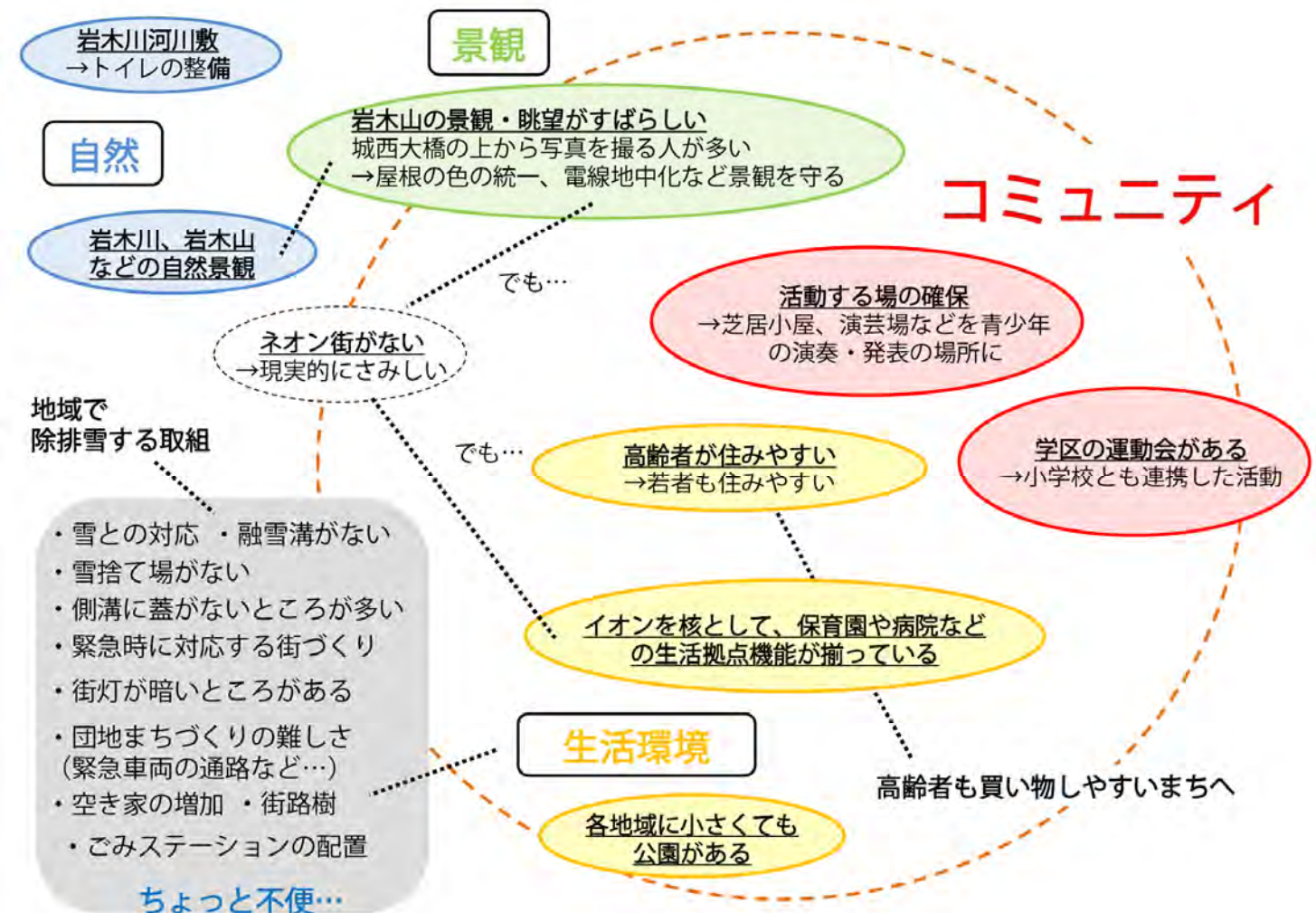
第3回

まちづくりの最初の一步を考えよう！



まち育てミーティングの様子

城西地区の価値観（地域の特徴や大事にしたいことは何か？）



城西地区の資源マップ（地域の自慢や課題はどこにあるか？）



古都ひろさき花火の集い



地区の活動の拠点である
西交流センター



地区の景観道路である茜通り



城西大橋から見た岩木山

地域の取組みで大事にしたいこと

藤代地区では、中心市街地や市北部との公共交通は確保されているものの、道路が狭く、交差点の形状が悪いなど、道路や交差点の整備が進んでおらず、

- ・藤代中学校が川の向こうの第二中学校に統合されたこと
- ・栄えていた工業団地の企業が相次いで撤退したこと

などから、地区外への人口の流出が起き、それにより子供の数も減ってきていると分析している。

この人口減少に歯止めをかけ、昔のような活気ある藤代地区にするために、地域北部の優良な農地と豊かな田園景観を生かし、地域を流れる壮大な岩木川を活用した親水空間づくりなど、自然を生かしたまちづくりと、地域にある歴史的資源を学校教育と連携してPRし、歴史的な魅力を向上させることにより、地域に人を呼び込んでいこうと考えています。

- ① 道路交通ネットワークを整備し、地域へのアクセスをしやすくする。
- ② 誰でもどこでも育てられるいちごや栗を地域の各家庭で栽培する。
- ③ 革秀寺の歴史的な価値を再認識し、地域の魅力としてPRしていく。

これから取組みたいこと（暮らしがより楽しめる地域にしていくために）

テーマ	取組(プロジェクト名)	具体的に何をするか?	優先度	誰がやるか?
いちご	いちごを各家庭で栽培する	学校で栽培を始め、それを家庭に広めていく	◎	PTA、町会
農業	栗を各家庭で栽培する	各家庭で栗の木を植える	△	PTA、町会
	道の駅の整備	地物の野菜などを販売する道の駅がほしい	△	
川に親しむ	水辺の公園づくり	人が憩う空間を作る	◎	市、町会
	土手でキャンプやサイクリングを行う		◎	
	川をきれいにする運動	昔のように川に魚が戻ってくるため清掃活動などをする	○	町会
商業	企業誘致、雇用増	雇用の受け皿となる大型店舗が必要	◎	民間
歴史	革秀寺の再発見	今あるものを活かし、教育へ	◎	
教育	教育拠点の誘致		◎	
その他	都会からの移住支援	東京など都会から地域に居住させる	○	町会、市
	地域の核となる施設づくり	地域づくりのために、空家等を活用するなどして、地域の核となる施設(コミュニティスペース)がほしい	◎	町会、市
	交通網の整備	西部給食センター跡地を北側の公共交通のハブ拠点として、公共交通網を整備する	◎	

藤代地区

地域を自分たちの暮らすまちとして、皆で協力して、守り、育てていくため、弘前市では、「まち育て」という考え方のもと、市民の自主的な活動への支援や、各種計画の策定や事業実施における市民参加を進めています。

この地域別構想は、地域別のまち育てミーティングを通して地域にお住まいの皆さまの生のご意見をいただくとともに、地域の資源を活かしながら、住まい環境をより良いものにしていくために、具体的にどんな取組が必要か、どうしたら実現できるのかを皆様と考えながら作成されました。



まち育てミーティングの様子

〇まち育てミーティングにおける検討の流れ

第1回

地域の自慢を出し合い、地域の特徴を考えよう

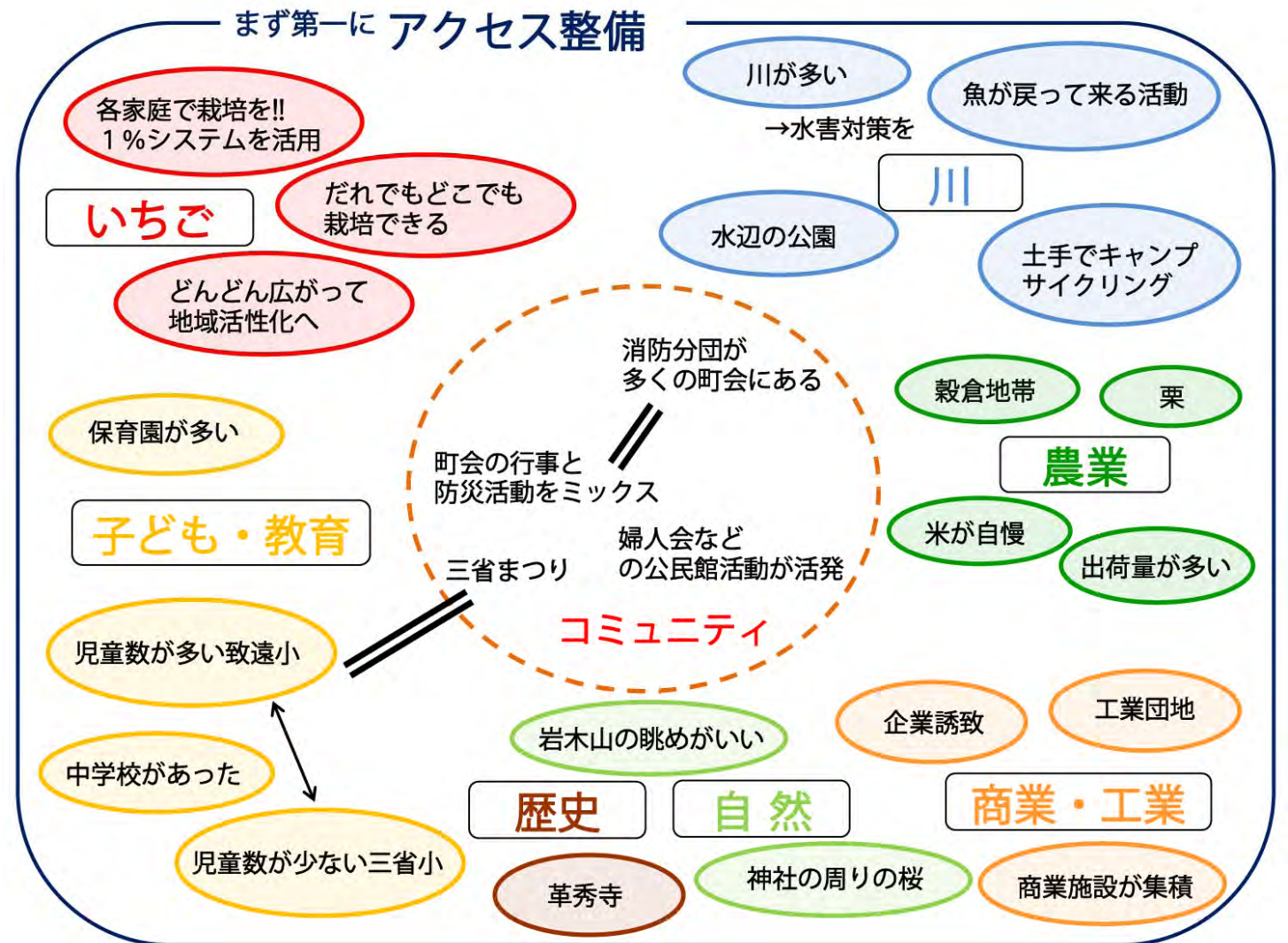
第2回

地域の自慢を磨き、地域の特徴を生かしたまちづくりについて考えよう!

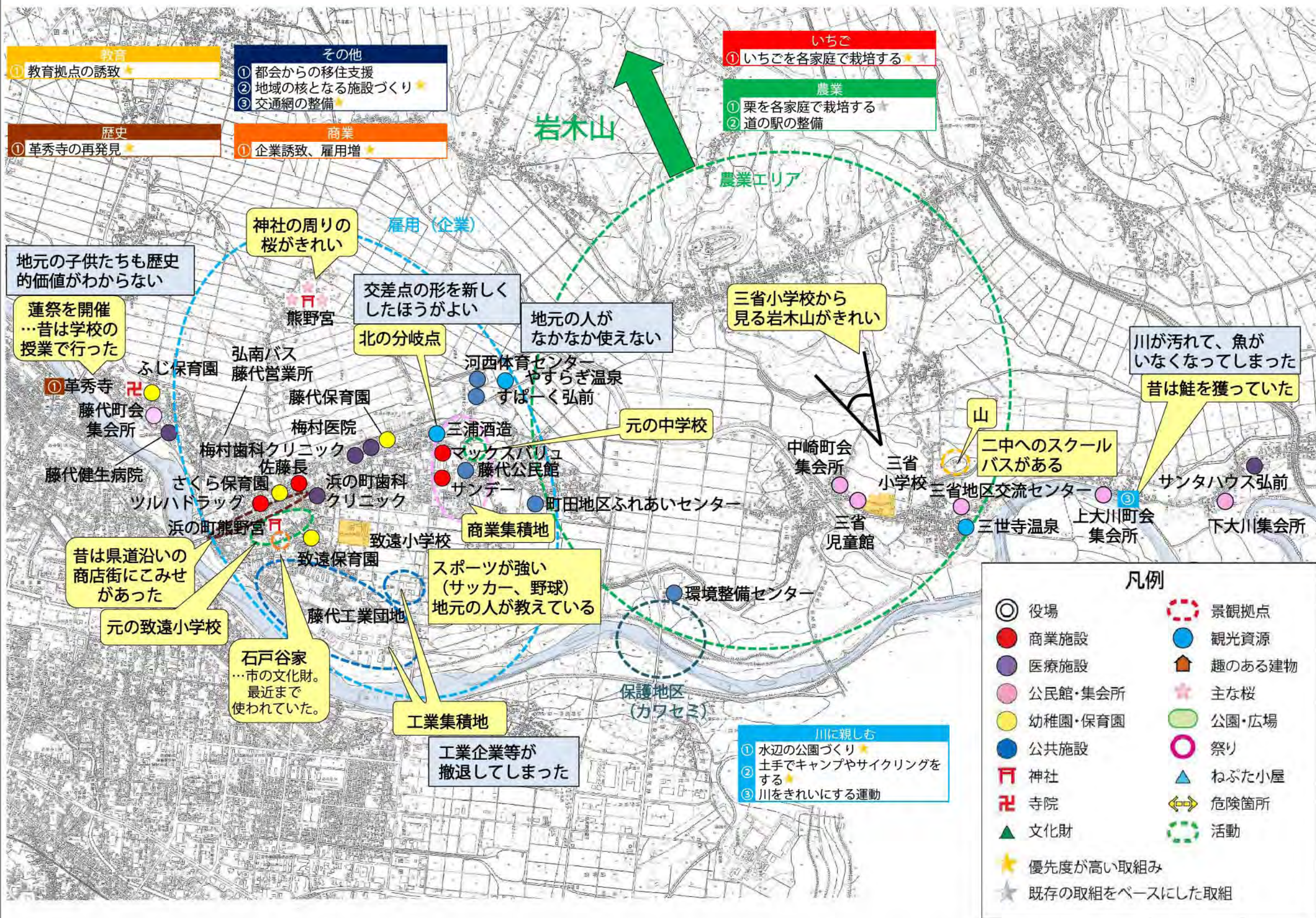
第3回

まちづくりの最初の一步を考えよう!

藤代地区の価値観（地域の特徴や大事にしたいことは何か?）



藤代地区の資源マップ（地域の自慢や課題はどこにあるか？）



北の分岐点



革秀寺



大川



三省地区の活動の拠点である

三省地区交流センター



今も昔も変わらない

三世寺の通り

2014 年度（平成 26 年度）

津軽中学校区

地域の取組みで大事にしたいこと

津軽中学校区では、岩木山に代表される豊かな自然・景観が豊富に存在し、岩木山一帯が津軽国定公園と岩木高原県立自然公園に指定されており、山麓には多くの温泉が点在するなど観光資源にも恵まれ、国指定重要無形民俗文化財のお山参詣、国の重要文化財の岩木山神社や高照神社等、有形無形の伝統文化も数多く残されています。

今後は、これらを生かし、次のようなことを大切にまちづくりを進めていきます。

- ① 岩木山などの自然・景観を保全し、これまで通り美しい農山村の風景を維持できるように取り組む
- ② お山参詣、岩木山神社、高照神社等、有形無形の伝統文化を継承する
- ③ 岩木山等の観光資源を生かした観光産業の集積を図り、岩木山観光を生かした魅力あるまちづくりを進める

これから取組みたいこと（暮らしがより楽しめる地域にしていくために）

テーマ	取組(プロジェクト名)	具体的に何をするか?	優先度	誰がやるか?
歴史・伝統・文化	大浦城跡を活用したまちづくり	弘前の本家である岩木の歴史背景をPRしていく。大浦城をもっとPRし、まちづくりに活用。津軽為信公の大名行列を岩木夏まつりで実施する。	◎	町会
	岩木山神社を拠点とした観光整備	岩木山神社を拠点とし、遊歩道を通して高照神社とを行き来できる観光ルートを整備し、高照神社宝物殿の整備効果を高める。	○	市
	地域の伝統・文化を後世に残していく	あけび・竹・わらなどを使った地域特有の工芸品や、お山参詣、ねぶた囃子、登山囃子、獅子舞、しめ縄などの伝統文化などを残していく。		町会、市
	けの汁などの郷土食を子どもたちに伝える	けの汁の会などを実施。作ることや食べることを通して、郷土食を継承していく。		町会、市、PTA
	伝統・文化の指導者の育成に補助を出す	指導者の育成に報酬を支払い、伝統・文化の継承を補助したい。		市
子どもの育つ環境づくり	公民館活動の復活	子どもたちの育成を図るため、地区連合町会が新たな担い手となり、公民館活動を復活。子どもたちを巻き込んで、様々な活動をする。	◎	町会
	子育てサロン「岩木びよびよ広場」	親子の健康や育児に関する情報交流の機会と場を提供する。	○	市
学校との連携	地域の伝統・文化を学ぶ機会を教育のカリキュラムに取り入れる	保育園や百沢小学校で行なっているねぶた囃子や登山囃子、獅子舞などの伝統・文化を、岩木小学校でも実施したり、津軽中学校でも継続して取り組んで、先輩が後輩に教えるなど、今後も継承されるように取り組む。		
景観	花いっぱい運動	各町会の部会を活用。地区ごとにリーダーを置き、育て方のアドバイスなどを行う。	○	町会
	河川の清掃活動	美しい岩木を維持する活動を各町会が継続して実施する。	○	町会
健康	岩木健康増進プロジェクト	岩木地区住民の生活習慣病予防と健康の維持、増進、寿命の延長を目指す。弘前で一番健康な地区を目指す。	◎	弘前大学、市、県総合健診センター、町会
文化	岩木文化祭	岩木文化の1年間の集大成。「こども芸能発表」や「こども図書館まつり」、「芸能発表」などのイベントを行う。	○	運営委員会
防災	自主防災組織を各町会に設置する	地域の実情に合わせ、各々の団体の得意分野を担当して、自主防災組織を編成する。例) 保育園が情報班、避難場所など		町会、市
	各町会で消火訓練を実施する	処分する消火器を使用した消火訓練を地区消防団・西分署と実施し、防災意識を高める		町会、消防

津軽中学校区

地域を自分たちの暮らすまちとして、皆で協力して、守り、育てていくため、弘前市では、「まち育て」という考え方のもと、市民の自主的な活動への支援や、各種計画の策定や事業実施における市民参加を進めています。

この地域別構想は、地域別のまち育てミーティングを通して地域にお住まいの皆さまの生のご意見をいただくとともに、地域の資源を活かしながら、住まい環境をより良いものにしていくために、具体的にどんな取組が必要か、どうしたら実現できるのかを皆様と考えながら作成されました。



まち育てミーティングの様子

〇まち育てミーティングにおける検討の流れ

第1回

地域の自慢を出し合い、地域の特徴を考えよう

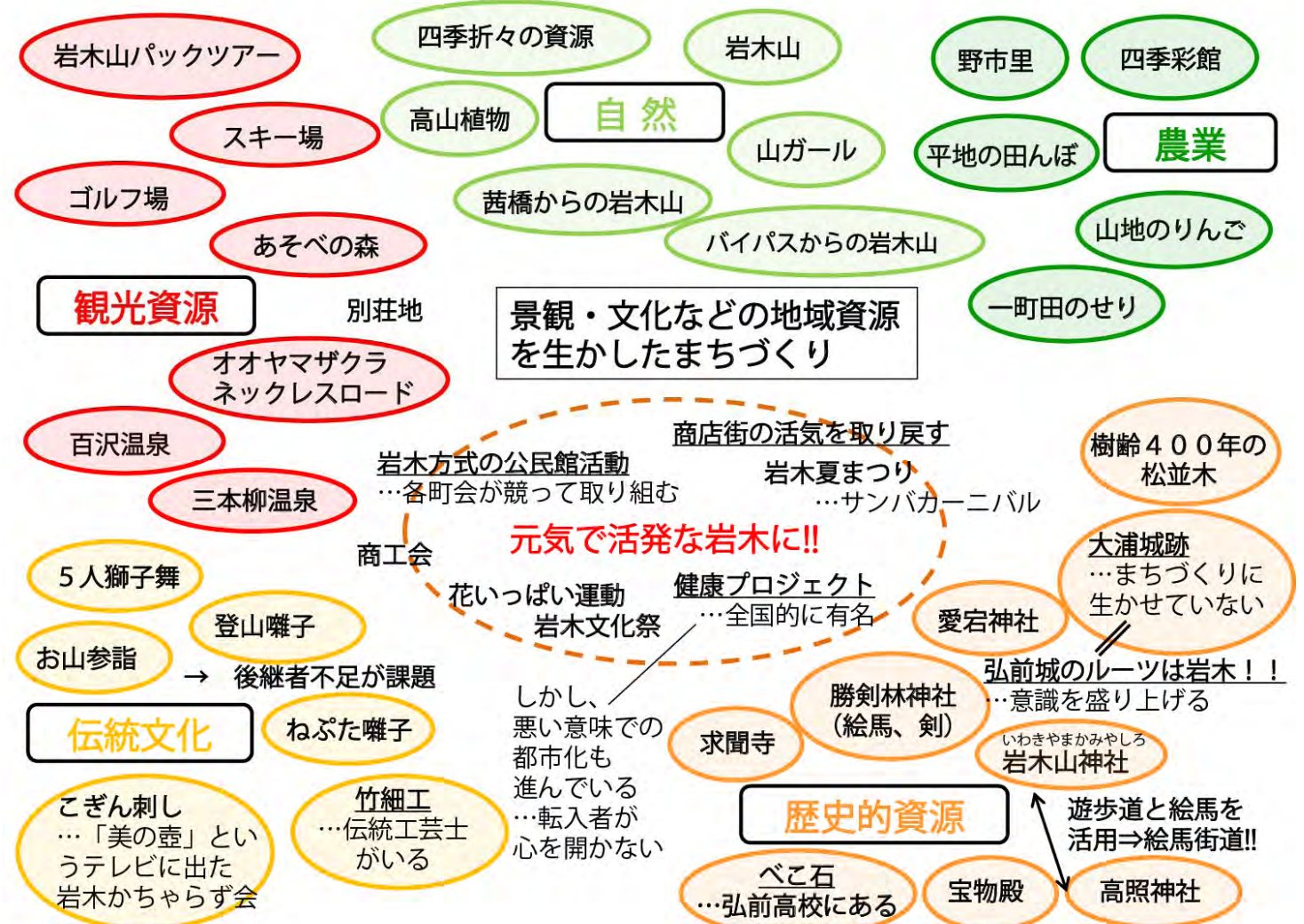
第2回

地域の自慢を磨き、地域の特徴を生かしたまちづくりについて考えよう!

第3回

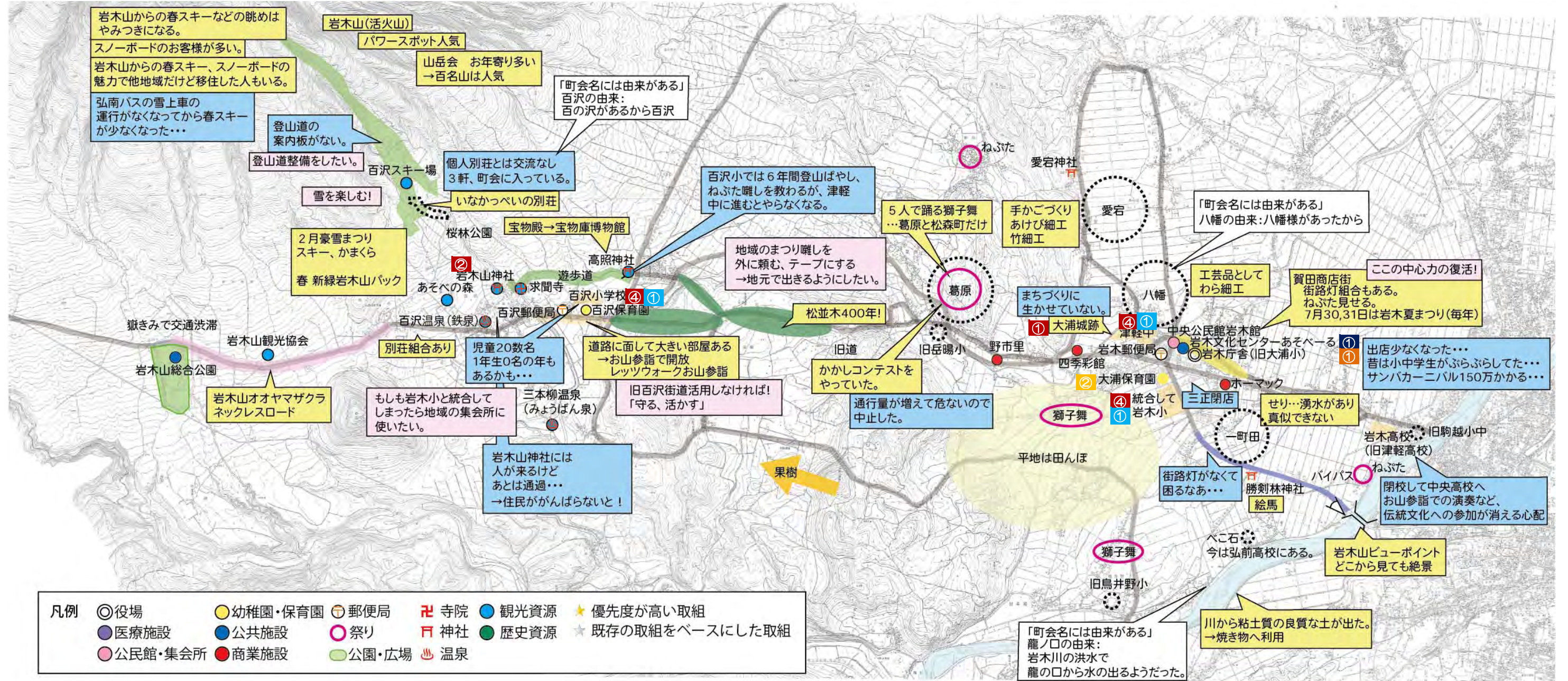
まちづくりの最初の一步を考えよう!

津軽中学校区の価値観（地域の特徴や大事にしたいことは何か?）



津軽中学校区の資源マップ（地域の自慢や課題はどこにあるか？）

歴史・文化・伝統	子どもの育つ環境づくり	景観	文化
① 大浦城跡を活用したまちづくり★ ② 岩木山神社を拠点とした観光整備 ③ 地域の伝統・文化を後世に残していく ④ けの汁などの郷土食を子どもたちに伝える ⑤ 伝統・文化の指導者の育成に補助を出す	① 公民館活動の復活★ ② 子育てサロン「岩木びよびよ広場」★ ③ 学校との連携 ④ 地域の伝統・文化を学ぶ機会を教育のカリキュラムに取り入れる	① 花いっぱい運動★ ② 河川の清掃活動★ ③ 健康 ④ 岩木健康増進プロジェクト★★	① 岩木文化祭★ ② 防災 ③ 自主防災組織を各町会に設置する ④ 各町会で消火訓練を実施する



お山参詣



世界一の桜並木



岩木山神社



岩木山神社から見た岩木山



岩木菖橋から見た岩木山

2014 年度（平成 26 年度）

常盤野中学校区

地域の取組みで大事にしたいこと

常盤野中学校区では、地域の活動を支える人が住民を繋いでおり、町会長や各団体が一体となり、常盤野地域活性化プロジェクト実行委員会を構築し、地域活動を実施している。

しかし、弾力性がなくなってきた組織にも新しい“風”を吹き込んで、活性化させる時期が来ている。

また、地域の自慢・資源としては、地域ブランドの嶽きみや温泉、岩木山など豊かな自然環境・景観と、南麗豪雪まつりや丑湯まつりに代表される地域のまつりなど、多くの地域資源があることを再認識し、これらを生かして次のようなことを大切にしていちまちま進めていきます。

- ①地域に人を呼び込むような取組を実施したい
- ②生食の嶽きみだけでなく、加工品を作ることで、1年を通して活動できる環境を作りたい
- ③冬の生活を困難にする“雪”を生かし、地域全体で雪を克服するような取組を実施したい

これから取組みたいこと（暮らしがより楽しめる地域にしていくために）

テーマ	取組(プロジェクト名)	具体的に何をするか?	優先度	誰がやるか?
温泉	ペットと入浴できる浴場の整備	嶽温泉の硫黄泉質が皮膚にいいことをPRして、ペットの皮膚病養生に専用の浴場を用意し、飼い主と併せての湯治客増加を狙う。 例：ペット用温泉、ドッグラン、ペット同伴可の宿泊施設、ペットと一緒に健康になる、遊歩道の活用、看板PR	◎	旅館組合
	岩木さんほ館の足湯の再整備	嶽の湯が犬の皮膚にも効用が良いことを活用し、岩木さんほ館の足湯のところでペットの湯治ができるようにする。 また、利用者の利便性の向上のため、夏場の雨の日や冬場の雪を遮る屋根を設置する。	○	旅館組合
	共同浴場の復活	現在ステージがあるところに、昔あった共同浴場を復活させ、嶽温泉全体を活性化させる。いつでも自由に入れることにより、お客さんを来やすくする。	○	旅館組合
	温泉街の景観づくり	白と黒に統一して、小布施町のようなまちづくりをする。 また、雪の壁を利用して、温泉街の道路をろうそくの灯りでライトアップする。	◎	旅館組合
	公衆トイレに足湯の設置	公衆トイレに足湯を併設し、足湯の廃湯を利用して融雪する。	△	旅館組合、町会
嶽きみ	嶽きみのセット販売	生食用の嶽きみと、ようかん、お餅などの加工品をセット販売する。	○	嶽きみ農家
	嶽きみ工芸品の製造	嶽きみの皮を使った工芸品作りなど、冬の土産として製造する。	○	嶽きみ農家
	嶽きみ酒づくり	バーボンの原料となる嶽きみを使った嶽バーボンを製造し、販売する。		
雪	雪かきボランティアツアー	地域の高齢者などの除雪困難者宅の雪かきがセットとなったボランティア宿泊パックを作り、宿泊業と地域貢献の相乗効果を図る。	◎	町会
	雪かき検定	雪かきに級を付けて、上級者には賞品を贈呈する。	○	
	地吹雪ツアー	津軽鉄道で好評の地吹雪体験ツアーを弘前で体験できる。		旅行業者
	南麗豪雪まつり	雪を活用して地域おこしをする。住民と観光客の両方が喜ぶまつりにしたい。		岩木山観光協会、町会
散策	案内マップの作成	常盤野町会高田事務局長が作成する案内マップを活用して、旅行者や市内の人へ嶽を散歩することをPRして、地域に人を呼び込む。	◎	町会
	電気自転車の貸し出し	長距離の散歩を気軽に楽しむために、電気自転車の貸し出しをする。	△	町会、各宿泊施設
その他	定住促進	使っていない旅館等をゲストハウスとして活用。夏は嶽きみ、秋はりんご、冬は酒造りなど、季節労働者を呼び込み、住むことで常盤野の良さを知ってもらい、定住を促す。	◎	地元の方々、旅館組合、嶽きみ農家
	国内留学受け入れ	市外からの留学を受け入れるなど、一分野に特化した学校として、地域の学校を存続させる。		市、地域
	交通機関の確保	現在のバス交通にこだわらず、郵便局、宅配業者などを活用した新しい公共交通の形として、地域の交通を確保する		市、民間、大学
	どぶろく特区	地域をどぶろく特区とし、どぶろくを製造。温泉旅館に提供。嶽温泉の名物にする。		地域、温泉組合
	黒滝深流の復活	カジカがいるきれいな溪流に戻したい。		町会、市
	岩木山フォトコンテスト	岩木山を四季・時期を分けて、フォトコンテストを実施する。	◎	旅館組合
	イベントと地域との連携	イベント時など、お弁当やおにぎりなどを作り、会場で販売する。	◎	地元の方々

常盤野中学校区

地域を自分たちの暮らすまちとして、皆で協力して、守り、育てていくため、弘前市では、「まち育て」という考え方のもと、市民の自主的な活動への支援や、各種計画の策定や事業実施における市民参加を進めています。

この地域別構想は、地域別のまち育てミーティングを通して地域にお住まいの皆さまの生のご意見をいただくとともに、地域の資源を活かしながら、住まい環境をより良いものにしていくために、具体的にどんな取組が必要か、どうしたら実現できるのかを皆様と考えながら作成されました。

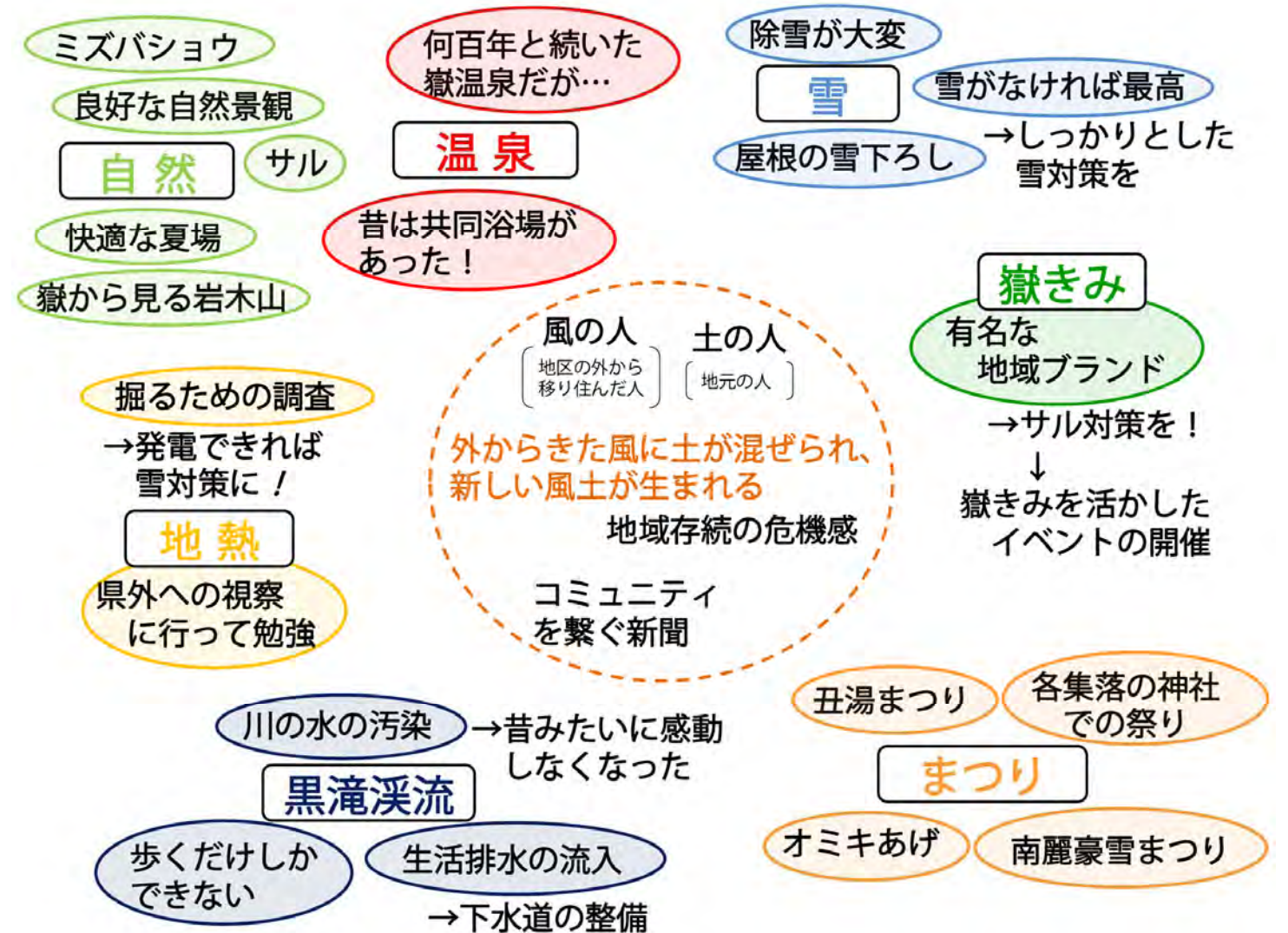


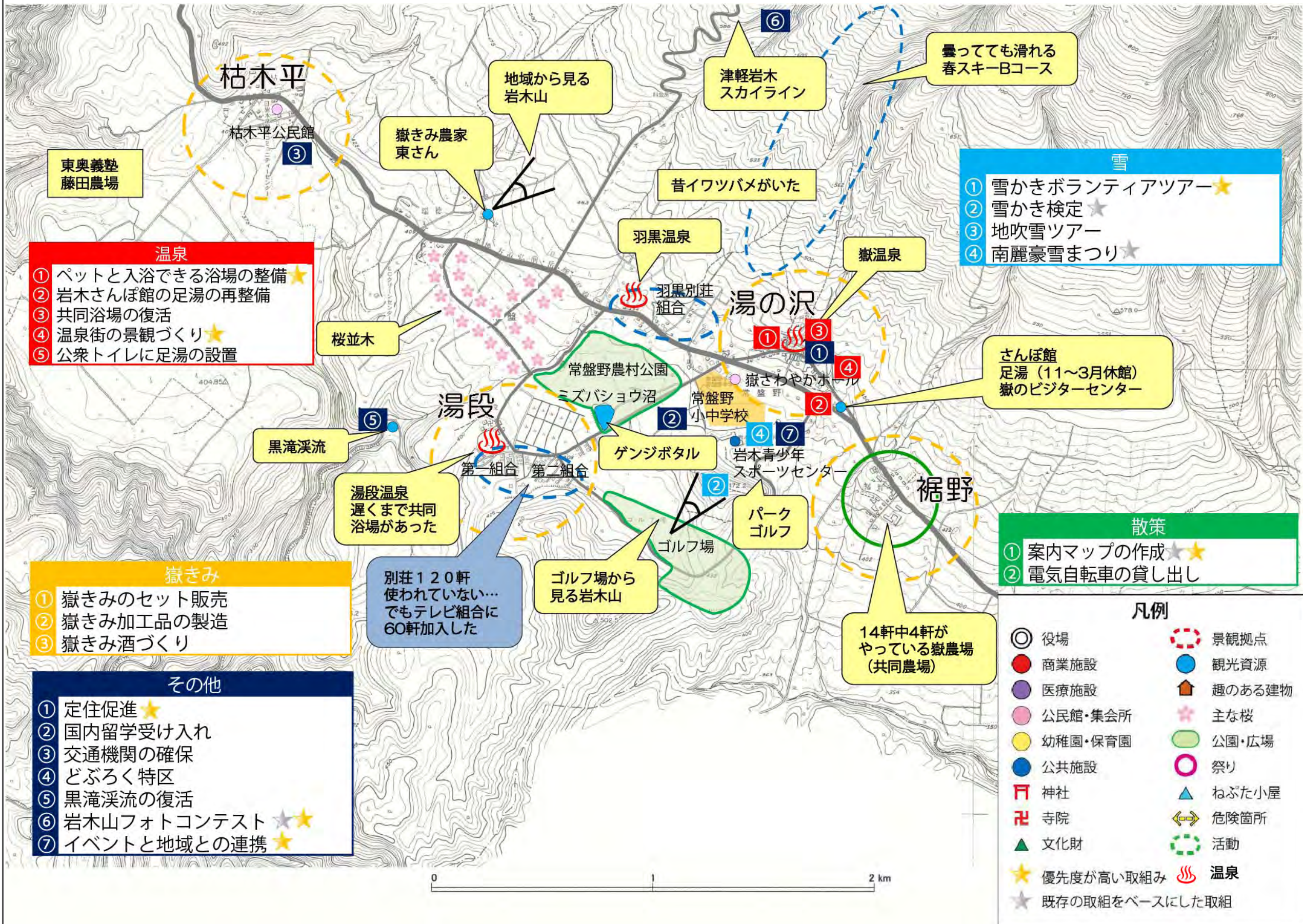
まち育てミーティングの様子

〇まち育てミーティングにおける検討の流れ

- 第1回** 地域の自慢を出し合い、地域の特徴を考えよう
- 第2回** 地域の自慢を磨き、地域の特徴を生かしたまちづくりについて考えよう!
- 第3回** まちづくりの最初の一步を考えよう!
- 第4回** まち育て構想とそれを実現する組織について考えよう!

常盤野中学校区の価値観（地域の特徴や大事にしたいことは何か?）





嶽きみ



ミズバショウ沼



岩木さんぼ館 足湯



津軽岩木スカイライン
向かいのオオヤマザクラ

2015 年度（平成 27 年度）

第三中学校区

大成小学校区

地域を自分たちの暮らすまちとして、皆で協力して、守り、育てていくため、弘前市では、「まち育て」という考え方のもと、市民の自主的な活動への支援や、各種計画の策定や事業実施における市民参加を進めています。

この地域別構想は、地域別のまち育てミーティングを通して地域にお住まいの皆さまの生のご意見をいただくとともに、地域の資源を生かしながら、住まい環境をより良いものにしていくために、具体的にどんな取組が必要か、どうしたら実現できるのかを皆さまと考えながら作成されました。



まち育てミーティングの様子

○まち育てミーティングにおける検討の流れ

- 第1部** 地域の自慢を出し合い、地域の特徴を考えよう！
- 第2部** 地域の自慢を磨き、地域の特長を生かしたまちづくりについて考えよう！
- 第3部** まちづくりの最初の一步を考えよう！

地域の取組みで大事にしたいこと

大成小学校区は弘前市の代表的な商店街があること、中央弘前駅やその周辺の緑地・公園が多いこと、古い建物や歴史的な文化財が多く残っていることなど、生活環境がよいことが確認されました。また、観光客も多く訪れる地域でもあります。

その一方で、商店街などで市民や学生が少なくなったこと、少子高齢化が著しいことなど、地域の問題点も再認識しました。

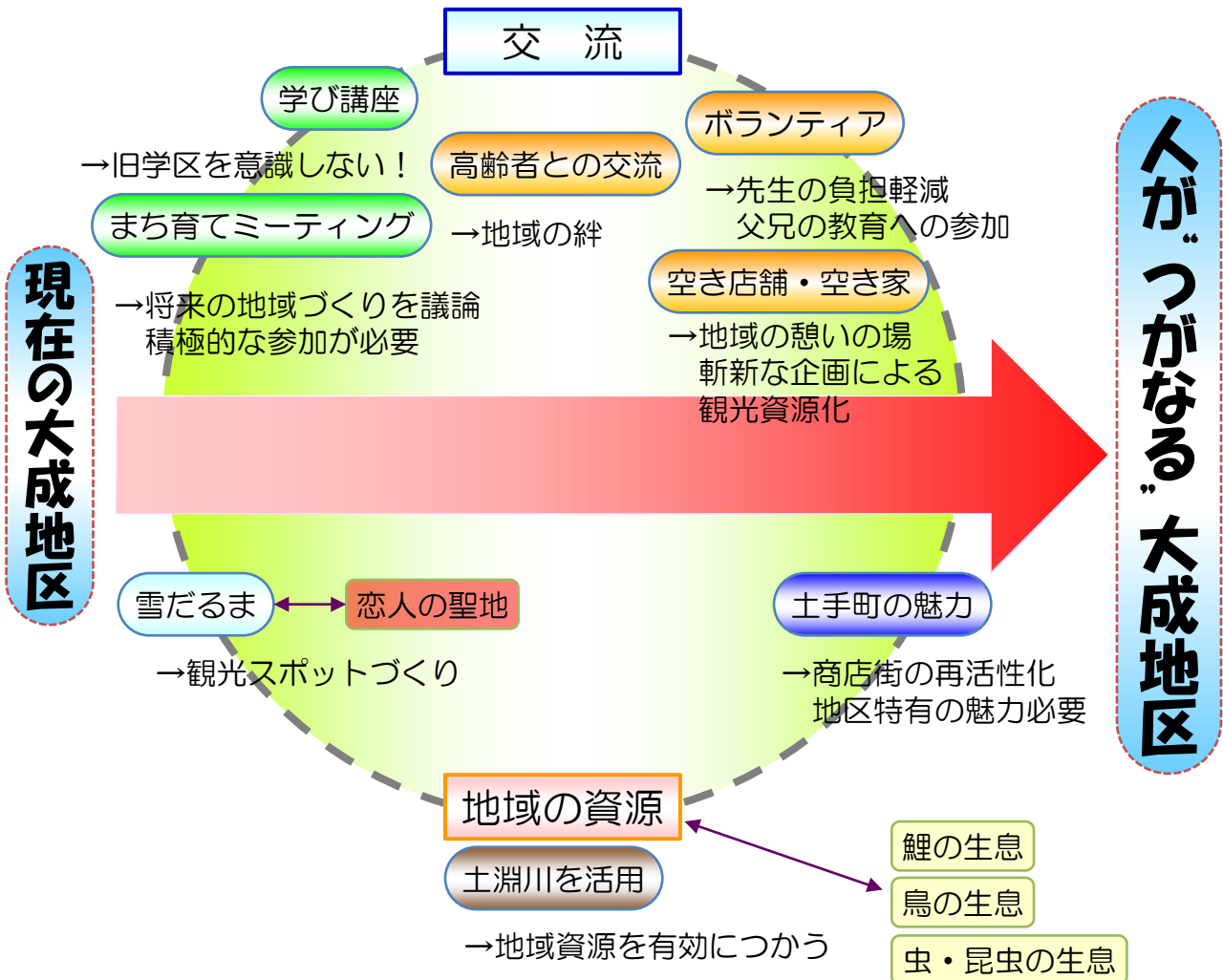
このようなことから、大成小学校区では、“魅力と不安を活かす”をキーワードに次のことを大切にしたいと考えています。

- ① 地域が一体となった“人がつながる”大成地区にする
- ② 商店街を中心に人・物の交流を促進させる
- ③ 地域の資源を最大限活用した、地域活性化への取組み

これから取組みたいこと（暮らしがより楽しめる地域にしていくために）

テーマ	取組み	具体的に何をするか？	優先度	誰がやるか？
交流	学び講座	旧第一大成・第二大成小を意識しないで、地域の連携を強くする。例えば、 ・名称を“大成学区学び講座” ・料理教室、ゴルフ教室、子育て	◎	学び講座運営委員 町会 地域住民
	町会主催の“まち育てミーティング”の開催	将来の地域づくりについて積極的に議論する場をつくる。例えば、 ・若い人の参加、学校の参加 ・コーディネーターの協力 ・小学校地域交流室の活用	◎	各専門家、企業 地域住民 PTA
	学校でのボランティア活動	教師の負担を軽減させるため、学校教育への積極的な参加をする。例えば、 ・校外社会見学の引率 ・絵本などの読み聞かせ	○	学校 地域住民
	空きスペースの有効活用	空き店舗や空き家を有効活用する。例えば、 ・地域のお茶のみ会 ・（東京おもちゃ美術館のような人）を呼べる空間づくり	○	町会 行政
	昔の人の話を聞く	大成小学校の歴史や昔の遊びを伝える。	◎	地域住民
大成（地域）の資源	土淵川を活用	土淵川の清掃や周辺をライトアップをして、きれいな散歩コースをつくる。	△	町会 行政
	土手町の魅力	観光資源やイベントで、“歩きたい”と思わせる土手町をつくる。例えば、 ・合同ねぶた運行 ・まち歩きツアー ・観光スポットのライトアップ ・土手町の魅力発掘	△	イベント主催者 NPO
	雪だるま	土淵川、吉野緑地公園、商店街を利用して、雪だるまをつくる。 ・一つの特徴あるイベントの開催	○	小学校 PTA

大成小学校区の価値観（地域の特徴や大事にしたいことは何か？）



大成小学校区の資源マップ（地域の自慢や課題はどこにあるか？）

交流	
①	学び講座
②	町会主催の“まち育てミーティング”の開催
③	学校でのボランティア活動
④	空きスペースの有効活用
⑤	昔の人の話を聞く

大成（地域）の資源	
①	土淵川を活用
②	土手町の魅力
③	雪だるま

凡 例	
●	商業施設
●	医療施設
●	学校
⚡	神社
●	観光資源
○	活動
★	優先度が高い取組み
★	既存の取組をベースにした取組



吉野町緑地公園



吉野町煉瓦倉庫



弘前昇天教会



大成小学校



JR弘前駅



中央弘前駅



松尾神社



富田の清水(しっこ)



弘前厚生学院



小学校跡地

第三大成小学校区

地域を自分たちの暮らすまちとして、皆で協力して、守り、育てていくため、弘前市では、「まち育て」という考え方のもと、市民の自主的な活動への支援や、各種計画の策定や事業実施における市民参加を進めています。この地域別構想は、地域別のまち育てミーティングを通して地域にお住まいの皆さまの生のご意見をいただくとともに、地域の資源を生かしながら、住まい環境をより良いものにしていくために、具体的にどんな取組が必要か、どうしたら実現できるのかを皆さまと考えながら作成されました。



まち育てミーティングの様子

○まち育てミーティングにおける検討の流れ

- 第1部** 地域の自慢を出し合い、地域の特徴を考えよう！
- 第2部** 地域の自慢を磨き、地域の特長を生かしたまちづくりについて考えよう！
- 第3部** まちづくりの最初の一步を考えよう！

地域の取組みで大事にしたいこと

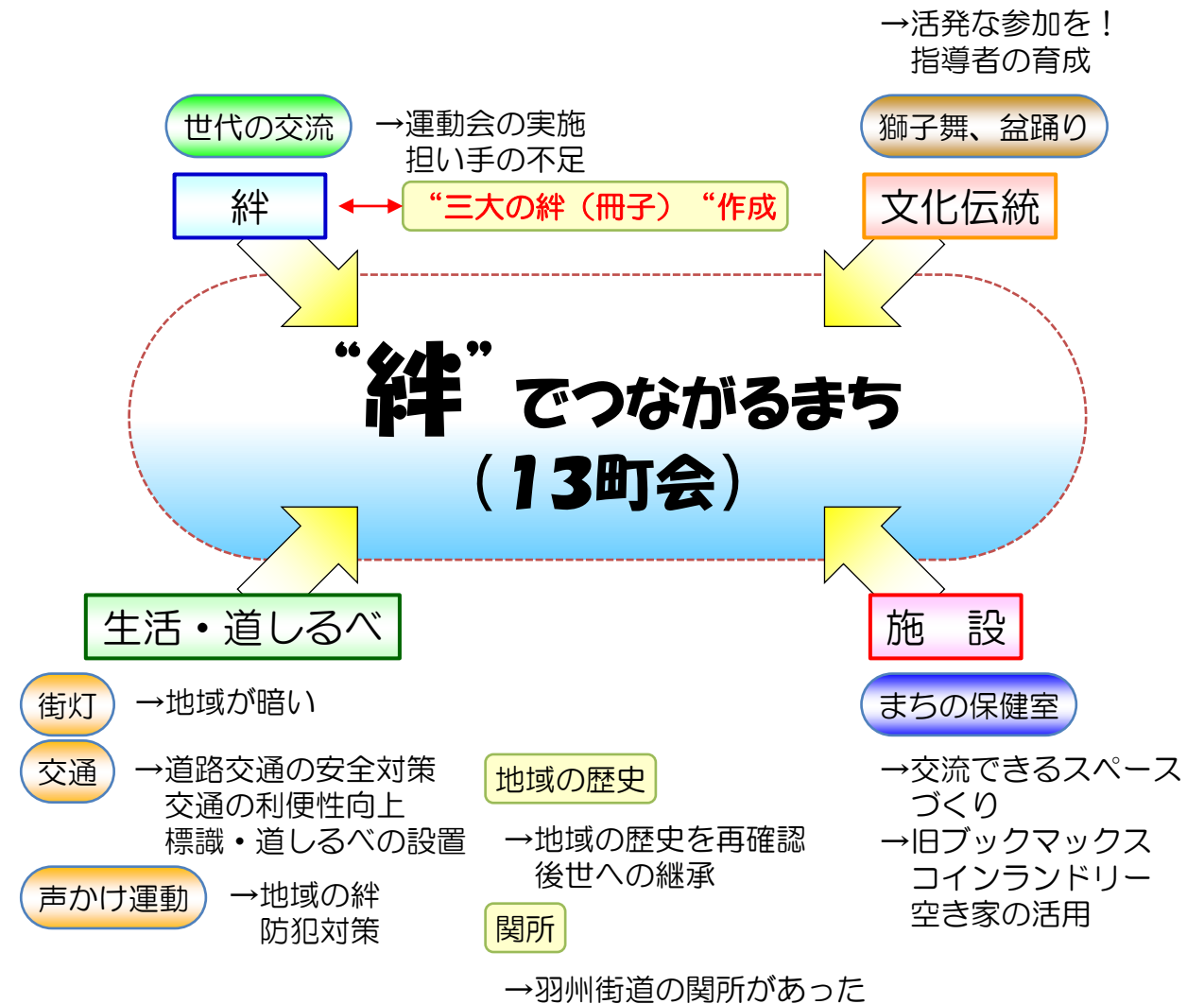
第三大成小学校区は“地域づくり連絡協議会”があり学校や地域とのつながりが良いこと、藩政時代からの神社・仏閣が多く歴史的・文化的な施設や建物が多いこと、伝統的な行事が残っていることなど、生活環境がよいことが確認されました。また、地域活動も盛んでコミュニティのある地域でもあります。その一方で、小道が多く道路が歩きづらいこと、公共交通機関の利便性が悪いこと、少子高齢化により空家が多いことなど、地域の問題点も再認識しました。このようなことから、第三大成小学校区では、“絆”をキーワードに次のことを大切にまちづくりを進めていきます。

- ① 伝統的な文化を継承する
- ② 生活環境を向上させる
- ③ だれもが安心する“居場所”の創造

これから取組みたいこと（暮らしがより楽しめる地域にしていくために）

テーマ	取組み	具体的に何をするか？	優先度	誰がやるか？
絆	世代交流事業	弘前大学の学生の意見を導入して情報発信する。 ・若い人材の参加を増やす	◎	地域づくり連絡協議会
施設	まちの保健室	空き家や空き店舗のリフォーム、学校の空き教室を利用して子ども達の居場所を確保する。 ・多世代交流カフェ・遊びスペース	△	住民行政
生活・道しるべ	バスの路線拡大	利便性を向上させるため、100円バスの路線を延長する。 ・松森町～富田～柵形	△	住民行政 弘南バス
	街灯の設置	街灯を設置してまちを明るくする。 ・取上～清原 ・第三大成小学校～柴田幼稚園	△	住民行政
	渋滞緩和	交差点の著しい渋滞を緩和する。 ・信号の青時間を長くする	△	住民行政、警察
	ジャンル別マップづくり	観光資源を最大限活用して、地域の観光マップをつくる。 ・おすすめ散歩マップ ・地名や由来の標識 ・歴史的なスポットの充実	◎	町会
	通学路の充実	安全な歩行空間を確保するため、通学路を充実させる。 ・柴田幼稚園～ふたば保育園 ・取上～みちのく銀行 ・朝、夕の見守り	△	住民行政 警察
	あいさつ“声かけ運動”	“絆”でつながるまちづくりと地域住民の意識向上のため、普段からあいさつをする。 ・頻繁に“声かけ”する ・組織づくりと担い手の育成	◎	住民学校
	文化伝統	獅子舞	地域の伝統的な“獅子舞”を後世につなげていく。 ・学校との連携（教育） ・指導者の育成・情報発信（宣伝）	○
貴船神社でのイベント盛り上げ		藩政時代から存在する貴船神社で行われているイベントを、町会を超えた交流で盛り上げたい。 ・宵宮、ラジオ体操、盆おどり	○	町会 神社 学校

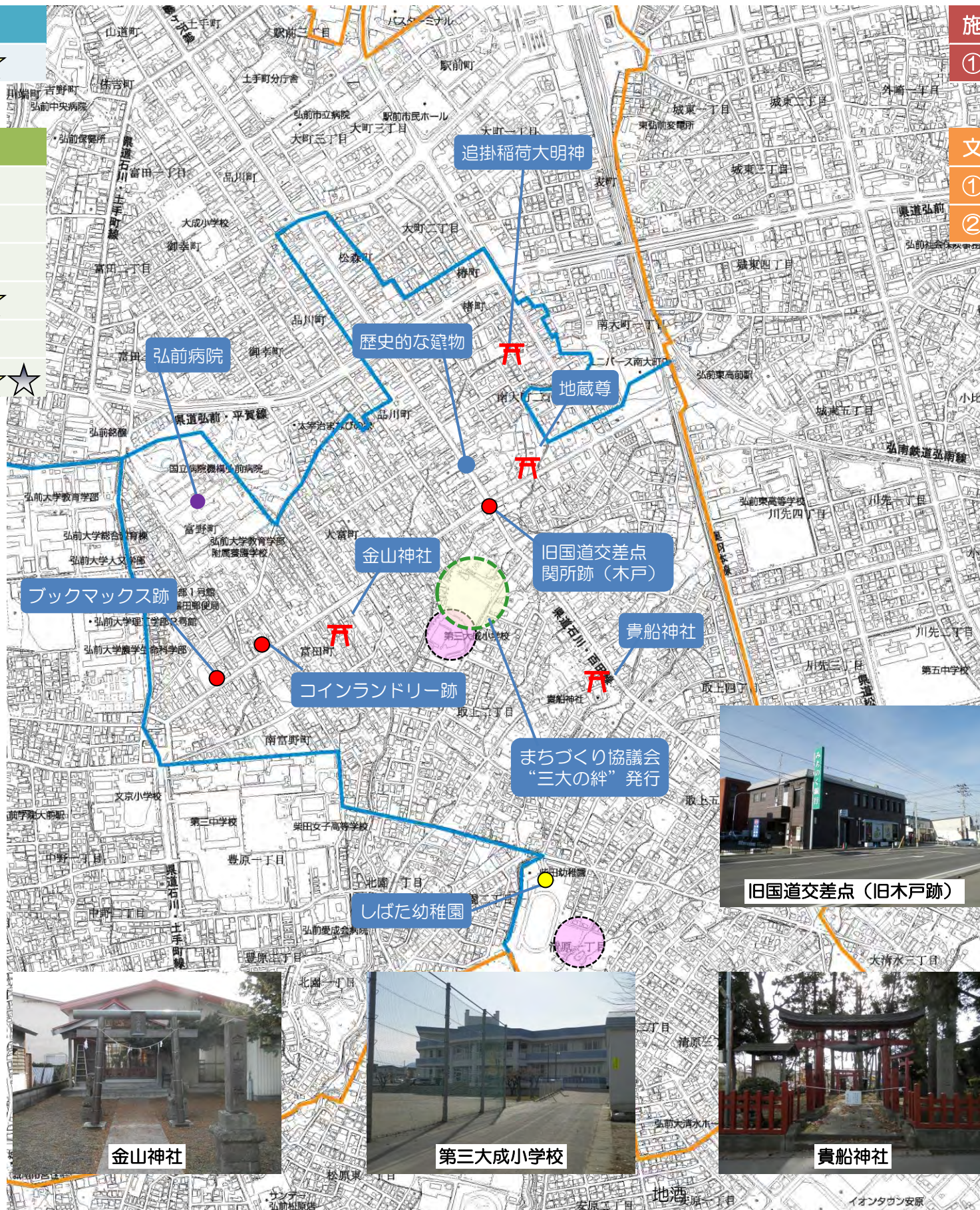
第三大成小学校区の価値観（地域の特徴や大事にしたいことは何か？）



第三大成小学校区の資源マップ（地域の自慢や課題はどこにあるか？）

①	世代交流事業	★
生活・道しるべ		
①	バスの路線拡大	
②	街灯の設置	
③	渋滞緩和	
④	ジャンル別マップづくり	★
⑤	通学路の充実	
⑥	あいさつ“声かけ運動”	★★

施設		
①	まちの保健室	
文化伝統		
①	獅子舞	★
②	貴船神社でのバト盛り上げ	★



凡 例	
●	商業施設
●	医療施設
●	公民館・集会所・学校
●	保育園
⚡	神社
●	観光資源
●	活動
★	優先度が高い取組み
★	既存の取組をベースにした取組



追掛稲荷大明神



地蔵尊



ブックマックス跡



金山神社



第三大成小学校



旧国道交差点 (旧木戸跡)



貴船神社



東北女子大学



弘前病院

文京小学校区



まち育てミーティングの様子

地域を自分たちの暮らすまちとして、皆で協力して、守り、育てていくため、弘前市では、「まち育て」という考え方のもと、市民の自主的な活動への支援や、各種計画の策定や事業実施における市民参加を進めています。

この地域別構想は、地域別のまち育てミーティングを通して地域にお住まいの皆さまの生のご意見をいただくとともに、地域の資源を生かしながら、住まい環境をより良いものにしていくために、具体的にどんな取組が必要か、どうしたら実現できるのかを皆さまと考えながら作成されました。

○まち育てミーティングにおける検討の流れ

- 第1部** 地域の自慢を出し合い、地域の特徴を考えよう！
- 第2部** 地域の自慢を磨き、地域の特長を生かしたまちづくりについて考えよう！
- 第3部** まちづくりの最初の一步を考えよう！

地域の取組みで大事にしたいこと

文京小学校区は弘前学院大前駅や西弘商店街を中心に、お祭りを企画したりねぶた製作に積極的に取り組んでいること、あいさつ運動も盛んであることから地域のつながりが良いことが確認されました。また、学校・学生が多いことから比較的若い世代の人が多くいこともわかりました。

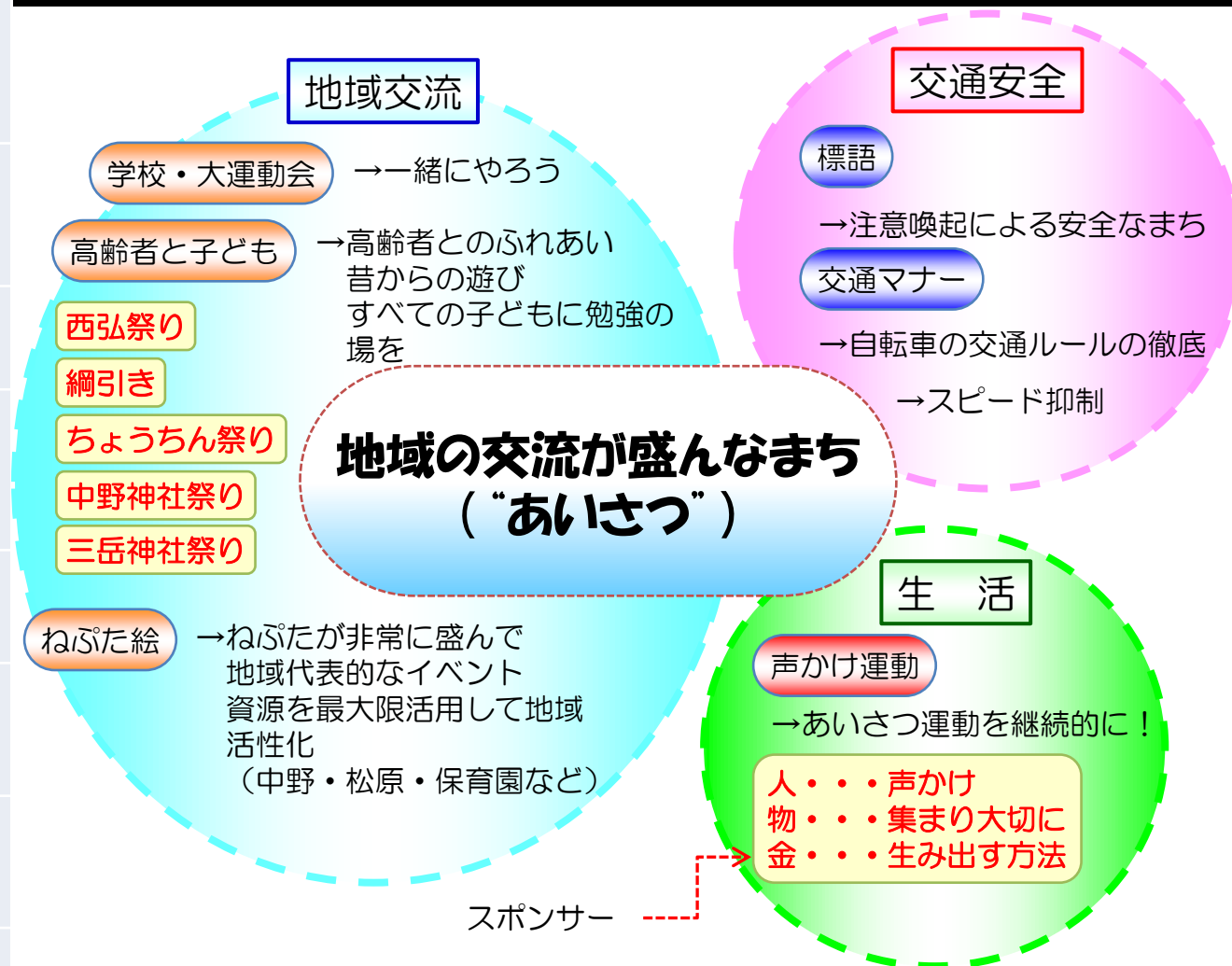
その一方で、道路が狭くて危険な箇所が多いこと、地域住民と学生とのコミュニケーションが少ないことなど、地域の問題点も再認識しました。このようなことから、文京小学校区では、“学生と共生”をキーワードに次のことを大切にしまちづくりを進めていきます。

- ① 大学・学生と連携した地域のつながり
- ② イベントを通じたコミュニティのある地域の絆
- ③ “安心・安全”な道路交通環境の創出

これから取組みたいこと（暮らしがより楽しめる地域にしていくために）

テーマ	取組み	具体的に何をするか？	優先度	誰がやるか？
地域交流	大運動会	地域と学校との交流を促進させるため、共同運動会を開催する。 ・若者との出会いの場	○	町会・PTA 文京地区体育協会 学区学び講座
	みんなで学校に行こう	地域と学校との交流を促進させるため、学校に遊びに行く。 ・学食での食事・学習発表会への参加	○	学校 PTA 芸能団体
	地域と大学生の掲示板“フナ・プロ”（フナコプロジェクト）	津軽伝統工芸品の“フナコ”を活用して、地域の活性化を図る。 ・大学サークルへの参加 ・“フナコ”と大学のコラボ ・（津軽弁講座）	△	地域住民 各大学
	高齢者と子どもの集いの場	高齢者とのふれあいを多くするため、部屋を借りて集いの場をつくる。 ・子どもの所へ地域が、地域の所へ子どもが ・おはじき、お手玉など昔の遊びをする	○	体育センター （スポネット）
	“絆”～地域と教師と子ども～	学校に通学できない子どものために、子どもが通う場所をつくる。 ・集会所・空き家	○	地域住民 行政、教育委員会 PTA
	ねぶた絵ロード	地域で盛んである“ねぶた”を活用して、商店街や道路にねぶた絵を飾る。 ・体験コーナーやコンテスト実施 ・標語とJTB・ろうそくねぶた絵の展示	○	商店街、職人 学生 小中学校
生活	声かけプロジェクト	“あいさつが活発”な地域をつくるため、あいさつ運動で地域の繋がりを強くする。 ・一声、二声、どんどん声を！	◎	地域住民
交通安全	標語	子どもたちや学生が交通安全の標語を書いて校区内に設置する。 ・標識、看板に標語を設置 ・頻繁に入れ替えて“違反ストップ”	◎	学校 アパート管理者 行政
	交通マナー	自転車の交通マナーが悪いため、学校と連携した交通マナー向上に取り組む。 ・学校との連携したマナー教室 ・大学のトイレに標語	○	学校 行政 警察
	交通モデル地区	交通安全に積極的な地域をアピールするため、交通モデル地区をつくる。 ・道路カラーリング ・交通情報の調査、情報提供	○	交通安全協会 消防団、町会 PTA

文京小学校区の価値観（地域の特徴や大事にしたいことは何か？）



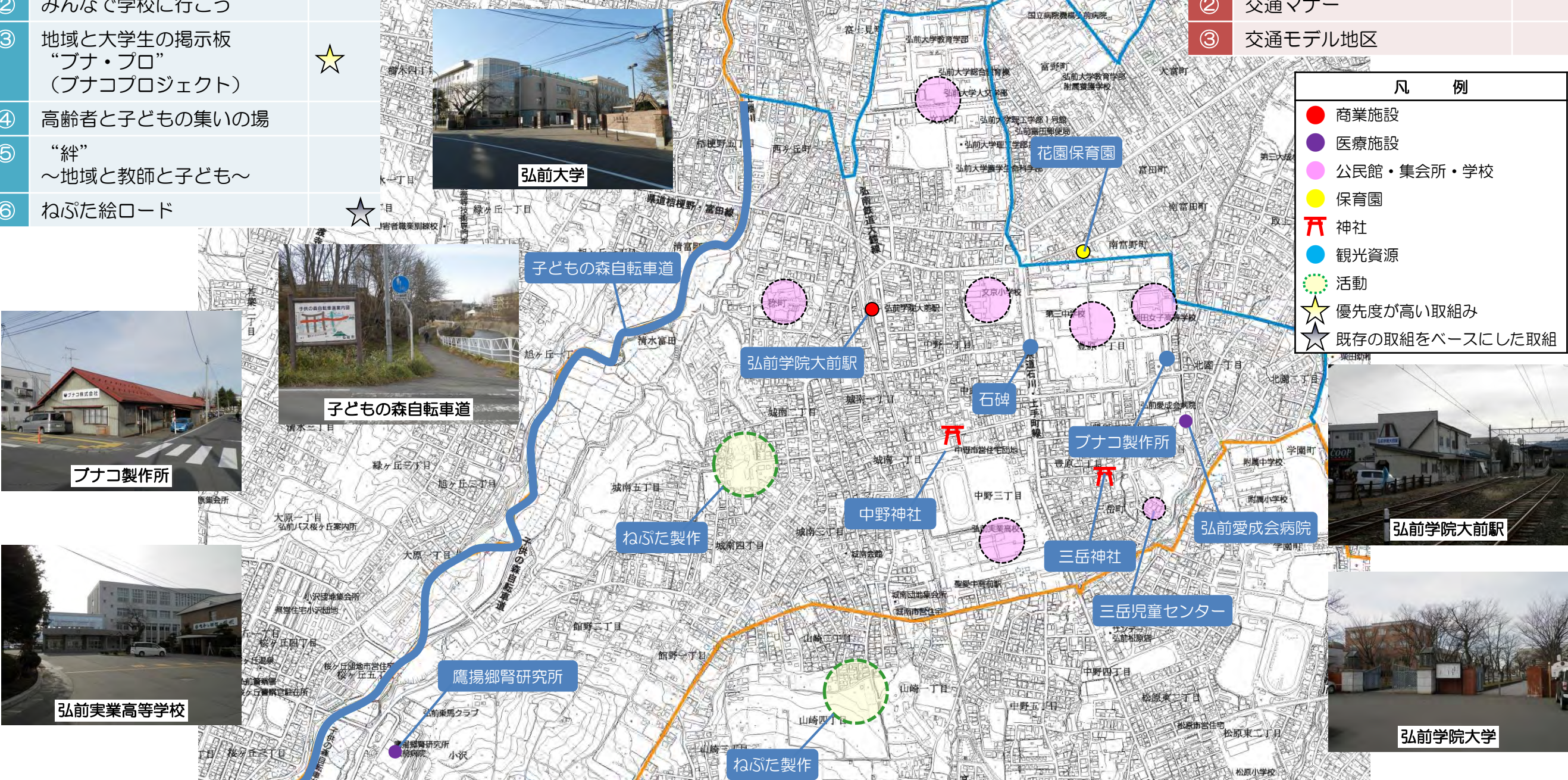
文京小学校区の資源マップ（地域の自慢や課題はどこにあるか？）

地域交流	
① 大運動会	☆
② みんなで学校に行こう	
③ 地域と大学生の掲示板 “ブナ・プロ” (ブナコプロジェクト)	★
④ 高齢者と子どもの集いの場	
⑤ “絆” ～地域と教師と子ども～	
⑥ ねぶた絵ロード	☆

生活	
① 声かけプロジェクト	★★

交通安全	
① 標語	★
② 交通マナー	
③ 交通モデル地区	

凡 例	
● (赤)	商業施設
● (紫)	医療施設
● (黄)	公民館・集会所・学校
● (青)	保育園
⚓ (赤)	神社
● (青)	観光資源
● (緑)	活動
★ (黄)	優先度が高い取組み
★ (黒)	既存の取組をベースにした取組



2015 年度（平成 27 年度）

東目屋中学校区

東目屋中学校区



まち育てミーティングの様子

地域を自分たちの暮らすまちとして、皆で協力して、守り、育てていくため、弘前市では、「まち育て」という考え方のもと、市民の自主的な活動への支援や、各種計画の策定や事業実施における市民参加を進めています。

この地域別構想は、地域別のまち育てミーティングを通して地域にお住まいの皆さまの生のご意見をいただくとともに、地域の資源を生かしながら、住まい環境をより良いものにしていくために、具体的にどんな取組が必要か、どうしたら実現できるのかを皆さまと考えながら作成されました。

〇まち育てミーティングにおける検討の流れ

- 第1回** 地域の自慢を出し合い、地域の特徴を考えよう！
- 第2回** 地域の自慢を磨き、地域の特長を生かしたまちづくりについて考えよう！
- 第3回** まちづくりの最初の一步を考えよう！

地域の取組みで大事にしたいこと

東目屋中学校区では、町内会の各団体や小中学校のPTAと協働して、各町会の代表者で構成されている東目屋協議会が中心となって地域活動を実施している。しかし、当地区の代表的な伝統文化でもある獅子舞や登山囃子が昔から継承されてきたが、近年は後継者不足から継続が困難になりつつある。

また、地域の自慢としては、水田農家が主体となって活動している「ほたるの里」と「キレイな水」、その水で育つ「品質の良いりんごと農作物」など、多くの地域資源があることを再認識しました。

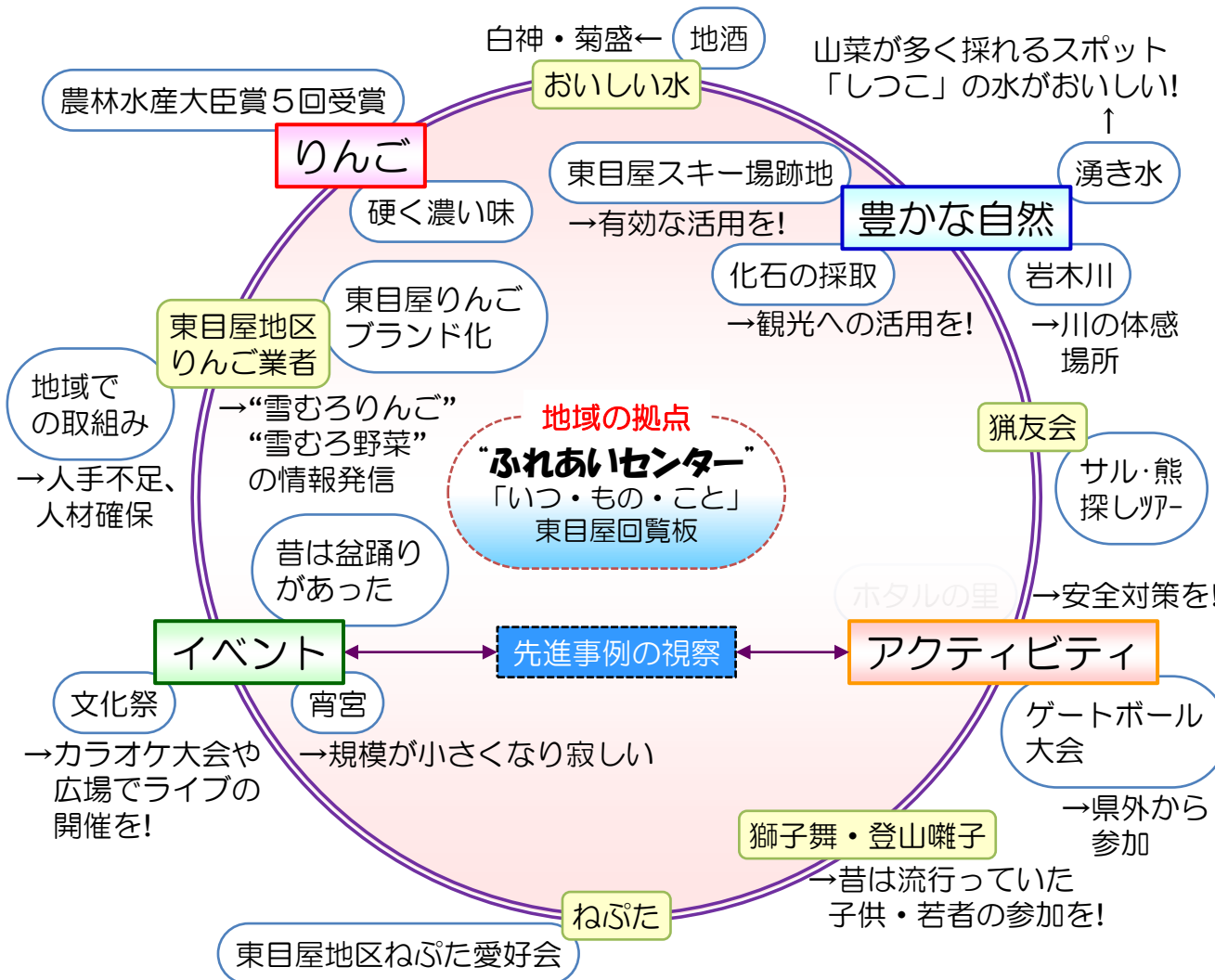
このようなことから、東目屋中学校区では、次のことを大切にまちづくりを進めていきます。

- ① 東目屋地区のりんごをブランド化して魅力を発信する
- ② 獅子舞や登山囃子・神社など、地域の文化と宝物を活かしたイベントで、地域の結束力を高める
- ③ 地域に人を呼び込むような取組みで、まち育てを進める

これから取組みたいこと（暮らしがより楽しめる地域にしていくために）

テーマ	取組み	具体的に何をするか？	優先度	誰がやるか？
りんご	東目屋“雪むろりんご”	東目屋地区のよい品質のりんごを活用して、ふれあいセンターの駐車場や東目屋小学校の校庭を利用し、東目屋りんごのブランド化で独自のものをつくる。 ・東目屋の雪質の特徴を活かす ・子供達も一緒に活動する	◎	支会連 農協青年部
	りんごもぎ体験	木に生ったままのりんごを都会へトレーラーで運び、都会の子供達に実際にりんごもぎ体験をしてもらう。また、その情報をテレビなどメディアを通じて情報発信する。	△	中学校の子ども達 中学校のPTA 校長先生
	木箱作り大会	他のイベントと合わせて、りんごの木箱や別な形の木箱（本棚など）を作る大会を行なう。	◎	公民館（長） 東目屋協議会
イベント	獅子舞や登山囃子の保存	地元の文化であり、郷土芸能でもある獅子舞や登山囃子を後世につなげていく。 ・子供達や若者も参加する ・小中学校や保育園で体験する	○	東目屋協議会 氏子 小中学校のPTA 保育所の子ども達
	ホテルの里の活用	ホテルがいるキレイな水と自然環境を守り、さらに、“ほたるの里”までの道路整備と観察できる場所をつくる。 ・キレイな水で作った農作物の安心・安全 ・ほたるの会の活動PR	○	
	夜のイベント（夜まつり）	津軽三十三観音2番札所である多賀神社(子の一代様)を活用し、宵宮や文化祭の前夜祭を実施して地域全体を活性化したい。	◎	地元の飲食店ほか
アクティビティ	自転車のロードレース開催	自転車（ロードタイプ）が多くなってきているので、県道岩崎西目屋弘前線（バイパス）を利用したコースをつくり、ロードレースを行なう。	○	地元行政
地域拠点	東目屋スキー場の整備・活用	現在、利用されていない東目屋スキー場に花を植えて地域拠点の一つとする。 ・各町会ごとにPR ・観光スポット	△	住民 公民館婦人部

東目屋中学校区の価値観（地域の特徴や大事にしたいことは何か？）



東目屋中学校区の資源マップ（地域の自慢や課題はどこにあるか？）

りんご

- ① 東目屋“雪むろりんご” ★
- ② りんごもぎ体験
- ③ 木箱作り大会 ★

イベント

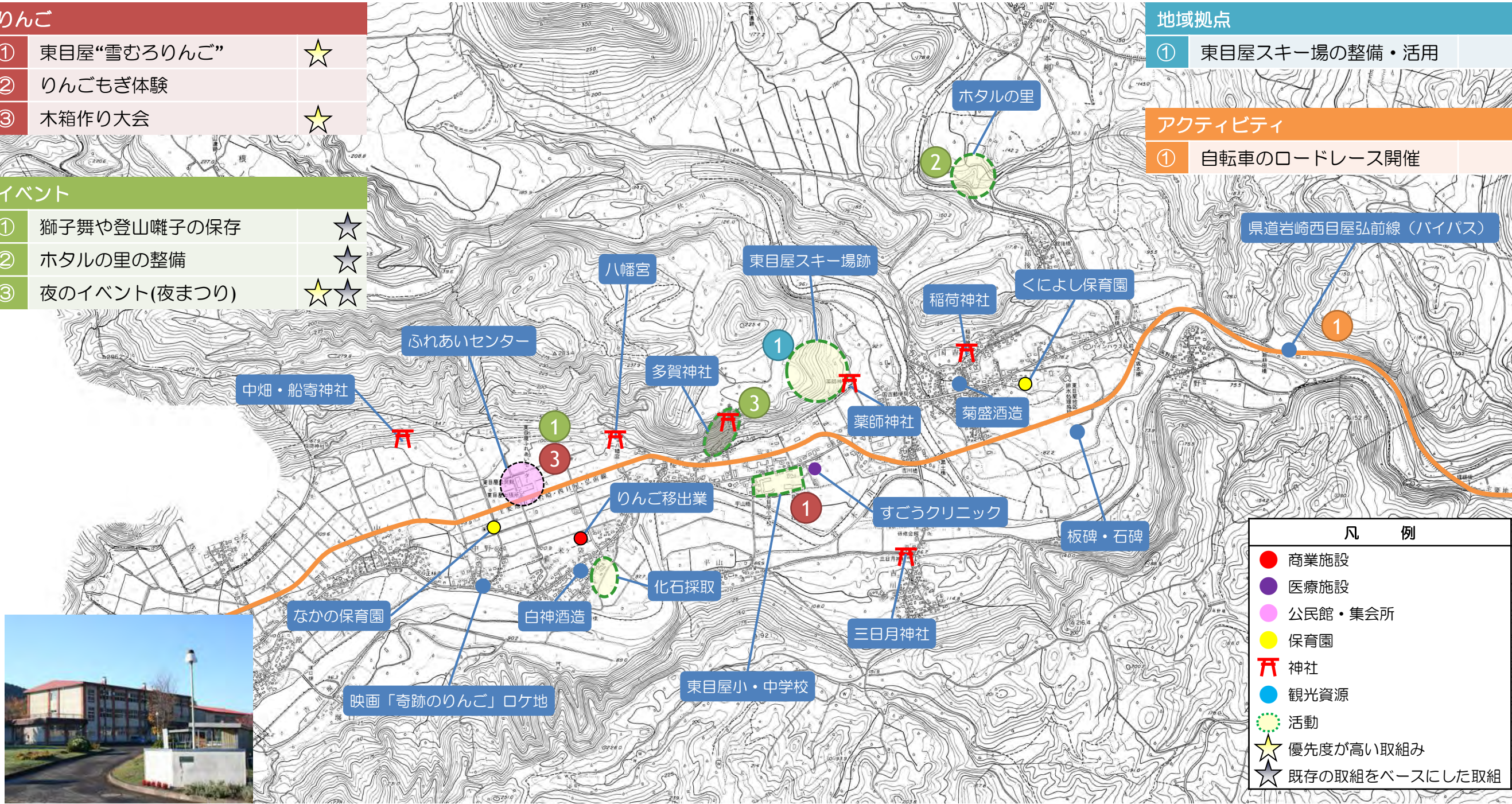
- ① 獅子舞や登山囃子の保存 ★
- ② ホタルの里の整備 ★
- ③ 夜のイベント(夜まつり) ★★

地域拠点

- ① 東目屋スキー場の整備・活用

アクティビティ

- ① 自転車のロードレース開催



東目屋中学校



東目屋小学校



ふれあいセンター



雪むろりんご



地酒



多賀神社



自転車（ロードタイプ）

2015 年度（平成 27 年度）

裾野中学校区

裾野中学校区

地域を自分たちの暮らすまちとして、皆で協力して、守り、育てていくため、弘前市では、「まち育て」という考え方のもと、市民の自主的な活動への支援や、各種計画の策定や事業実施における市民参加を進めています。この地域別構想は、地域別のまち育てミーティングを通して地域にお住まいの皆さまの生のご意見をいただくとともに、地域の資源を生かしながら、住まい環境をより良いものにしていくために、具体的にどんな取組が必要か、どうしたら実現できるのかを皆さまと考えながら作成されました。



まち育てミーティングの様子

○まち育てミーティングにおける検討の流れ

- 第1回** 地域の自慢を出し合い、地域の特徴を考えよう！
- 第2回** 地域の自慢を磨き、地域の特長を生かしたまちづくりについて考えよう！
- 第3回** まちづくりの最初の一步を考えよう！

地域の取組みで大事にしたいこと

裾野中学校区では、平成28年4月1日から、修斉小学校と草薙小学校が統合して、新たに裾野小学校として開校します。統合に向けて、これまで両校の児童や保護者、地域住民が積極的に地域の将来を考えて活動していることが確認されました。また、神社が多いこの地域では、神社に関わる伝統行事が盛んに行われていたこと、“遺跡”や“歴史的な史跡”などが多く存在していること、さらに、中学生がひとり暮らしの年配の方の家に門松や年賀状を配布して、地域住民との交流を深めていることも確認されました。地域の自慢としては、「約600年前から湧き出る羽黒神社の湧き水」、「巖鬼山神社の推定3000年の大杉」、「縄文遺跡群の大森勝山遺跡」など、多くの地域資源があることです。このようなことから、裾野中学校区では、次のことを大切にしまちづくりを進めていきます。

- ① 裾野地区のりんごと水を使って新たなブランドをつくる
- ② 公民館や各地区の神社を活用して、地域住民が集うイベントを継続・企画し、地域の交流を深める
- ③ 農業を通じた地域の魅力を積極的に発信し“人が行きたくなる地域”“見たくなる地域”をつくる

これから取組みたいこと（暮らしがより楽しめる地域にしていくために）

テーマ	取組み	具体的に何をするか？	優先度	誰がやるか？
自然・特産物	名水のPR “羽黒様の清水”	羽黒神社で湧き出ている水を活用して、“裾野りんごジュース”や“裾野りんごかき氷”、“裾野シールド”を作って販売する。 ・水とりんごの組合せ	◎	PTA 地域情報誌
	りんごのブランド化	寒暖差でおいしくなる“裾野りんご”を、津軽弁で親しみやすい名前をつけて、地域ブランドとして栽培・販売する。 ・例) “裾野め〜ごいりんご” ・葉とらずりんご(コスモふじ)	◎	農協青年部 農家
	“大杉”の保存	巖鬼山神社の境内にある、県天然記念物の推定3000年の“大杉”2本を地域全体で保存し、後世に伝える。	△	地域住民 子どもたち 行政
	パワースポットのPR	巖鬼山神社や山風森神社は、パワースポットとして観光客も訪れるため、神社めぐりも含めて広くPRする。	○	町内会 メディア
イベント	神社祭りや盆踊りの保存	各地域にある神社を活用して、盛んであった盆踊りを組合わせた神社祭りを一斉に開催する。 ・公民館祭りや合同開催 ・カラオケ大会、屋台出店、花火 ・スタンプラリーで賞品 ・羽黒神社の眼病治癒(目の神様)	◎	公民館 町会連合会 中学校
伝統工芸	“わらじ・しめ縄”の保存	昔この地域で作っていた“大わらじ”や“しめ縄”を復活させて、地域特有の伝統工芸を後世に伝える。	△	町会連合会 公民館 中学校
世界遺産	“大森勝山遺跡”の活用	世界遺産登録を目指している、北海道・北東北縄文遺跡群“大森勝山遺跡”を活用し、観光客を集めて地域の活性化を図る。 ・“いのっち”の商品化 ・縄文体験ツアー、土器作り体験	○	大森勝山保存 活用推進会議
体験ツアー	“お嫁さん来て”大作戦	都会の人をターゲットに、農業体験ツアーや意見交換会を開いて、農業への関心度をアップさせる取組を行う。 ・夜の畑でデート(肝試し) ・1本の“Myりんごの木”で収穫 ・ミスター農家コンテスト	◎	農家 旅行社 会社 広告会社 行政

裾野中学校区の価値観（地域の特徴や大事にしたいことは何か？）

“地域の交流が盛んなまち”

（お年寄りと子ども達がみんな仲良し）

自然・特産物

“羽黒様の清水（目の神様）”

りんごブランド化

→観光への活用を！
→裾野らしい名前を！
りんご栽培の省力化

巖鬼山神社の大杉を保存

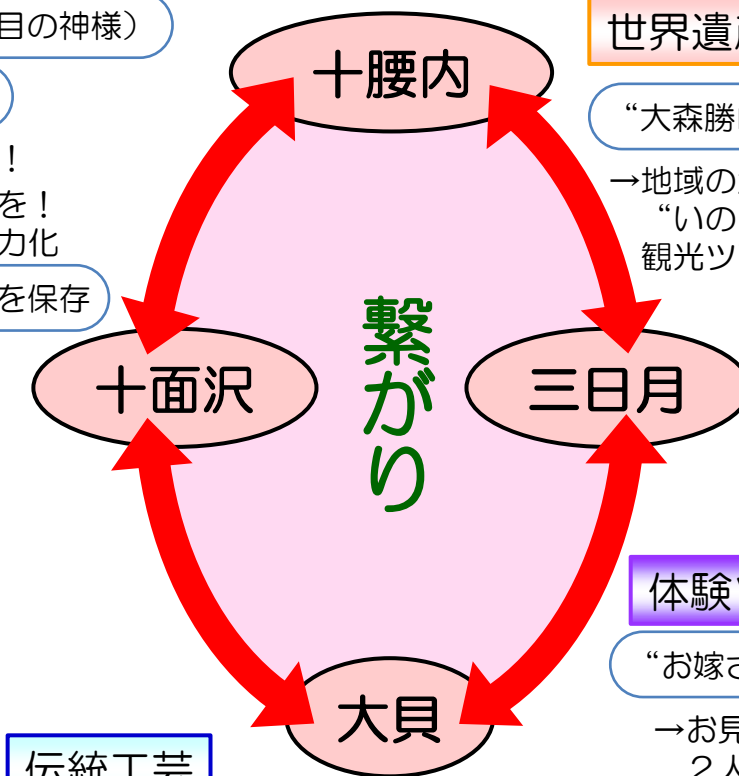
パワースポット

→観光資源へ！

世界遺産

“大森勝山遺跡”の活用

→地域の活性化(観光資源)
“いのっち”の商品化
観光ツアーなど企画



イベント

神社祭り

盆踊り

→地域活性化
交流促進

伝統工芸

大わらじ・しめ縄の保存

→作り手の発掘
後世への伝授

体験ツアー

“お嫁さん来て”大作戦

→お見合いツアー
2人だけの木
ミスター農家
コンテスト等

裾野中学校区の資源マップ（地域の自慢や課題はどこにあるか？）



三日月神社



羽黒神社



貴船神社



大石神社



巖鬼山神社



自然・特産物		
①	名水のPR “羽黒様の清水”	★
②	りんごのブランド化	★★
③	“大杉”の保存	
④	パワースポットのPR	

イベント		
①	神社祭りと盆踊りの保存	★★

伝統工芸		
①	“わらじ・しめ縄”の保存	

世界遺産		
①	“大森勝山遺跡”の活用	★

体験ツアー		
①	“お嫁さん来て”大作戦	★★



山風森神社

凡 例	
●	公民館・集会所
●	小・中学校
●	保育園
⚡	神社
●	観光資源
○	活動
★	優先度が高い取組み
☆	既存の取組をベースにした取組



大森勝山遺跡

2016 年度（平成 28 年度）

第四中学校区

第四中学校区

地域を自分たちの暮らすまちとして、皆で協力して、守り、育てていくため、弘前市では、「まち育て」という考え方のもと、市民の自主的な活動への支援や、各種計画の策定や事業実施における市民参加を進めています。

この地域別構想は、地域別のまち育てミーティングを通して地域にお住まいの皆さまの生のご意見をいただくとともに、地域の資源を生かしながら、住まい環境をより良いものにしていくために、具体的にどんな取組が必要か、どうしたら実現できるのかを皆さまと考えながら作成されました。

○まち育てミーティングにおける検討の流れ

第1部 地域の自慢を出し合い、地域の特徴を考えよう！

第2部 地域の自慢を磨き、地域の特長を生かしたまちづくりについて考えよう！

第3部 まちづくりの最初の一步を考えよう！



まち育てミーティングの様子

地域の取組みで大事にしたいこと

第四中学校区は、弘前市役所や市民会館など公共施設が多く立地条件が良いこと、禅林街やりんご公園、久渡寺、だんぶり池など、観光資源が豊富であることが確認されました。また、小沢ねぶたや桜ヶ丘ねぶたなど、地域の文化も継承されていることもわかりました。

その一方で、小沢・青柳地区は道路が狭くて危険な箇所が多いこと、桔梗野地区は駐在所が閉鎖されて安全面に不安があること、朝陽地区は老朽化した空き家が多いことと、禅林街などの観光地には観光旅行者が多く賑わいを見せているが、少し治安に不安があることなど、地域の問題点も再認識しました。

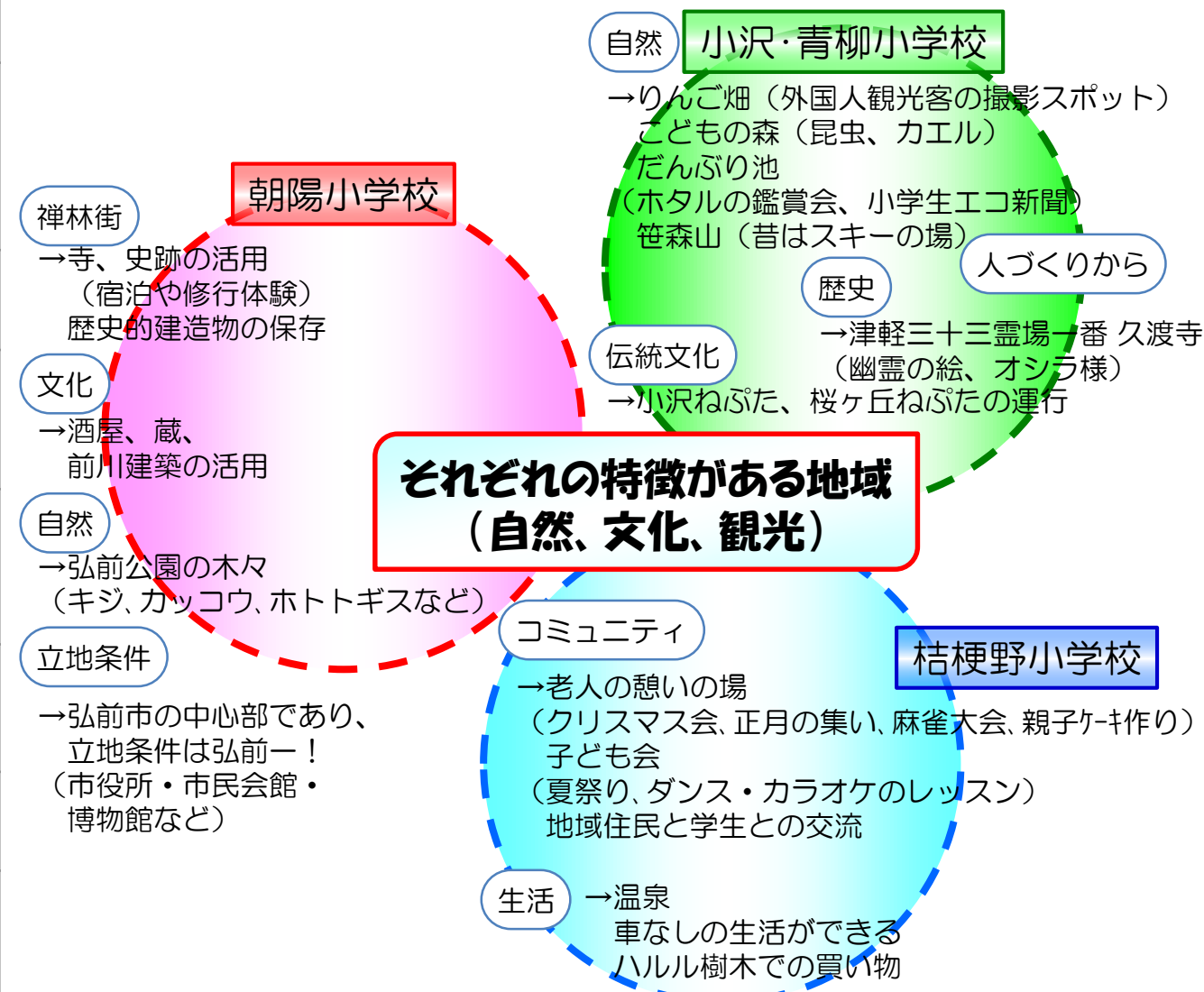
このようなことから、第四中学校区では、「まちなか、郊外、田園」の特色を生かし、“自然” “文化” “観光” をキーワードに次のことを大切にまちづくりを進めていきます。

- ① 豊かな自然を活かした地域づくり
- ② 歴史や伝統文化を通じたイベントで、コミュニティを活性化
- ③ “豊富な観光資源” を活用し、外国人旅行者や修学旅行者を積極的に誘致して地域の魅力を発信する

これから取組みたいこと（暮らしがより楽しめる地域にしていくために）

テーマ	取組み	具体的に何をするか？	優先度	誰がやるか？
地域資源	地域のマップ (まち歩きマップ)	地域に存在する魅力や心配事について、子ども達の目線を入れた地域マップをつくる。 ・歴史、グルメ、人物、安心安全 ・アプリ作成	○	連絡協議会 路地震探偵団
	“歴史的建物”の活用	歴史的な建物を活用して、地域の資源を再発掘する。 ・忠霊塔（盆踊り、グランピング） ・禅林街（民泊） ・忍者屋敷（忍者体験） ・久渡寺（久渡寺の歴史、受験祈願） ・クラウドファンディングでの資金調達	◎	任意団体 地域住民
コミュニティ	運動会の活性化	これまで行なわれた運動会を見直して、新しく“秋の運動会”を行なう。	△	スポネット弘前 体育協会 町内会
	留学生との交流	留学生との交流を深めるため、子ども達と一緒に活動の場をつくる。 ・子ども達と外国人との交流 ・まち歩き、和菓子体験、ゆかた着付け ・ねぶたまつりへの参加	◎	任意団体 町内婦人会
	空き地の利用	地域に点在する“空き地や空き家”を活用して、世代間の交流の場をつくる。 ・現代風寺子屋 ・昔遊び、焼肉パーティー	△	地域住民
	高齢者“イキイキプロジェクト”	高齢者が元気に暮らせることと、交流を深めるため、“歌声サークル”をつくる。	○	任意団体
生活	フラワープロジェクト	地域が連携して、草刈りや花を植えることで生活環境を良くする。	○	町会 地域住民
交通	地域交通を充実させる	“家から駅” “家からお店” など、地域住民が移動しやすい環境をつくる。 ・コミュニティバス	△	バス会社 タクシー会社 町会

第四中学校区の価値観（地域の特徴や大事にしたいことは何か？）



第四中学校区の資源マップ（地域の自慢や課題はどこにあるか？）



禅林街



りんご公園



新寺町



だんぶり池



久渡寺

2016 年度（平成 28 年度）

石川中学校区

石川中学校区

地域を自分たちの暮らすまちとして、皆で協力して、守り、育てていくため、弘前市では、「まち育て」という考え方のもと、市民の自主的な活動への支援や、各種計画の策定や事業実施における市民参加を進めています。

この地域別構想は、地域別のまち育てミーティングを通して地域にお住まいの皆さまの生のご意見をいただくとともに、地域の資源を生かしながら、住まい環境をより良いものにしていくために、具体的にどんな取組が必要か、どうしたら実現できるのかを皆さまと考えながら作成されました。



まち育てミーティングの様子

○まち育てミーティングにおける検討の流れ

第1回

地域の自慢を出し合い、地域の特徴を考えよう！

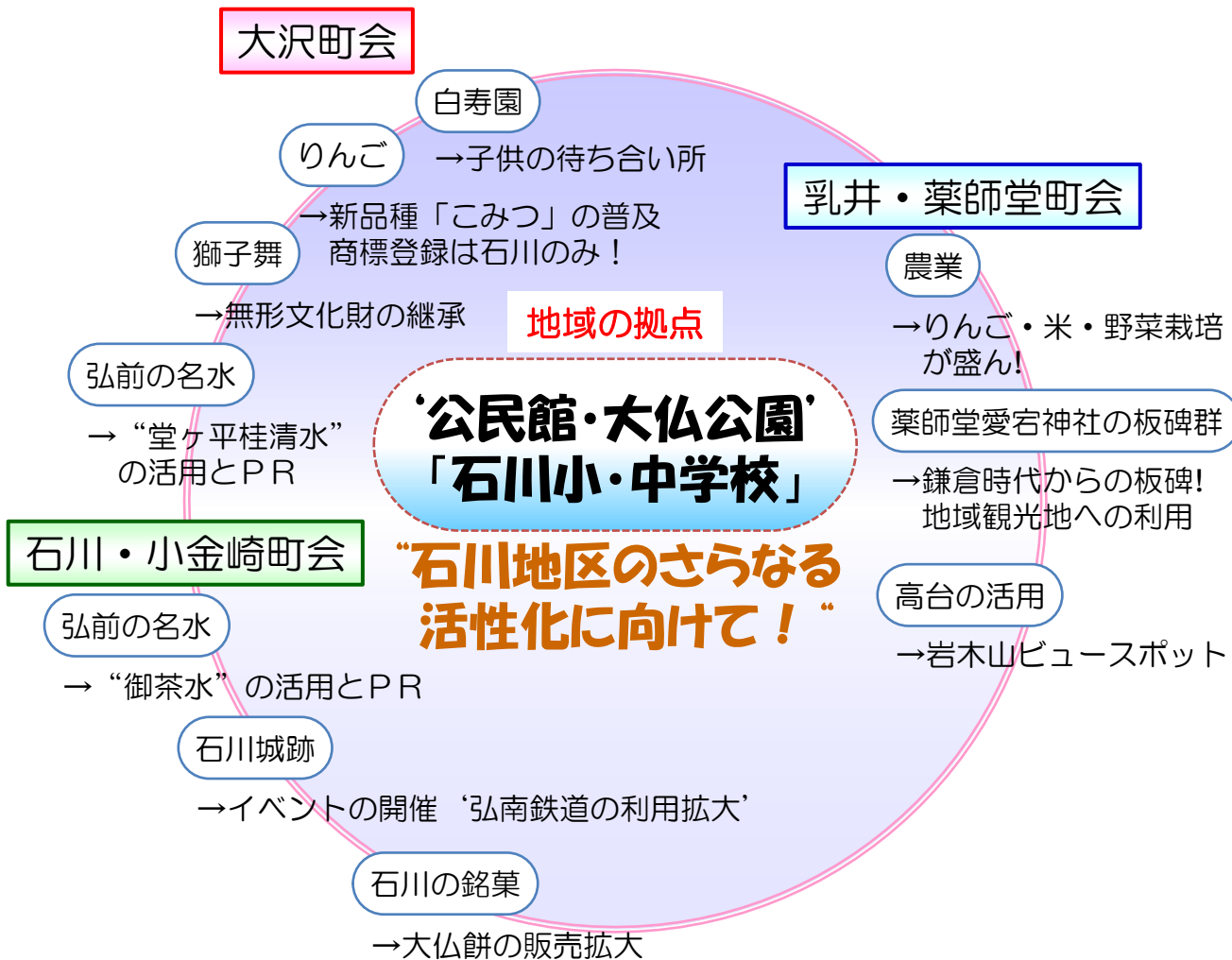
第2回

地域の自慢を磨き、
地域の特長を生かしたまちづくりについて考えよう！

第3回

まちづくりの最初の一步を考えよう！

石川中学校区の価値観（地域の特徴や大事にしたいことは何か？）



地域の取組みで大事にしたいこと

石川中学校区では、この地区の代表的施設である“大仏公園”を中心に、町内会の各団体や小中学校のPTAと協働して、地域活動を行なっています。しかし、商店街は後継者不足から、かつての賑わいも無く、全ての町会から出していた山車の行事も無くなってしまいました。

また、地域の自慢としては、「大沢の獅子舞」が無形文化財に登録されていることや、「寒暖差でおいしいりんご」、「鎌倉時代の板碑がある」ことなど、多くの地域資源があることを再認識しました。

このようなことから、石川中学校区では、次のことを大切にまちづくりを進めていきます。

- ① 寒暖差でおいしい石川地区のりんごを活用するために、農業教育などを行なって地域を活性化させる
- ② 地域の代表的な施設の“大仏公園”を活用したイベントで、地域の結束力を高める
- ③ 地域に人を呼び込むような取組みで、地域の魅力を向上させる

これから取組みたいこと（暮らしがより楽しめる地域にしていくために）

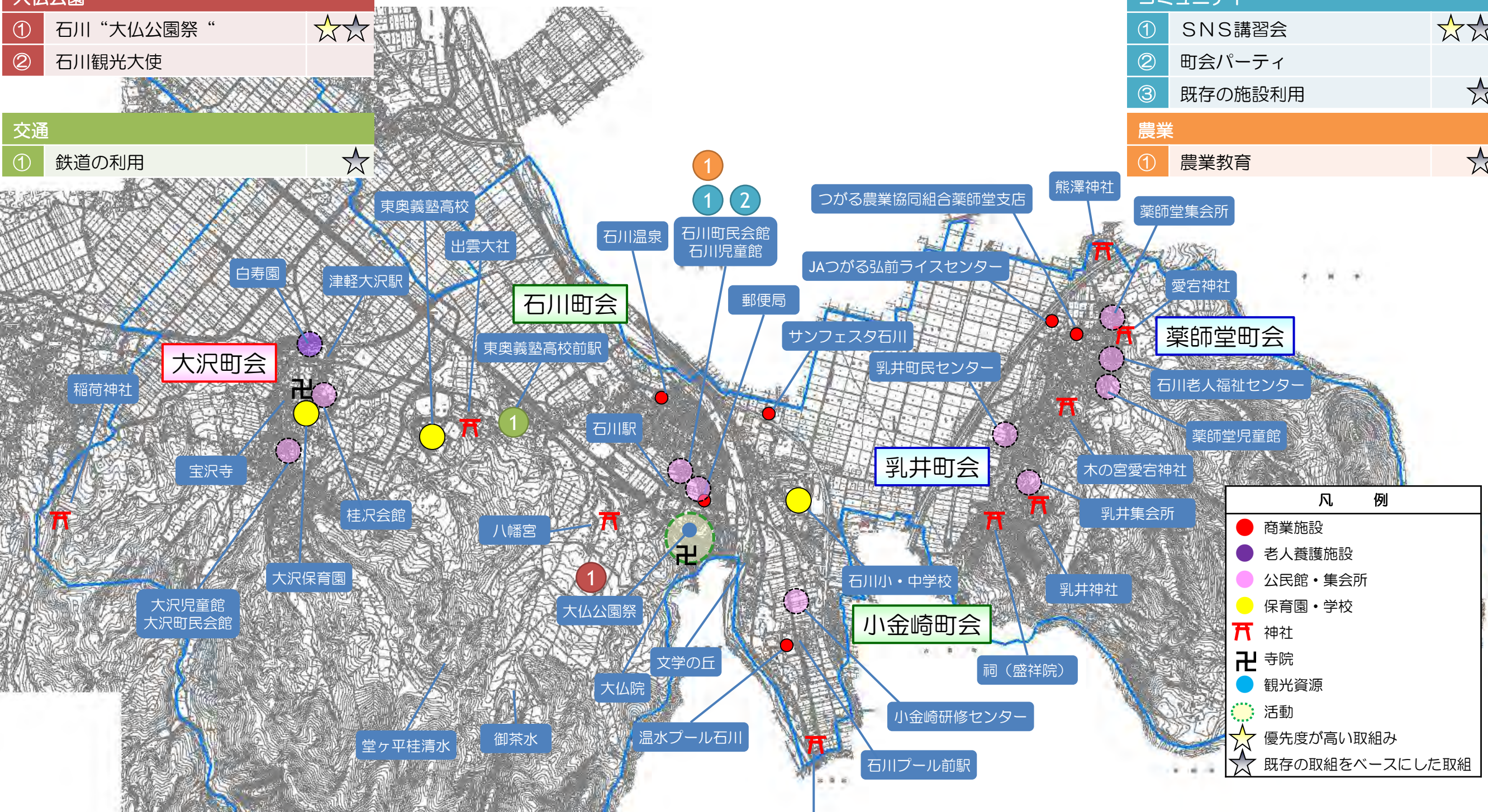
テーマ	取組み	具体的に何をやるか？	優先度	誰がやるか？
大仏公園	石川 “大仏公園祭”	石川地区で有名な“大仏公園”を活用して、春～冬までのイベントを行い、観光客を集める。特に、PR活動を積極的に行なう。 ・桜祭り ・あじさい祭り ・紅葉祭り ・冬祭り	◎	町会 地域住民
	石川観光大使	石川地区をPRするために、小学生や中学生が地区住民と一緒に歴史・文化を学び、観光大使として活動する。	△	町会 PTA 学校の先生方
交通	鉄道の利用	地域の重要な交通である弘南鉄道大鰐線やJRを活用して、弘前市中心市街地との交流を促進する。 ・農業との連携 ・まつりのPR ・観光大使の活躍	○	町会 地域住民
コミュニティー	SNS講習会	町会のFacebookをつくって、連絡網や閲覧板を発信する。 ・石川地区イベントなどのPR ・町会間の情報共有 ・若い世代も閲覧する	◎	町会
	町会パーティー	各地区の町会のコミュニティを維持・発展させるため、公民館を利用した“町会パーティー”を開催する。 ・サマーフェスティバル ・婚活パーティー	○	30代の若者達 任意団体 公民館 町会
	既存の施設利用	石川地区にある“老人福祉センター”を広い世代でも活用できる仕組みを考える。 ・小学生が集まる（遊び場） ・多世代の交流拠点	○	地域住民 弘前市
農業	農業教育	石川地区自慢の“あまいりんご”について、多世代を対象に農業教育をする。	○	町会 農協

石川中学校区の資源マップ（地域の自慢や課題はどこにあるか？）

大仏公園		
①	石川“大仏公園祭”	☆☆
②	石川観光大使	

交通		
①	鉄道の利用	☆

コミュニティ		
①	SNS講習会	☆☆
②	町会パーティ	
③	既存の施設利用	☆
農業		
①	農業教育	☆



凡 例	
●	商業施設
●	老人養護施設
●	公民館・集会所
●	保育園・学校
卍	神社
卍	寺院
●	観光資源
○	活動
☆	優先度が高い取組み
☆	既存の取組をベースにした取組



石川特産“こみつ”



あじさいまつり



大仏餅



弘南鉄道大鰐線

2016 年度（平成 28 年度）

新和中学校区

新和中学校区



まち育てミーティングの様子

地域を自分たちの暮らすまちとして、皆で協力して、守り、育てていくため、弘前市では、「まち育て」という考え方のもと、市民の自主的な活動への支援や、各種計画の策定や事業実施における市民参加を進めています。

この地域別構想は、地域別のまち育てミーティングを通して地域にお住まいの皆さまの生のご意見をいただくとともに、地域の資源を生かしながら、住まい環境をより良いものにしていくために、具体的にどんな取組が必要か、どうしたら実現できるのかを皆さまと考えながら作成されました。
○まち育てミーティングにおける検討の流れ

- 第1回** 地域の自慢を出し合い、地域の特徴を考えよう！
- 第2回** 地域の自慢を磨き、地域の特長を生かしたまちづくりについて考えよう！
- 第3回** まちづくりの最初の一步を考えよう！

地域の取組みで大事にしたいこと

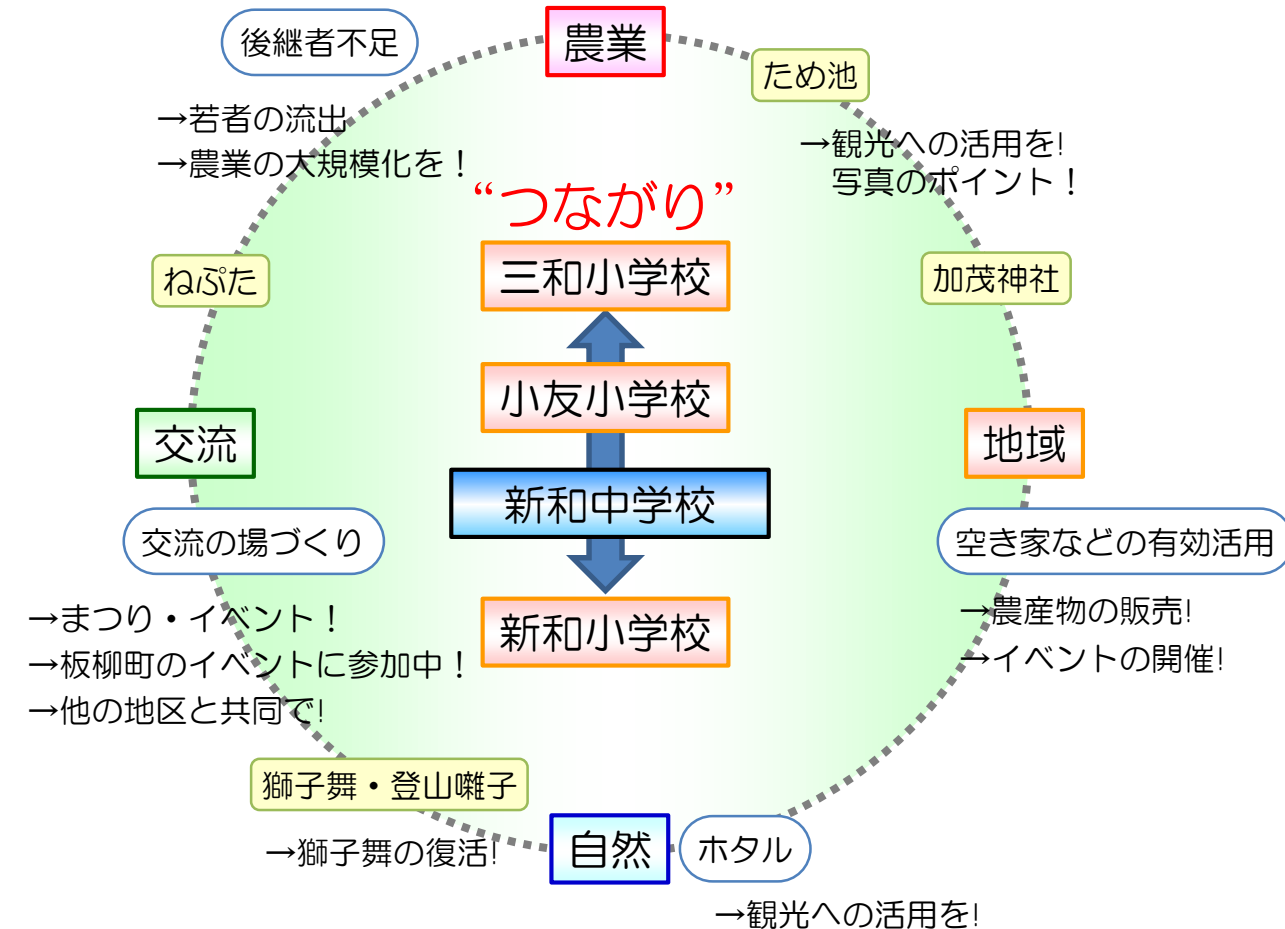
新和中学校区には、小友小学校・三和小学校・新和小学校があり、3小学校は同じ新和中学校区の小学校として、これまで地域との連携を大切にしながら様々な小中連携の事業に取り組んできました。しかし、近年の児童数の減少から、小友小学校・三和小学校・新和小学校の統合について検討されており、両校の保護者や地域住民が積極的に地域の将来を考えて活動していることが確認されました。また、“伝統文化”や“まつり”など、多くの伝統行事が盛んに行われていたことが確認されました。地域の自慢としては、「りんごに携わる若い人が増加していること」、「公民館まつり」、「登山囃子保存会」など、多くの地域資源があることです。このようなことから、新和中学校区では、次のことを大切にまちづくりを進めていきます。

- ① 若者を集めるための“場”や“出会う機会”をつくって地域を活性化させる
- ② 各地区が連携して“獅子舞や登山囃子・ねぶた”などを維持もしくは復活させ、結束力を高める
- ③ 若い人の考えを積極的に取り込み、農業の発展や伝統文化の継承を大切にする

これから取組みたいこと（暮らしがより楽しめる地域にしていくために）

テーマ	取組み	具体的に何をするか？	優先度	誰がやるか？
スポーツ	ねらえ優勝“全国ねまり相撲大会”	新和地区は、昔からスポーツが盛んであり、特に、この地区の伝統である“ねまり相撲”をみんなで楽しんできた。そこで、全国大会として“ねまり相撲”大会を開催する。 ・第1回“全国ねまり相撲大会”	◎	公民館 (既存施設の有効活用)
	多世代間の交流	子どもから老人までの交流を増やすため、ゲートボールなどを行う。	◎	体育協会
イベント	夏祭りの発展	8月に行われる盆踊りや宵宮を大きく発展させる。 ・駐車場の整備 ・出店を増やす	◎	町会 青年部 消防団
伝統文化	ねぶた祭り	地元を活性化させるため、他の地区と協力して“ねぶた祭り”を開催する。 ・地域全体で積極的に取組む	◎	協議会、農協 PTA、体育協会
	獅子舞や囃子の復活	現在、地域の伝統であった“獅子舞と囃子”が無くなってしまった。地域の重要な文化である“獅子舞や囃子”を復活させる。 ・保存している囃子の復活	○	保存会
コミュニティ	“まちの駅”づくり	地域内の空き家が増えているので、空き家を活用して“まちの駅”をつくり、農産物などを販売する。 ・農業の後継者の育成 ・新たな販売方法の確立	○	地元住民 町会
	“集まりの場”づくり	空き家を活用して、地域の人々が集まる場所をつくり、地域の交流を深める。 ・ダンス、相撲、トランプ ・カクテルなど各種講座 ・若者が“集まる場”“出会う場”	△	地元住民 町会
雪対策	雪おろし隊の活動拡大	現在、雪おろし隊が地域で活動しているが、その活動範囲を拡大して暮らしやすい地域をつくる。	◎	町会 消防団

新和中学校区の価値観（地域の特徴や大事にしたいことは何か？）



新和中学校区の資源マップ（地域の自慢や課題はどこにあるか？）

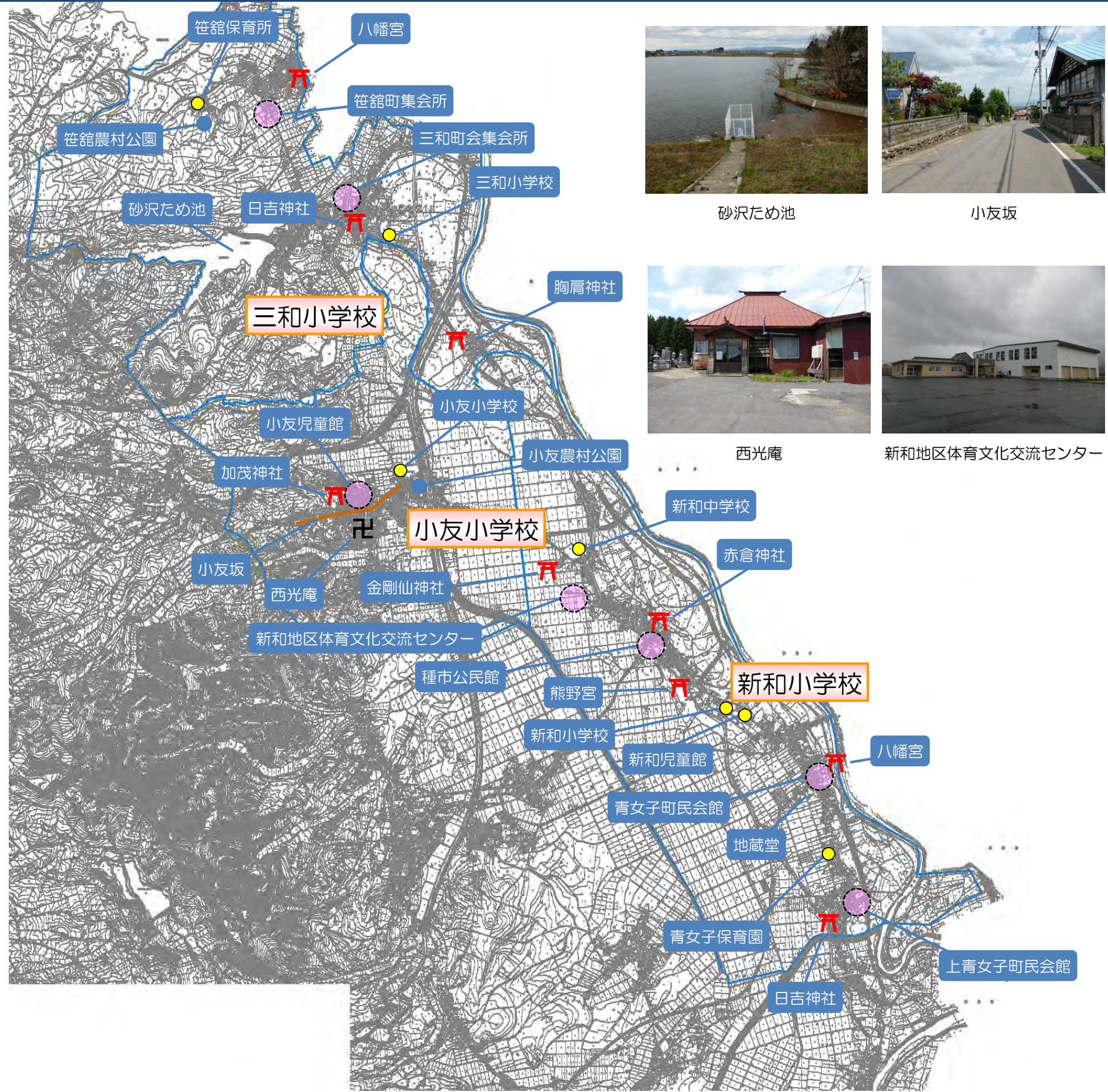
スポーツ	
①	ねらえ優勝 “全国ねまり相撲大会” ☆
②	多世代間の交流 ☆

伝統文化	
①	ねぶた祭り ☆
②	獅子舞や囃子の復活

雪対策	
①	雪おろし隊の活動拡大 ☆☆☆

イベント	
①	夏祭りの発展 ☆☆☆

コミュニティ	
①	“まちの駅” づくり
②	“集まりの場” づくり



砂沢ため池



小友坂



西光庵



新和地区体育文化交流センター

凡 例	
●	商業施設
●	医療施設
●	公民館・集会所
●	保育園・学校
卍	神社
卍	寺院
●	観光資源
●	活動
☆	優先度が高い取組み
☆	既存の取組をベースにした取組

2017 年度（平成 29 年度）

第五中学校区

第五中学校区

地域を自分たちの暮らすまちとして、皆で協力して、守り、育てていくため、弘前市では、「まち育て」という考え方のもと、市民の自主的な活動への支援や、各種計画の策定や事業実施における市民参加を進めています。

この地域別構想は、地域別のまち育てミーティングを通して地域にお住まいの皆さまの生のご意見をいただくとともに、地域の資源を生かしながら、住まい環境をより良いものにしていくために、具体的にどんな取組が必要か、どうしたら実現できるのかを皆さまと考えながら作成されました。

○まち育てミーティングにおける検討の流れ

第1部 地域の自慢を出し合い、地域の特徴を考えよう！

第2部 地域の自慢を磨き、地域の特長を生かしたまちづくりについて考えよう！

第3部 まちづくりの最初の一步を考えよう！



まち育てミーティングの様子

地域の取組みで大事にしたいこと

第五中学校区は、運動公園があることや地域の体育協会の組織がしっかりとしており、スポーツをする環境に恵まれている地域となっております。また、地域内に大きな病院や商業施設・学校があり、交通の便も良く若年世代が多くなってきていることや堀越城跡の整備も行われており、観光への取組みも進んでいることも確認できました。

その一方で、町会に加入する人や子供の減少によって地域のつながりが弱くなっていること、一人暮らしの高齢者や空き家も増えていること、交通量が多く渋滞の発生、通学路の危険性など地域の問題点も認識しました。

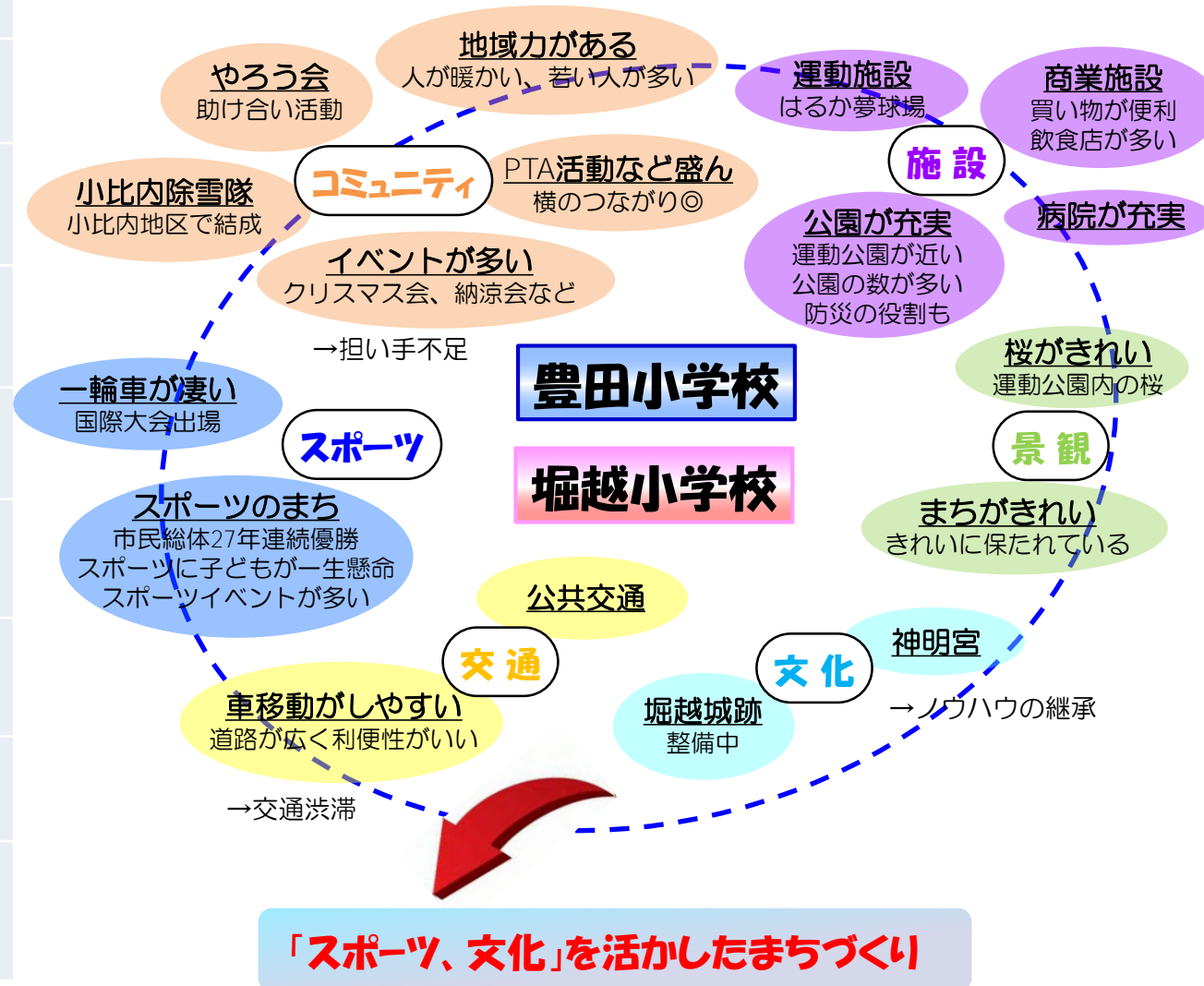
このようなことから、第五中学校区では、次のことを大切にまちづくりを進めていきます。

- ① 多世代間交流やイベントを通じて地域のつながりを強化する
- ② スポーツの町として、スポーツを通じて地域活動を活発にする
- ③ 地域の文化、歴史を活かして地域の魅力を向上させる

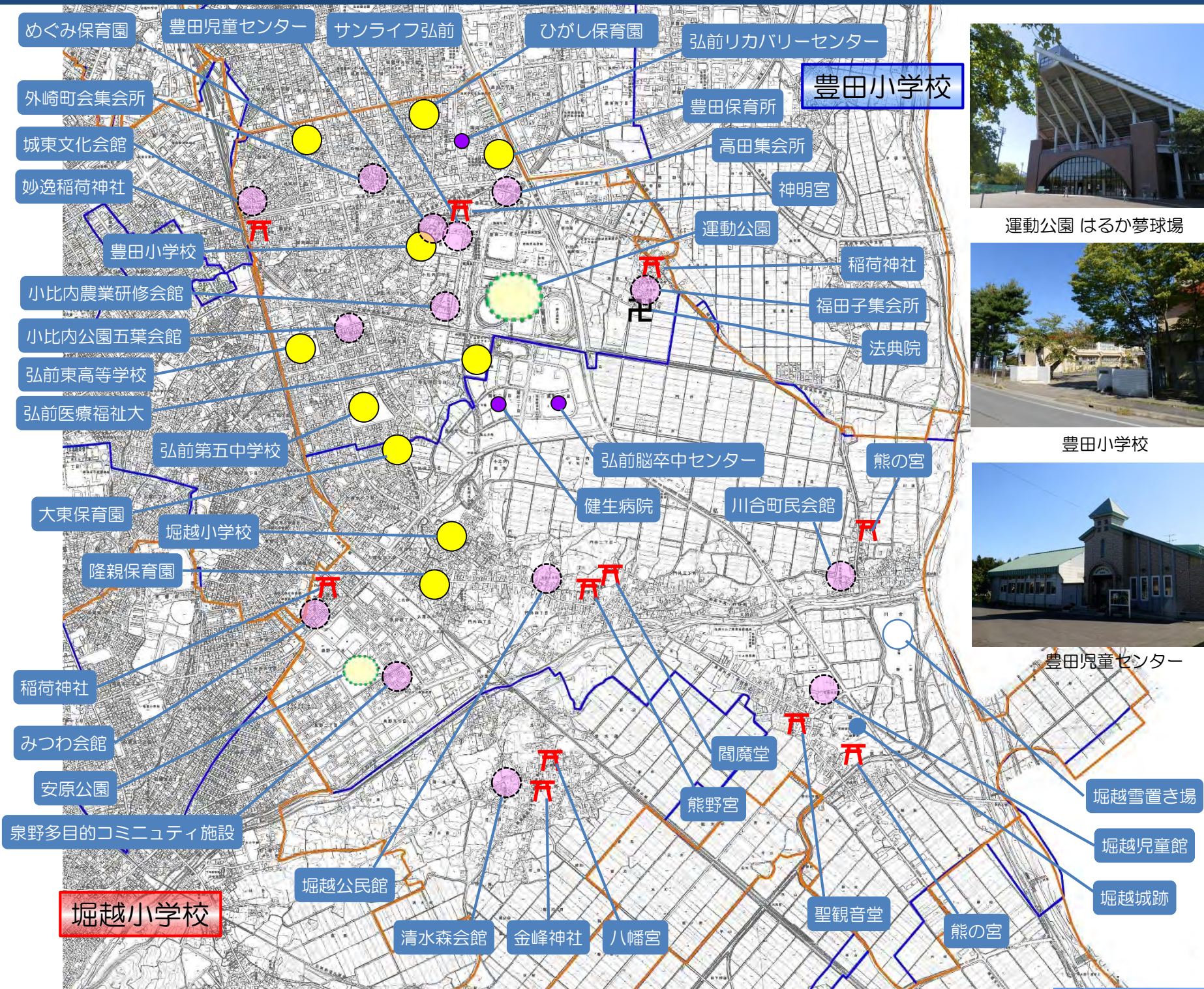
これから取組みたいこと（暮らしがより楽しめる地域にしていくために）

テーマ	取組み	具体的に何をするか？	優先度	誰がやるか？
コミュニティ	町会内の情報共有 町会の『見える化』推進	・町会のホームページ作成 ・町内会の役割分担 ・PTAなどの団体との連携強化	◎	町会
	地域活動の財源確保	・ハード整備への助成事業の活用 ・ねぶた運行	◎	町会 行政
交流	多世代間交流 地域学生との交流	・交流イベントの開催 ・高齢者教室への子供たちの参加 ・県外の人のためにねぶた運行	◎	町会 公民館
スポーツ	町会活性化のための町会対抗のスポーツ大会	・町会対抗運動会 ・ボウリング大会 ・野球、ソフトボール ・卓球、バドミントン など	○	体育協会 町会
文化	文化の継承～次世代へ～	・祭りなどのノウハウの継承	○	町会 公民館 神社
	地域マップの作成	・高齢者ガイド付きの史跡巡り	○	地域の高齢者 女性部
	堀越城跡地活用	・PRイベントの開催 ・駐車場整備	△	行政
	著名人の情報発信	・奈良岡正夫プロフィールづくり ・授業に取り入れる	△	公民館 学校 住民
雪対策	雪かきボランティアのルールづくり	・空き地の利活用 ・除雪機械の保管場所確保 ・PTAとの連携 など	△	消防団 民生委員 住民 事業者

第五中学校区の価値観（地域の特徴や大事にしたいことは何か？）



第五中学校区の資源マップ（地域の自慢や課題はどこにあるか？）



運動公園 はるか夢球場



サンライフ弘前



弘前東高前駅



豊田小学校



豊田児童センター

コミュニティ

①	町会の見える化	☆
②	助成事業の活用	☆

交流

①	多世代間・地域学生との交流	☆
---	---------------	---

スポーツ

①	町会対抗スポーツ大会	
---	------------	--

文化

①	祭りなどのノウハウの継承	
②	地域マップの作成	
③	堀越城跡地の活用	
④	奈良岡正夫さんを広めたい	

自然

①	雪かきボランティア	☆
---	-----------	---

凡 例	
● 商業施設	○ 公共施設
● 医療施設	⚡ 神社
● 公民館・集会所	⚡ 寺院
● 保育園・学校	⊙ 活動
● 観光資源	
☆ 優先度が高い取組み	
☆ 既存の取組をベースにした取組	



健生病院



弘前脳卒中センター



泉野多目的コミュニティ施設



安原公園



堀越城跡

2017 年度（平成 29 年度）

船沢中学校区

船沢中学校区



まち育てミーティングの様子

地域を自分たちの暮らすまちとして、皆で協力して、守り、育てていくため、弘前市では、「まち育て」という考え方のもと、市民の自主的な活動への支援や、各種計画の策定や事業実施における市民参加を進めています。

この地域別構想は、地域別のまち育てミーティングを通して地域にお住まいの皆さまの生のご意見をいただくとともに、地域の資源を生かしながら、住まい環境をより良いものにしていくために、具体的にどんな取組が必要か、どうしたら実現できるのかを皆さまと考えながら作成されました。

○まち育てミーティングにおける検討の流れ

- 第1部** 地域の自慢を出し合い、地域の特徴を考えよう！
- 第2部** 地域の自慢を磨き、地域の特長を生かしたまちづくりについて考えよう！
- 第3部** まちづくりの最初の一步を考えよう！

地域の取組みで大事にしたいこと

船沢中学校区は、岩木山の麓に位置し、自然環境に恵まれていて静かに安心して暮らせる地域であります。また、町内の協力意識も高く、一人暮らしの買い物への協力や除雪の協力など地域のつながりが強いことやスターキングの原木・金星の発祥の地、歴史遺産の中世の板碑群や瑞楽園等の地域資源があることも確認しました。

その一方、少子高齢化が進み、小学校廃校、高齢者の一人暮らしや空き家の増加等も見受けられ、働き盛りの世代の多くは町会活動等に割く余力が無く、つながりの意識は持っているものの実質的な地域コミュニティの後継者が手薄な状態であることも確認しました。

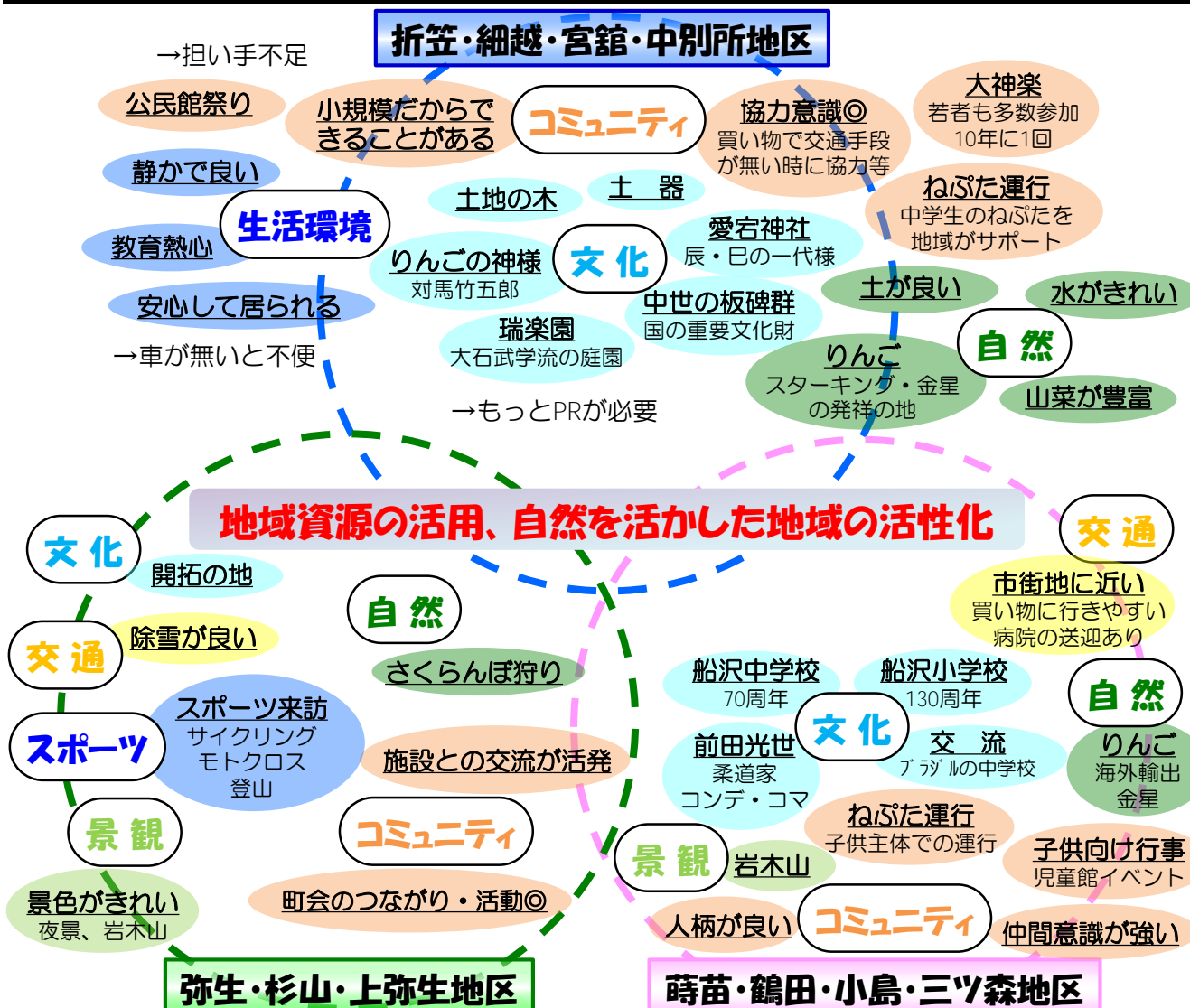
このようなことから、船沢中学校区では、次のことを大切にまちづくりを進めていきます。

- ① 歴史資源・地域資源を活かした地域づくりによる地域の活性化
- ② 豊かな自然を活かした特産物の販売や施設との協力による賑わいの創出
- ③ 農業教育や農業体験による後継者の育成

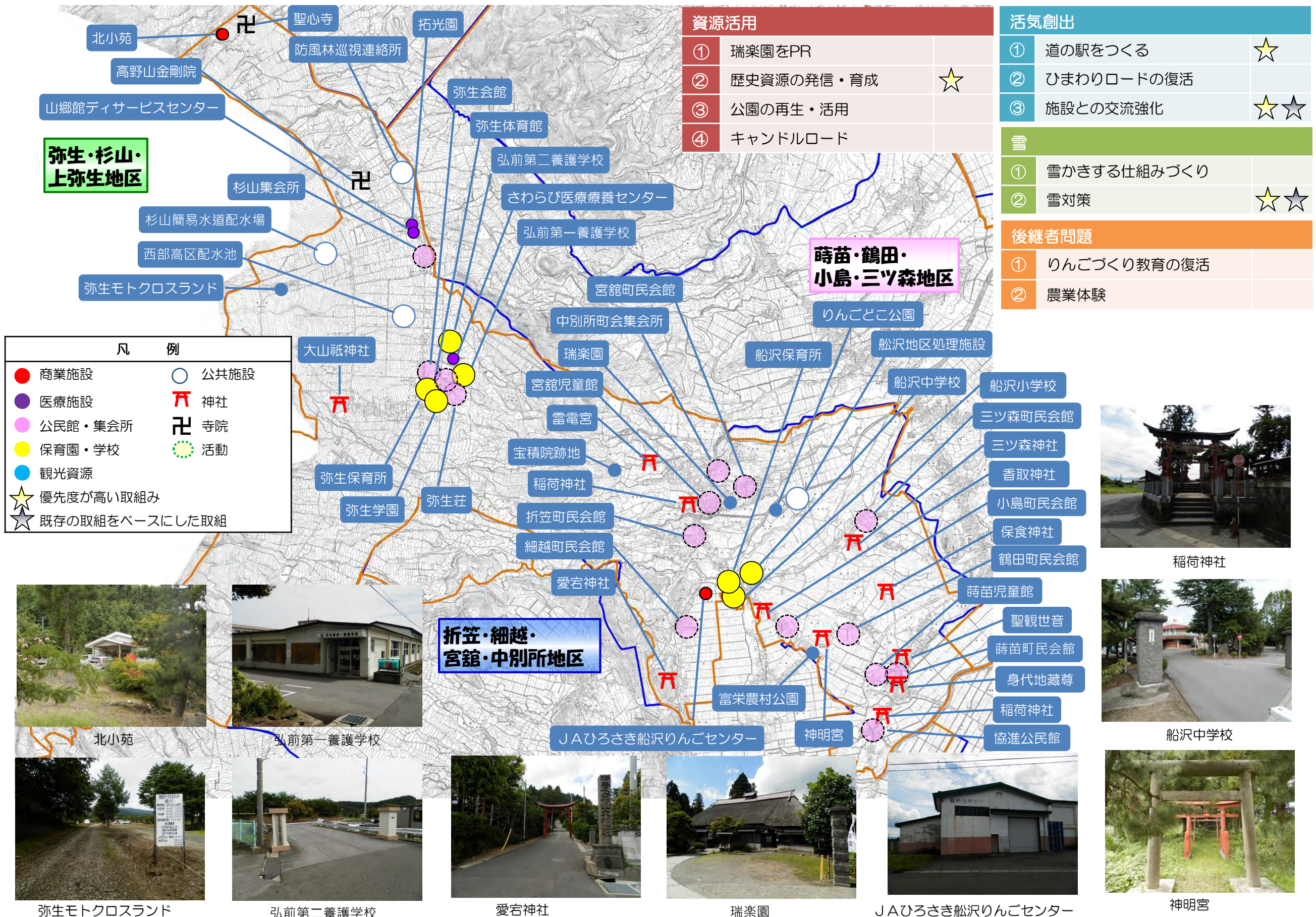
これから取組みたいこと（暮らしがより楽しめる地域にしていくために）

テーマ	取組み	具体的に何をするか？	優先度	誰がやるか？
資源活用	瑞楽園PR	・道路拡幅などの整備 ・瑞楽園の案内看板を設置 ・イベントの開催場所として活用	○	町会
	歴史資源の発信・育成	・子供たちにもわかりやすい歴史資源に関する小冊子を作成	◎	学校の先生(制作) 町会・住民(情報収集) 弘大の学生(協力)
	公園の再生・活用	・使用禁止となっている遊具類を撤去 ・広場として利活用	○	市役所(撤去) 町会(維持管理)
活気創出	キャンドルロード	・除排雪作業できた自宅前や近所の雪山を利用してキャンドルロードをつくる	○	町会 商店街
	特産物産直ショップ	・道の駅をつくる ・体験コーナーをつくる ・雇用創出 ・人材確保 ・出会いの場	◎	農協 有志住民
雪対策	ひまわりロード復活	・道の駅に向かう通りにひまわりを植える	○	農協青年部
	交流強化	・子供たちと協力して農作物づくりや工作などを作成して販売	◎	施設 住民
後継者問題	雪かきの仕組みづくり	・民生委員、町会、消防団、市役所で雪かき協議会などの団体を結成 ・雪かきに協力する仕組みづくりで担い手を確保	○	民生委員 町会 消防団 & 有志 市役所
	独居高齢者の雪かき	・町会単位で協力してくれる人を登録 ・除雪機に対する助成	◎	近所住民(除雪) 市(登録補助)
後継者問題	りんごづくり教育復活	・小・中学校に木を植えて、一年かけて育てる ・リンゴの収穫から販売までを体験 ・農業に触れる機会を増やす	○	市役所 住民
	農業体験の実施	・修学旅行生や農業に興味のある人を誘致	△	市役所 住民

船沢中学校区の価値観（地域の特徴や大事にしたいことは何か？）



船沢中学校区の資源マップ（地域の自慢や課題はどこにあるか？）



凡 例	
● 商業施設	○ 公共施設
● 医療施設	卍 神社
● 公民館・集会所	卍 寺院
● 保育園・学校	⊙ 活動
● 観光資源	
☆ 優先度が高い取組み	
☆ 既存の取組をベースにした取組	



北小苑



弘前第二養護学校



弥生モトクロスランド



弘前第二養護学校



愛宕神社



瑞楽園



JAひろさき船沢りんごセンター



稲荷神社



船沢中学校



神明宮

2017 年度（平成 29 年度）

南中学校区

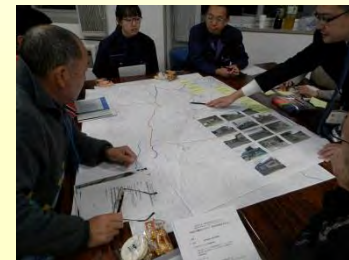
南中学校区

地域を自分たちの暮らすまちとして、皆で協力して、守り、育てていくため、弘前市では、「まち育て」という考え方のもと、市民の自主的な活動への支援や、各種計画の策定や事業実施における市民参加を進めています。

この地域別構想は、地域別のまち育てミーティングを通して地域にお住まいの皆さまの生のご意見をいただくとともに、地域の資源を生かしながら、住まい環境をより良いものにしていくために、具体的にどんな取組が必要か、どうしたら実現できるのかを皆さまと考えながら作成されました。

○まち育てミーティングにおける検討の流れ

- 第1部** 地域の自慢を出し合い、地域の特徴を考えよう！
- 第2部** 地域の自慢を磨き、地域の特長を生かしたまちづくりについて考えよう！
- 第3部** まちづくりの最初の一步を考えよう！



まち育てミーティングの様子

地域の取組みで大事にしたいこと

南中学校区は、松原小学校区、大和沢小学校区、千年小学校区と広範囲にわたっています。松原小学校区は弘前市の中心部に近く、学校や病院・商業施設などが多くありますが、交通量が多く渋滞や事故の発生も多く見られます。千年地区・大和沢地区は自然が豊かで山と川の恵みがあり、季節毎の景観もすばらしく、また祭りなどの町会活動も活発な地域であります。

その一方で、一人暮らしの高齢者が増えてきており、雪かきや雪捨て場の確保などの雪対策が問題となっていることや町会に加入しない若年世代が増えてきていることで担い手不足の問題などが見られます。

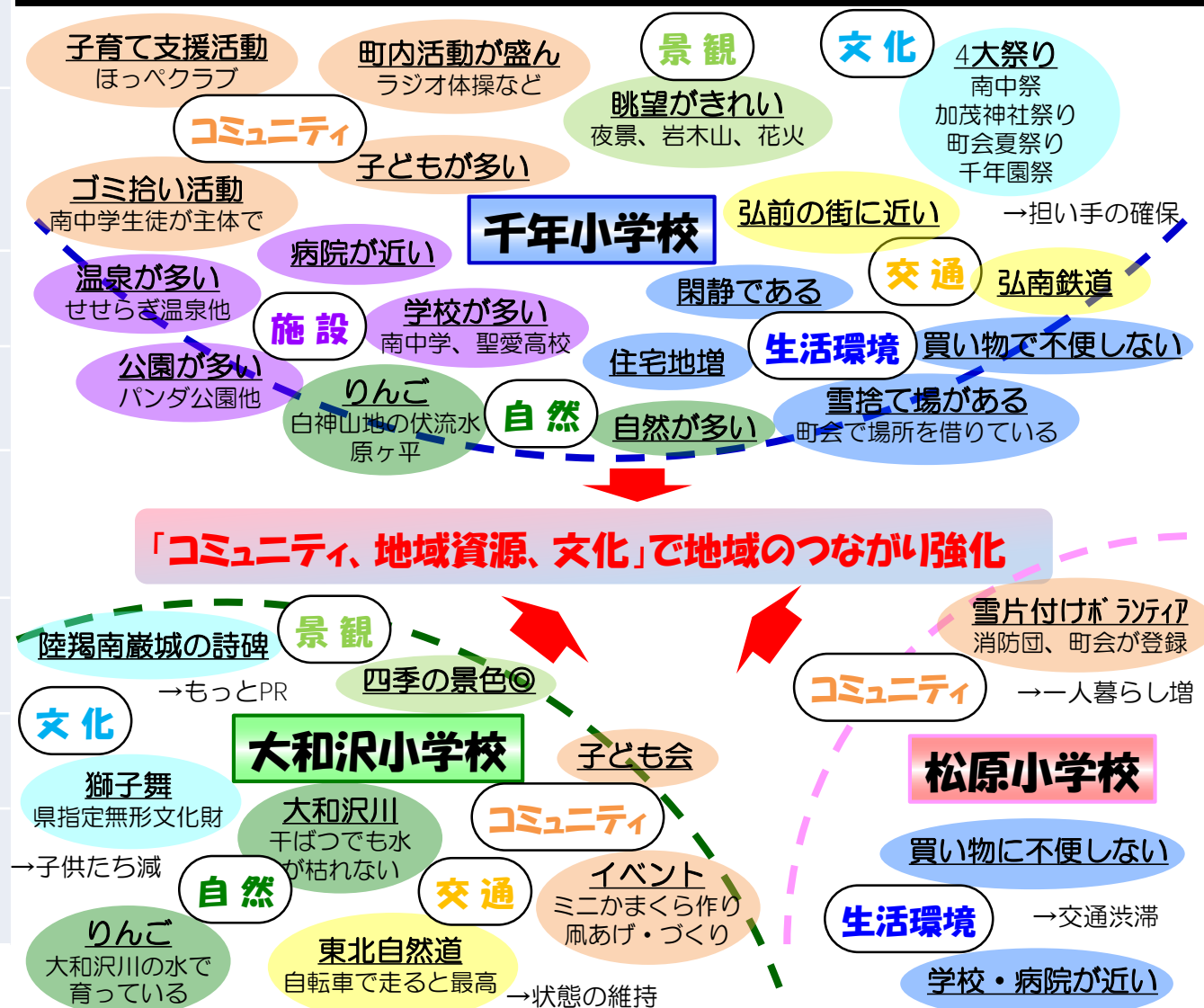
このようなことから、南中学校区では、次のことを大切にまちづくりを進めていきます。

- ① 行事・子供会等を活用し、イベントの積極的参加を促して地域のつながりを強化
- ② 豊かな自然を活かした観光拠点の整備
- ③ ボランティア活動を通じて住環境を整える

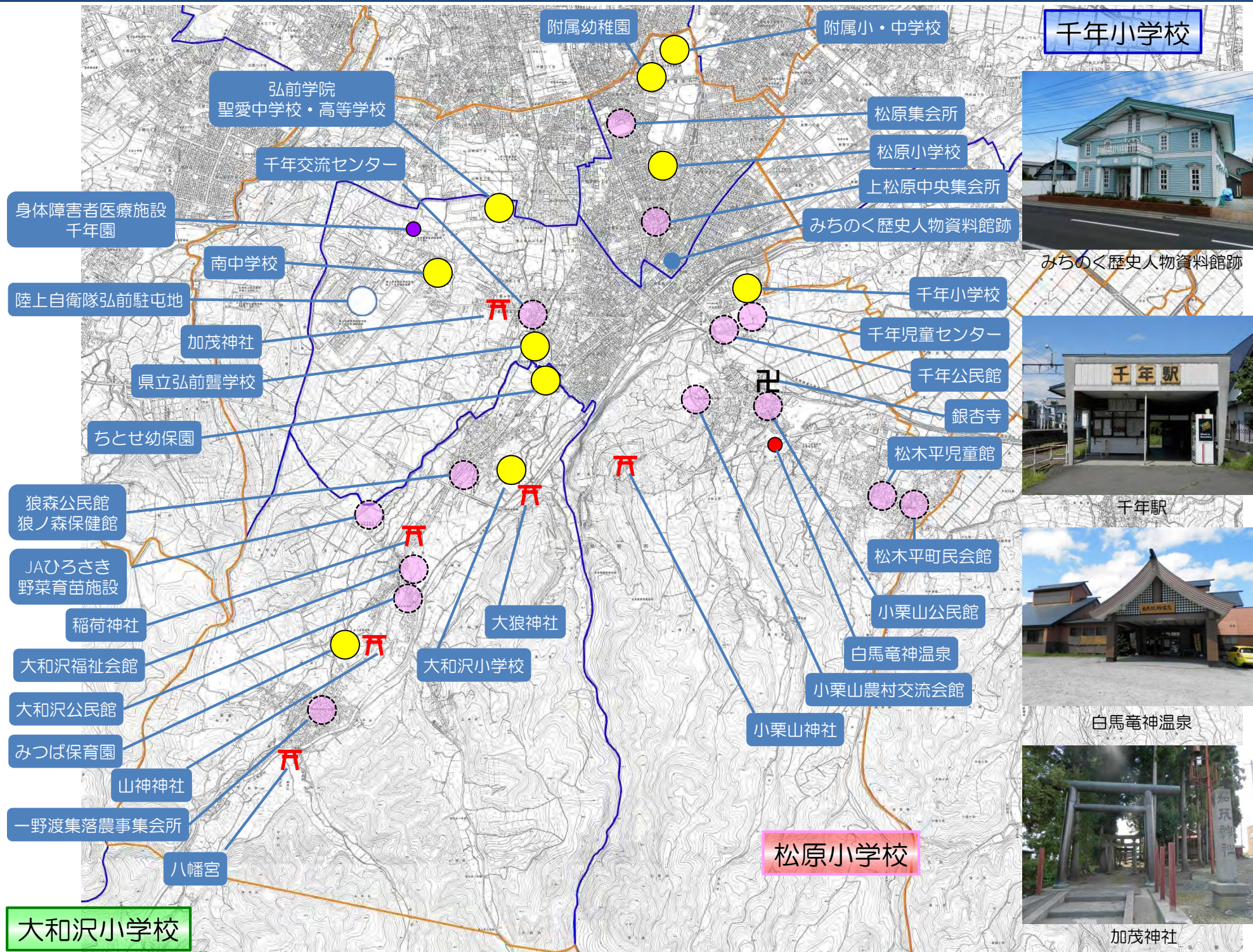
これから取組みたいこと（暮らしがより楽しめる地域にしていくために）

テーマ	取組み	具体的に何をするか？	優先度	誰がやるか？
コミュニティ	ネットを利用した情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ作成 町会誌のネット配信 町会連絡をFacebook など 	◎	町会(作成) 市役所(補助)
	子供たちと一緒に楽しめるイベントの開催	<ul style="list-style-type: none"> 運動会、ねぶた、料理教室 凧揚げ大会 陸羯南石碑を利用したイベント 雪を活用した「ゆきあそび」のイベント 	◎	町会 子供会 PTA
	集会施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> 空き家を集会所に利活用 維持管理は地域住民 	△	町会 市役所
	高齢者支援のシステムづくりを行う	<ul style="list-style-type: none"> 買い物、ゴミ捨てなどの役割分担 雪かきボランティアと連携したシステム 	○	町会 民生委員 消防団
地域資源	川遊びや釣りなどで遊べる環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 川辺広場の整備 河川清掃、草刈り 蛭の住める環境整備 魚のつかみ取り など 	△	町会 市役所 子供会
	座頭石復活	<ul style="list-style-type: none"> 座頭石の釣り堀やキャンプ場の復活 市民へのPR 清掃活動 	◎	町会 老人クラブ
文化	県指定無形文化材の獅子舞の継承	<ul style="list-style-type: none"> 小学生への指導 	○	保存会 学校
雪対策	雪かきボランティアの継続	<ul style="list-style-type: none"> 雪かきボランティアの新たな組織づくり 空地の利活用 貯水槽(池)の利活用 	○	消防団 町会 民生委員

南中学校区の価値観（地域の特徴や大事にしたいことは何か？）



南中学校区の資源マップ（地域の自慢や課題はどこにあるか？）



コミュニティ	
① ネットを利用した情報発信	★
② イベントの開催	★★
③ 集会施設を整備	
④ 高齢者支援のシステムづくり	

地域資源	
① 川辺広場の整備	
② 座頭石を復活させたい	★

文化	
① 県指定無形文化財の獅子舞の維持	★

雪対策	
① 雪かきボランティアの継続	★

凡 例	
● 商業施設	○ 公共施設
● 医療施設	⚡ 神社
● 公民館・集会所	⚡ 寺院
● 保育園・学校	⦿ 活動
● 観光資源	
★ 優先度が高い取組み	
☆ 既存の取組をベースにした取組	



2018 年度（平成 30 年度）

東中学校区

2018 年度（平成 30 年度）

北辰中学校区

北辰中学校区

地域を自分たちの暮らすまちとして、皆で協力して、守り、育てていくため、弘前市では、「まち育て」という考え方のもと、市民の自主的な活動への支援や、各種計画の策定や事業実施における市民参加を進めています。

この地域別構想は、地域別のまち育てミーティングを通して地域にお住まいの皆さまの生のご意見をいただくとともに、地域の資源を生かしながら、住まい環境をより良いものにしていくために、具体的にどんな取組が必要か、どうしたら実現できるのかを皆さまと考えながら作成されました。

○まち育てミーティングにおける検討の流れ

- 第1部** 地域の自慢を出し合い、地域の特徴を考えよう！
- 第2部** 地域の自慢を磨き、地域の特長を生かしたまちづくりについて考えよう！
- 第3部** まちづくりの最初の一步を考えよう！



まち育てミーティングの様子

地域の取組みで大事にしたいこと

北辰中学校区には、鬼沢の裸参り、鬼神社の七日堂祭（二十九日堂祭）などの市指定無形民俗文化財、独狐の森公園や住吉の身代地蔵尊にある保全樹木（ハリギリ）などの地域資源がたくさんあることを確認できました。また、ねぶた運行や公民館祭りなどの地域活動も積極的に行われている地域であることもわかりました。

その一方で、地元の人でも地域について知らないことが多かったり、少子高齢化により町会同士の繋がりが若い世帯との付き合いが希薄になっていること、通学時間帯のバスが無くなったことなどの地域が抱える問題点についても認識できました。

このようなことから、北辰中学校区では、次のことを大切にしまちづくりを進めていきます。

- ① 地域の歴史や魅力を再確認して、若い世代に伝えていく
- ② 地域の魅力や情報について共有し、地区外に発信する
- ③ 今ある資源を活かして地域を活性化させる

これから取組みたいこと（暮らしがより楽しめる地域にしていくために）

テーマ	取組み	具体的に何をするか？	優先度	誰がやるか？
地域資源	地域勉強会	<ul style="list-style-type: none"> • 子供会の夏期研修で地域資源ツアー(スタンプラリー)を開催 • 地域に伝わる昔話(地区名の由来など)の伝承 	◎	町会 育成委員 子供会
	独狐の森公園をPR	<ul style="list-style-type: none"> • 市広報に表紙や紹介の特集で載せてもらう • 地区内外の人を対象に写真コンテストを開催し、公民館まつりで表彰(公園から見た岩木山などをテーマに) • インターネットを活用して情報発信(映画のロケ地、風景など) 	◎	市 公民館 町会
	高長根レクリエーションの森の復活	<ul style="list-style-type: none"> • キャンプ場として利用 (※火気使用可能とし許可制など防災や安全面に配慮する) • イベント会場として利用 	△	町会(要望) ↓ 市(整備)
	公民館の活用	<ul style="list-style-type: none"> • 高杉公民館で行っているコーヒー教室をPR 	◎	公民館 コーヒー教室 主催者
農業	遊休農地の活用	<ul style="list-style-type: none"> • 個人や企業への貸与 • 農作物の作付けと空き家をセットでの貸出 	○	農協 町会 個人
暮らし	空き家の利用	<ul style="list-style-type: none"> • さくらまつりやねぶたまつりの時期に民泊利用 	△	個人 町会
	通学手段の確保	<ul style="list-style-type: none"> • 乗合バス、タクシーを活用 • 地区の人たちで協力して送迎 • 地区から各校までのスクールバス 	◎	町会(要望) ↓ 行政・企業

北辰中学校区の価値観（地域の特徴や大事にしたいことは何か？）

